

自序

唐虞邈矣。三代逝矣。詩書可以徵己。至春秋之世。左氏載之。於戰國以降之事。則斯書詳之。而至秦漢之際。最丁寧焉。蓋遷先後其世而出。目視耳聽而記之。其明確詳著固當然矣。而其行文之妙。與左氏相伯仲。而彼則據經制義。此則就事立論。縱橫自如。恣筆力之所到而

止。故余常曰。左氏之文。簡嚴明肅。有君  
子之風。司馬氏之文。雄健激發。有名將  
之風。蓋遷身罹刑禍。以憤々之心行之。  
宜矣。其感慨悲壯。俯仰嗚咽。能使人喜  
人悲也。但遷之學。雜博無統紀。其進黃  
老而絀儒者。罪之大者。然當漢初之時。  
承燔書之餘。聖學不明。以董之醇。不能  
無小疵。况其下者乎。豈特遷矣哉。縱令

其有罪。其遺文。爭光日月。千載之下。赫  
赫不滅。則雖志屈當代。辭伸後世。於遷  
可莫憾焉。去冬。書賈今古堂瀧川氏欲  
國字譯其列傳。以投時好也。諸乞于余。  
余也。才劣學淺。加旃彼之文。一字收其  
餘韻。而我之文。則不然。况以淺劣之才。  
譯千古之大手筆乎。欲辭數四。不敢辭  
者。余少小嗜斯書。誦讀弗置。今老矣。及

觀之恍如隔世。不一二記。追想往時。弗能無感。所不敢辭者。爲此也。乃屬稿。至今春三月之終。而全卒業。世之觀斯書者。從其委而窮其源。得司馬氏之骨髓。予有望矣。適徵序。乃辯數言於卷端。以與之。

明治二十二年夏四月 或齊潛撰



孫武  
そんぶ



老子  
らうし



管仲  
くわんちゆう

子貢



伍子胥



吳起



張  
儀  
ちやう  
ぎ

蘇  
秦  
そ



商  
鞅  
しやう  
あつ



范雎  
はんすい



范雎  
はんすい

孟子  
まう



廉頗  
れんぱん



田單  
たんだん

樂毅  
がくぎ





韓信



賈誼



屈原

公孫弘  
こうそんこう



李廣  
りこう

酈食其  
れきめき



叔孫通  
しゅんつう

樊噲  
はんたい



東方朔

董仲舒



凡例

一 此書を譯するは固より兒童の爲かれ  
ハ或ハ本文を引伸シ或ハ省略して務  
て解し易きを主とせ

一 屈原及び司馬相如の賦の如きは實に  
大手筆なりと雖ども初學に解あかた  
く當時ニ益なき故に之を省く龜策傳  
も同前なるを以て載せず讀者諒せよ  
一 漢語の譯しがたく引伸しがたき者は

本邦の俗語を以て假名を下せり其假名に續りて其意を了すべし

一此書を専ら講解の爲にすと雖ども傍素讀に便ならんを欲し務て原書の文字を保守せり觀る者其意を知るべし

史記列傳目錄

- 輸入通俗
- 伯夷列傳第一
- 管晏列傳第二
- 管仲 ● 晏嬰
- 老莊申韓列傳第三
- 老子 ● 莊子 ● 申不害 ● 韓非
- 司馬遷荳列傳第四
- 孫子吳起列傳第五
- 伍子胥列傳第六
- 仲尼弟子列傳第七
- 商君列傳第八
- 蘇秦列傳第九
- 附 ● 蘇代 ● 蘇厲
- 張儀列傳第十
- 附 ● 陳軫 ● 公孫衍
- 樗里子甘茂列傳第十一
- 樗里子 ● 甘茂

史記列傳目錄

- 穰侯列傳第十二
- 白起王翦列傳第十三
- 孟子荀卿列傳第十四
- 附 ● 騶衍 ● 淳于髡 ● 慎到 ● 鶡冠
- 孟嘗君列傳第十五
- 附 ● 馮驩
- 平原君虞卿列傳第十六
- 信陵君列傳第十七
- 春申君列傳第十八
- 范雎蔡澤列傳第十九
- 樂毅列傳第二十
- 廉頗藺相如列傳第二十一
- 附 ● 趙奢 ● 李牧
- 田單列傳第二十二
- 魯仲連鄒陽列傳第二十三
- 屈原賈誼列傳第二十四
- 呂不韋列傳第二十五

史記列傳目錄

◎刺客列傳第二十六

●曹沫 ●專諸 ●豫讓 ●聶政 ●荆軻

◎李斯列傳第二十七

◎張耳陳餘列傳第二十九

◎魏豹彭越列傳第三十

◎黥布列傳第三十一

◎淮陰侯列傳第三十二

◎韓王信盧館列傳第三十三

附 ●陳豨

◎田儻列傳第三十四

◎樊鄴列傳第三十五

附 ●樊噲 ●鄴商

●夏侯嬰 ●灌嬰

◎張丞相列傳第三十六

附 ●周昌 ●趙堯 ●任敖 ●申屠嘉

◎酈生陸買列傳第三十七

附 ●朱建

◎傅寬酈成列傳第三十八

附 ●周緤

◎劉敬叔孫通列傳第三十九

◎季布欒布列傳第四十

◎袁盎鼂錯列傳第四十一

◎張釋之馮唐列傳第四十二

◎萬石君張敖列傳第四十三

附 ●衛綰 ●直不疑 ●周文

◎田叔列傳第四十四

◎扁鵲倉公列傳第四十五

◎吳王濞列傳第四十六

◎魏其武安列傳第四十七

附 ●灌夫

◎韓長孺列傳第四十八

◎李將軍列傳第四十九

附 ●李陵

◎匈奴列傳第五十

◎衛將軍驃騎列傳第五十一

附 ●公孫賀 ●李息 ●公孫敖

●李沮 ●張次公 ●蘇建

●趙信 ●張騫 ●李蔡 ●曹襄

●韓說 ●郭昌 ●趙食其

●荀彘 ●路博德 ●趙破奴

◎平津侯列傳第五十二

附 ●主父偃

◎南越列傳第五十三

附 ●蒼梧王趙光

◎東越列傳第五十四

◎朝鮮列傳第五十五

◎西南夷列傳第五十六

◎司馬相如列傳第五十七

◎淮南衡山列傳第五十八

◎循吏列傳第五十九

●孫叔敖 ●鄭子產 ●公儀休

●石奢 ●李離

◎汲鄭列傳第六十

●汲黯 ●鄭當時

◎儒林列傳第六十一

●申公 ●轅固生 ●韓生 ●伏生

●董仲舒 ●胡毋生

◎酷吏列傳第六十二

●郅都 ●寧成 ●周陽由 ●趙禹

●張湯 ●義縱 ●王溫舒 ●尹齊

●楊僕 ●滅宣 ●杜周

◎大宛列傳第六十三

附 ●烏孫 ●康居 ●奄蔡 ●大月氏 ●安息 ●條枝 ●大夏

◎游俠列傳第六十四

●魯朱家 ●劇孟 ●郭解

◎佞幸列傳第六十五

●鄧通 ●韓嫣 ●李延年

史記列傳目錄

◎滑稽列傳第六十六

●淳于髡 ●優孟 ●優旃

◎日者列傳第六十七

◎貨殖列傳第六十九

●范蠡 ●計然 ●子貢 ●白圭

●倚頓 ●烏氏 ●蜀卓氏 ●程

●鄭 ●宛孔氏 ●刁間 ●師史

●任氏

◎太史公自序第七十

通俗 史記列傳目錄終

通俗史記列傳

東京 永阪 或齋 編

特12  
760

伯夷列傳第一

夫學者載籍極博猶信六藝又考詩書之二經殘缺せしと雖も虞夏二世の文知べききあり堯  
 帝將位を遜んじ虞舜譲る舜禹の間四岳群牧咸く之を薦しかん乃之を位に試む職を典  
 ると數千年功用既又興り然る後政を授たり是天下の重大の器物にして王者の生民の上を繫る大  
 統を承れば天下を傳ふるかく難き者ありと云ふことを示す者なり而るを諸子の雜記より堯天下を許  
 由に讓る許由受ず之を耻て地隱せりと夏の時及びて十隨務光と云者あり此人の何を以て稱せ  
 られたる太史公が曰く余箕山に登るの山上に許由の冢あり其人なきよのあらざるべし孔子  
 古の仁聖賢人を序列する吳の太伯伯夷の倫の如き甚だ詳かあり然れども一言の許由務光及び  
 べるとおし余が聞く所を以てするよ兩人の義至て高き者にして今其文辭の少しも概見せざるの  
 何ぞや是深く惜むべし伯夷の事孔子の言よ伯夷叔齊の舊惡を念ず怨是を用て稱あり又曰仁を  
 求て仁を得たり又何ぞ怨んやと余伯夷の意を悲むも其采薇の軼詩を睹て異むべし其傳又曰く伯  
 夷叔齊の孤竹君の二子あり父弟の叔齊を立んと欲せしよ父の卒するよ及で叔齊兄乃伯夷と國と  
 譲りけるよ伯夷の父の命なりとて受す思ふよ吾のかくて有んよの叔齊決して位を繼じと遂に逃

通俗史記列傳

去より叔齊も亦立て位より即とを肯せずして逃れ去りけり國人是非なく其中子を立て若とあしぬ斯て伯夷叔齊の兄弟の西伯周侯昌の善老者を養ふ聖君なるを聞及ひ盡う往て歸せざるに及て至るよ及て西伯の己よ卒せり其子武王其父西伯の本主を載て号して文王と爲し東の方般の紂王を征伐しぬ伯夷叔齊之を見て武王の馬を叩て諫めけるの父死して葬らず爰よ干戈を執て戰陣よ臨心孝と云へきか紂の無道なれども是君なりざるを臣として之を伐忠と云へきか此事思ひ止まり玉へかしと言ふよ左右の兵士等の軍陣の妨するの不吉なりとて之を斬んと爲しけれの太公望之を留て此人事變よ達せざるも義人と云ふへき者よこりとして扶出して去しめけり武王一戦よ般の紂王を打滅し天下擧て周の武王を天子と尊ける故伯夷叔齊大よ之を取吾聞古の士治世よ遭の其任と避す乱世よ遇の苟も存するを爲す今天下闢く周の徳衰へたり然を周と並び立の吾身を塗泥よ置者なり之を避て吾行を潔するよ若すどて周の粟を食のす首陽山よ隠れ微を採て之を食ひ且よ餓死せんとするよ及ひて詩を作ける其辞よ曰く

登彼西山兮 采其薇矣  
 不飲水兮 飲之也  
 伯也自天 不可及也  
 嗚呼哀哉 予嗟徂兮

命之衰矣

之を歌ひて遂よ首陽山よ餓死したり此よ由て之を觀よ怨たるか非か或人の曰く天道親をし常よ

善人よ與す伯夷叔齊の如きの善人と謂へき者か非か仁を積行を潔するかくの如くよして餓死せり且孔子の門人七十子の徒仲尼獨顔淵を薦て學を好むと爲玉ひしも然れども回也屢々空し體糠よたも厭す而して卒よ蚤夭せり天の善人よ施報何如ある心ぞや盜跖の如きの日よ不幸者を殺し人の肝を膾よし兇暴惡戾心を恣よし目を怒し徒党を聚ると數千人天下よ横行せしも竟よ天年を全くし長壽よて身を終たり是何の徳よ遵ひて然るや此二人の幸不幸の其尤も大よ彰明較著なる者あり近世よ至るが如き操行不軌專忌諱を犯して終身の間逸樂し富厚累世よして絶ざる者あり或の地を擇て之を踏み時を見て言を出し行よ徑よ由す公正よ非れの憤りを發せず然るよ禍災よ遇者數ふるよ勝べからず此等の事よ至りての余甚だ感ぬ儻の天道の是耶非耶子曰く道同しからざれば相爲よ謀らず各々其志よ從ふのみ故よ孔子曰富貴如求む可ん執鞭の賤きと雖も吾の之を爲ん如し求むべからずんば吾好む所の古人の道よ從はん歳寒して松柏の凋よ後るを知ると云へり世擧て混濁よして清士乃ち見る豈其讓徳の重を彼か如く其餓死の輕と此の如くなるを以てか君子の死後よ名の稱せられざるを疾む賈誼云へるとあり貪夫の身を以て財よ徇ひ烈士の身を以て名よ徇ふ夸者の權よ死し衆庶の生を馮む同明相照し同類相求む雲の龍よ從ひ風の虎よ從ふ聖人作て万物觀る伯夷叔齊賢なりと雖も孔子よ由て而して名益彰る顔淵篤學ありと雖も孔子の驥尾よ附て而して行ひ益々顯る巖穴隱居の士趨向廢會時あるを知るべし此の如きの類





姓名隠滅して稱せられざるの悲ひかな閭巷の人行を礪名を立んと欲する者皆雲の士に附し非れば惡う能名を後世に施すとを得んや

管晏列傳第二

管仲夷吾の穎上の人にして姫姓の後管嚴仲の子なり少き時常と鮑叔牙と遊ぶ鮑叔之より由て能管仲の賢なることを知居り管仲貧困なる故に常と鮑叔を欺きて財利を貪り取れども鮑叔決して之を怒らず始終善之を遇ひ少しも言ふ見ささりき己にして鮑叔の齊の公子小白の事へ管仲の公子糾の事へけるか小白を立て桓公と爲し及び公子糾の死し管仲の囚れける鮑叔遂に管仲を桓公に進めけり管仲既ち用ひられ政を齊國に任じ齊桓公覇とあり九たび諸侯を合ひし一たび天下を匡し皆管仲の謀なり管仲嘗て云けるに吾始困窮ありし時嘗て鮑叔と共し賈ひを爲し其利得を自ら多く分ち取れども鮑叔我を以て貪欲かりとあさす吾貧きを知る故あり吾嘗て鮑叔か爲し事を謀て成す更し窮困あしたるに鮑叔我を以て愚鈍なりと爲さず時と利と不利と有るを知る故なり吾嘗て三たび仕て三たび君を逐れたり鮑叔吾を以て不肖と爲さず我時と遇さるを知る故なり吾嘗て三たび戦ひて三たび逃たり鮑叔我を以て怯と爲さず我は老母有るを知る故なり公子糾敗る召忽之より死したるに吾の幽囚せられて恥辱を受たり叔鮑我を以て耻無しとあさす吾小節を羞ずして功名の天下に顯れざるを耻るを知る故あり我を生者の父母我の心を知者の鮑子ありとて

最懇と接遇しける鮑叔既ち管仲を桓公に進て身を以て之を下り子孫世々齊國に祿せられ封邑を有ると十餘世及び常と名大夫爲り天下管仲の賢を多とせずして鮑叔の能人を知ると多とせしむるに及ばば管仲既ち政事を任じ齊國に宰相たり區々たる齊國を以て海濱に僻在し貨を通じ財を積國を富し兵を強くし風俗と好惡と同ふす故に管仲の著す所の管子の書は倉庫實て禮節を知り衣食足て榮辱を知る上の服御制度ある時の六親堅固あり禮義靡恥の四維張る時の一國滅亡すと言たり命令を下すと流水の原の如く民の心は順ふを以て第一とす故に其論卑して行ひ易し俗の欲する所の因て之より予へ俗の否とする所の因て之を去つ其政事を爲す善禍は因て福と爲し敗を轉じて功と爲す錢の輕重を貴ひ權衡を慎むとを第一とせり桓公夫人少姬を蔡へ歸して未だ絶ざるに蔡侯之を他より嫁せしを怒り南の方蒸を襲ひしを管仲因て楚を伐て包める茅を貢として王朝へ入るへきを其職を缺たると責しかり楚人恐れて盟を受ぬ桓公實に北の方山戎を征伐して其地を掠んと爲しけるを管仲因て燕國を責て其先祖召公の善政を修むるとを以せり柯と云土地の會盟に桓公魯國の曹沫より劫され後より約を背かんとせしを管仲其言を信よせり斯君の過を救ひ天子と翼て政を爲しかり諸侯皆齊に歸しぬ故に老子も與ふるの取たるを知るに政の實なりと云ふ杯臺を造りたり齊人其功の高きを因て侈と爲ものなかりけり齊國永く管仲の政法よ遵

通俗史記列傳



晏子驂ヲ脱  
テ賢士ノ罪  
ヲ贖フ圖



八  
の美を以て將順ひ君の惡を以て匡救ふと豈管仲の謂か晏子其君莊公の大夫崔杼も弑せらる、時其尸を伏して之を哭し禮を成し然る後去り方りて豈所謂義を見て爲さる勇なき者か其諫説し君の顔を犯すに至りて此所謂進ての忠を盡んとを思ひ退きての過を補ふとを思ふ者あるか假晏子よして今尙在しめり之か爲は僕隸と爲りて鞭を執るといへとも吾忻ひ慕て其賤役を爲へきのみ

老莊申韓列傳第三

老子の楚國の苦縣陽郷曲仁里の人なり母懷胎すると八十一歳李の樹の下に逍遙てありしよ左の腋腹を割て生れたり姓の李名の耳字の伯陽諡して聃といふ身材八尺八寸顔色黄眉美のしく耳長く目大く額廣く齒疎く口方よして脣厚し一箇異相の人物なりと云傳ふ周の天子の守藏室の史となり尤も三代の禮法を委し孔子少き時周は適き禮を老聃も問んとし玉ひしよ老子か曰く子の問所の者其人と骨と皆已朽たり獨其言殘れるのみ且君子たる者の其時を得れば車馬駕し冕を服して志を行ひ其時を得されの蓬轉流移して行んのみ吾之を聞けり良買の深く其貨物を藏して虚きか如く君子の盛ある徳ありて容貌の反て愚人の如くある者あり因て子か驕氣と多欲と態色と淫志とを去へし是皆子の身は益なし吾か子よ告る所以の是の如くなるのみと孔子去りて弟子よ宣ひけるの鳥の吾其能飛とを知る魚の吾其能遊とを知る獸の吾其能走るとを知

天々 andro jolla

る走る者の以て網するを爲すへし遊く者の以て綸するを爲すべし飛者の以て矰を爲すへし龍に至りての吾其風と雲とを乘して天よ升るを知る能す吾今日老子を見るよ其猶龍の如き者か老子道徳を修む其學自ら隠し名なきを以て務めとなす周は居と久ふして周の衰へたるを見て乃ち遂に去て散關と出んとせしを關の令なる尹喜と云ふ人老子を留て子今將に隠れんやす強て我か爲は書を著せと乞しかり廻ち書上下篇を著作し道徳の意を言ふ五千餘言よして去りける終る所を知らず或いふ關令の尹喜の周の大夫なり内學星宿の術は精し老子西よ遊ふ紫氣の關よ浮ふを望見して異人の來ることを知り物色して老子の青牛よ乘て過るよ遇り老子之を奇として之か爲は書を著せり老子と俱は流沙の西よ之き勝實を服具す其終る所を知るとかし此人も亦書九篇を著し關令子と名たり或の曰老萊子も亦楚人なり書十五篇を著し道家の用を言ふ孔子と時を同ふすと云ふ蓋老子の百有六十餘歳或の二百餘歳と言ふ其道を修めて壽命を養ふを以ての故は斯壽を保けるなりと云孔子死するの後より百廿九年よして史記周の太史儋秦の獻公と見て始め秦周と離れ離れて五百歳よして復合ひ合て七十歳よして霸王たる者出んと或の曰儋の老子なりと或曰非なり世其然るや否やを知るとなし老子の隱君子なり老子の子名の宗宗の魏の大將と爲り段干よ封せらる宗の子注々の子宮々の玄孫假々の漢の孝文帝よ仕ふ而して假の子解膠西王印の太傅の官と爲り因て齊は家せり世の老子を學ぶ者の則儒者を繼く儒者も亦老子を繼く

通俗史記列傳

遣同からされの相爲と謀すと豈是を謂か李耳の學たる無爲よして自ら化し清静よして自ら正し一  
 莊子の宋國の蒙と云地の人あり名の周嘗て蒙の漆園の吏と爲れり梁の惠王齊の宣王と時を同じ  
 其學問闢ひ見ざる所なし其要旨の老子の言よ本き歸せり故又其著書十餘万言大抵率ね寓言なり  
 漁父盜跖跖篋の數篇を作り以て孔子の徒を誅訛て老子の意を明せり畏累虛。亢桑子の屬皆空語  
 よして事實よの非す然るよ能書を屬し辭を離ち事を指し情を類し用て儒者墨者の二道を剽削け  
 り當世の宿學といへ共自ら解免すると能ひす其言洗洋自ら恣よして以て已か心よ適を以て  
 主とせり故又王公大人より能之を器とすると能す楚の威王莊周か賢人なるを聞及ひ使者を遣し  
 幣を厚くして之を迎へ許す宰相とすると能す楚の威王莊周か賢人なるを聞及ひ使者を遣し  
 卿相の尊位なり子獨郊祭の犧牛を見すや之と養ひ食ふと數年衣するよ文繡を以てし以て太廟の  
 牲とす是の時又當りて命の惜か爲よ孤小の豚たらんと欲するとも豈得へけんや子亟よ去るへし  
 我身を汚すと勿れ我寧ろ汚瀆小渠の中よ遊ひ戯れて自ら其心を快せんのみ國を有つ者の爲よ  
 軀さるるを爲となく終身仕へす以て吾か志よ從ひんと答へけり  
 中不害の鄭の京邑の人あり故鄭の賤臣ありしか刑名法術を學びて韓の昭侯を干せし昭侯用て  
 宰相とせり内政教を修め外諸侯よ應せしかの十五年の間申子の身を終るまで國治り兵強く韓を  
 侵す者なかりき申子の學賞老よ本て刑名を主とせり書二篇と著し號して申子と曰ふ

韓非の韓の諸公子なり刑名法術の學を喜びて其歸宿する所の黃老よ本けり非の人と爲り吃よし  
 て道說辨論すると能す善く書を著して已か言んと欲する所を述ける秦の李斯と俱よ荀卿よ師と  
 し事へたり李斯自ら思ふよの韓非よの及ふと能すと常よ非よ讓りける韓非我國の日は削り弱ら  
 る、を見て數々上書して韓王を諫めしかとも韓王用ゆると能ひす是よ於て韓非の國を治る者の  
 其法制を修明よし勢を執て以て其臣下を御し國よ富し兵を強くして而して以て人を求め賢  
 を任ずるとを務めす反て浮淫の蠱を擧て之を功賞の上よ加るとを疾む以爲儒者の文を用ひて法  
 を乱め俠者の武を以て禁を犯す寛ある時の名譽の人を寵し急ある時の介冑の士を用ゆ今者養  
 ひ置所の者の用ゆる所の者よ非す用ゆる所の者の養ふ所の者よ非すとと廉直邪枉の臣よ容られ  
 す往者得失の變を観る故よ孤憤。五蠹。内外儲。說林。說難。十余万言を作る然くして韓非說の難  
 きを知り說難書と爲ると甚た具れり終よ秦國よ於て災よ罹り自ら脱ずると能す說難よ曰く凡る  
 說の難きよ吾之を知りて以て說と有の難きよの非す又吾辨するとの難くして吾意を明かよする  
 の難きよも非す又吾敢て横なく佚なく能盡く情を說の難きよも非す凡る說の難きよ人君の心  
 を察して吾か說を以て其心よ當るよ在り說所の君名高を爲よ出る者なるよ吾之よ說よ厚利の說  
 を以てする時の下節とせられて賤しまれ必ず棄て遠さけらる說所の君厚利を爲よ出る者あるよ  
 吾之よ說よ名高の說を以てする時の無心とせられ事情よ遠として必ず収め用ひられず說所の君

實の厚利又在て顯名高を爲者あるよしかるを之よ説名高を以てすれば則陽其身を収め用ひて其心よ之を疎んず若之よ説厚利を以てする時の陰其言を用ひて顯其身を棄て用ひず此等の情知らずんある可らず夫事の密を以て成り語の泄るを以て敗る未だ必ず其身之を泄す非るも我か語其匿す所の事及ふ時の身必ず危し人君過失の端緒有て説者明か善議を言ひ其惡を推す者の其身必ず危し人臣周至の恩澤未だ露のさるよ語極て知説行のれて功ある時の其德亦無し若説行のれずして敗れ有る時の疑はる是の如き者の身必ず危し夫人君自ら計とを得たりとし自ら以て功と爲んと欲するよ説者與り知る時の身必ず危し人君顯は出す所の事ありて乃ち自ら以て爲よするを説者與り知る時の身必ず危し之を強よ其必ず爲ざる所を以てし之を止るよ其已と能のざる所を以てする者の身必ず危し故人君と大人の短を論ずる時の以て已を刺問とあし其細人の短長を論ずる時の權を販とあし其愛する所を論ずる時の借て已か資籍と爲と去其憎む所を論ずる時の已を試むると爲す其言辭を徑省時の不智として之を屈し辱しめ浮辭文華なる時の多言ありとて之を久しとす人主の事は順ひ已か意を陳する時の怯懦として盡さずと曰ひ事を慮りて廣く言詞を肆る時の草野鄙陋よして倨傲侮慢ありと曰ふ此説の難きと知らざるへからざるあり凡う説は務め人主の敬む所を飾て其醜む所を滅すを知るよ在り人君自ら其計を智とする時の説者其失誤を推窮むると無れ人君自ら其決斷を勇とする時の其敵手の者

を引て之を怒すと無れ自ら其力を多とする時の其難を以て之よ概と無れ異事を規り與よ計を同ふし異人と譽て與よ行ひを同ふする時の其事其人を飾り美て毀り傷ると無れ與よ失を同ふすると有る者の則明か其失あきを飾れ大忠の拂辭ふ所あく悟言の撃排る所なし如此よして後其辨知を申ぬへし此君よ親近せられて疑かかれざる所以あり盡すを知るの難きや曠日彌久を得て周澤既よ渥く深く計て疑のれず交々争ひて罪せられす廻ち明か利害を計り以て其功を致し直ちよ是非を指て以て其身を飾る此を以て相持す此説の成と云ふ者なり伊尹の庖人と爲り百里奚の囚虜となる皆此よ由て其上を干す所あり故よ二人者聖人なりと雖も猶其身賤役よ居て世を涉ると無きと能す此の如きの其汙れたりと云ふへし則能仕を求る者の爲よ非るあり宋國よ富人あり天雨ふり墻壞れたり其子の曰く築かされ且よ盜賊の入るとやあらん速よ築き玉へと其鄰人の父も亦其如く云けるよ深夜よ至て果えて大よ其財寶を盜まれけれ其富人甚た其子を知ありとして鄰人の父を深く疑ひたり又昔者鄭の武公胡と云國を伐んと思ひ先其女を以て之よ妻せたり一日因て群臣よ問けるよ吾兵を用ゆんと思ふ何れの國をか先伐へき者よと有けれの大夫關其思進み出胡國を伐こう尤も便ありと武公大よ怒り關其思を執へしめ今胡國の兄弟の國ありざるを子の之を伐んと言ふの何事よとて終よ誅戮せしかの胡君之を聞き鄭國を以て已を親む者と爲して更よ戒心せさりしかの鄭君胡を襲ひて之を滅しぬ鄰人の父と云ひ關其思と云ひ共よ其智

の當りたるも甚たしき者の誅戮せられ薄き者の疑はる是智の難きも非ずして智も處するとの則ち難し又昔者彌子瑕と云ふ者衛の君よ愛せられけるか衛國の法も竊よ君の車よ駕者の其罪別刑よ處せらる既よして彌子の母病ひあり人往て夜彌子瑕よ城中よ告げられ彌子君命と矯て君車よ駕して家よ歸ぬ君之を聞之を賢として孝なるか亦母の爲の故よ別罪を犯せしとて反て之を褒めけり又君と菓園よ遊ひし時彌子桃を採て食ひし其味の最甘美なりしかの食盡さずして君よ奉けけれの君我を愛するか亦己か口を忘て我を思ふと感しられぬ其後彌子色衰へて愛弛み罪を君よ得るよ及て是者嘗て矯て吾車よ駕し又嘗て我よ食しむるよ食餘の桃を以てせしと怒られぬ彌子の行今と初と變あるよ非ずざるを前よ賢ありとされ後よ罪を獲る者の愛すると憎むとの人情の變より來る者あり故よ君よ愛せらる、時の智當て親しまれ君よ憎まる、時の罪當て疎せらる故よ諫説の士の君の愛憎を察して後よ説すんいあるへからず夫龍の蟲たる擾狎て騎へきも然れとも其咽の下よ逆鱗の徑り一尺なる有り人之よ嬰るとあれの必ず其人を殺すと人主よも亦逆鱗あり之か諫説を進る者能人君の逆鱗よ嬰ると無ん則ち幾しと入或の其書を傳へ秦の國よ至れり秦王孤憤五蠹の書を見て嗚呼寡人此人に遇て共よ遊ふとを得い死すとも恨みなしと曰けれバ李斯此の韓非の著述する所の書なりと言よさらの急よ韓の國を攻て此人を我國へ収め取へしと兵を擧よけり韓王始め韓非を用ひす事急あるよ及ひて迺ち非を遣て秦國へ使とせ

り秦王大よ悦び未信用せさりしよ李斯姚賈其用ひられて己が害とあらんとを恐れ之を毀りけるの韓非の韓の諸公子あり今王諸侯を并せんと欲す非終よ韓の爲よして秦の爲よいせざるへし此人の情あり今王用ひす久しく留めて之を歸すの彼我國事を諳知せんさらの自ら患へを遣すと云へきのみ法を以て之を誅戮するよ如さらんと讒する故よ秦王も然ありと之を更よ下し非を接問させよけり李斯尙其赦されんとを虞ひ人として毒藥を遣て自殺せしめける韓非自ら己か心を陳んと欲するも秦王よ見るとを得せしめす秦王後よ之を惜み人を遣て赦さんとしてけるよ韓非の己よ死しけれの其儘よころ成よけり申子韓子皆書を著し後世よ傳ふ學者多く有り余獨韓子の說難を爲て自ら其身を脱すると能いざることを悲むのみ  
太史公か曰老子の貴ふ所の道の虚無因應よして無爲よ變化せり故よ著書辭稱微妙よまて識りかたし莊子の道德を散して放論せり要するよ亦之を自然よ歸す申子卑々と勉勵して之を名實よ施せり韓子繩墨を引て事情よ切よして是非を明かよせり其極慘刻恩少し皆道德の意よ原本て面して老子の意味深遠なり

司馬穰苴列傳第四

司馬穰苴の田完の苗裔あり齊の景公の時晋の阿甄を伐ち燕の阿上を侵しければ兵を出して之を防ぎけるよ齊の師大よ敗績し景公之を患て寢食を安せず齊國の賢大夫晏嬰田穰苴を薦て曰るの

通俗史記列傳

穰苴の田氏の庶孽よして身賤しといへ共然れども其器略文道は能衆を附武道は能敵を威すよ足り願くは君用て試み玉へとの晏子の詞は景公穰苴を召出し共は武事を語りみるよ其將略出凡の人なれは大よ之を悦び即時は將軍と爲兵を將て燕晋兩國の兵を防ぎ追散すへきと命しける其時穰苴臣素より卑賤の身ありざるを君之を兵隊の中より擢て之を大夫の上位よ加へ玉ふ大恩身よ餘り犬馬の勞を盡さんと欲するも何如せん士卒未だ親附せず百姓信從せず人微く權輕かり功を成と極て難し願くは君の寵臣よて一國の尊ふ所の人を得一軍の監とし玉の臣が權柄も從ひて重く士卒命を守りなんと乞ひけれは景公之を許し莊賈と云貴權の大夫と以て監軍とて爲よけり穰苴既よ君前を拜辭し莊賈と約し明日日中まで我軍門よ會さるへし遲刻の軍令を破るありとて定めけり明日早天穰苴の甲冑を身よ穿ち駿馬よ跨り大將軍の旗を飄へし先馳て軍よ到り木表を立て日影を計り水漏を下して時間を數へ莊賈の至るを待よけり莊賈の元來驕貴なれは大將の己よ軍よ至りぬ我の監軍なれば急よ往すも事足なんと親戚左右の餞別よ幾杯かの酒を飲空しく時刻を費しける穰苴の日中まで待けれども莊賈の至らぬよ木表を仆し水漏を決し陣中よ入て軍を行り兵を勸して軍陣の約束を申明かよし約束已よ定り夕時よ莊賈の出來れり穰苴其時斯期約を愆つに如何ある仔細りと咎めけれは莊賈謝辭して不佞出陣するを以て大夫親戚餞筵を開き別れを叙する故思のす遲引せしなりと答へよ穰苴の顔色を正し大將命を受けて出陣する時

其家を忘れ軍よ臨て約束する時の其親を忘れ抱鼓を援の急ある時の其身を忘ると是軍陣の定則あり今敵國深侵し邦内騷動して士卒境よ暴露せり君寢て席を安せず食ふて味を甘んせず一國の民命皆君よ懸れり然を饗宴を開くなど安閑あるに何事やと論しければ莊賈の一言隻句の答へも出す首を低手を束て誤り入たる情况なり其時穰苴軍正を召て軍法よ期して後至る者の如何なる刑よと問けれは軍正斬罪よ當ると答ふる詞は莊賈の驚怖し人を馳て景公よ命乞を爲よけり其使の未だ返らぬ間よ莊賈を斬て軍法を正し三軍よ徇けれは三軍の士其軍令の嚴重なるを見て皆振懼れけること道理あれ少時ありて景公使者を遣て節を持せて莊賈を救すへき旨を言越けるよ其使者軍中よ馳入れけれは穰苴曰大將軍よ在る時の君の令をも受ざるを法とす軍止よ問ふ軍中よの馳すと今使者馬を馳せたり如何なる刑よか當るや軍正對て曰斬罪よ當すと使者大よ悞れける穰苴曰君の使者の殺す可からすとて乃ち其僕車の左駟馬の左驂を斬て三軍よ徇よけり使者を君所よ遣らし其報を待て軍を進めけり士卒の次舍井竈飲食疾を問醫藥を與ふるよ至るまで身自之を拊循し悉く將軍の資糧を捨て士卒を饗應し身の士卒と兵糧を平分し其羸弱よして少食なる者よ比したるける是よ於て兵氣一同奮激し三日の後兵を勸して敵を伐んと爲しけれは今まで病よ伏したる者兵皆行んとを求め之か爲よ必死の一戦を遂んと競ひければ晋の陣中之を聞て師を罷て去ければ燕軍争か支へき黄河を渡りて解去りぬ穰苴之を見てすの追撃せよと兵を進めけれ



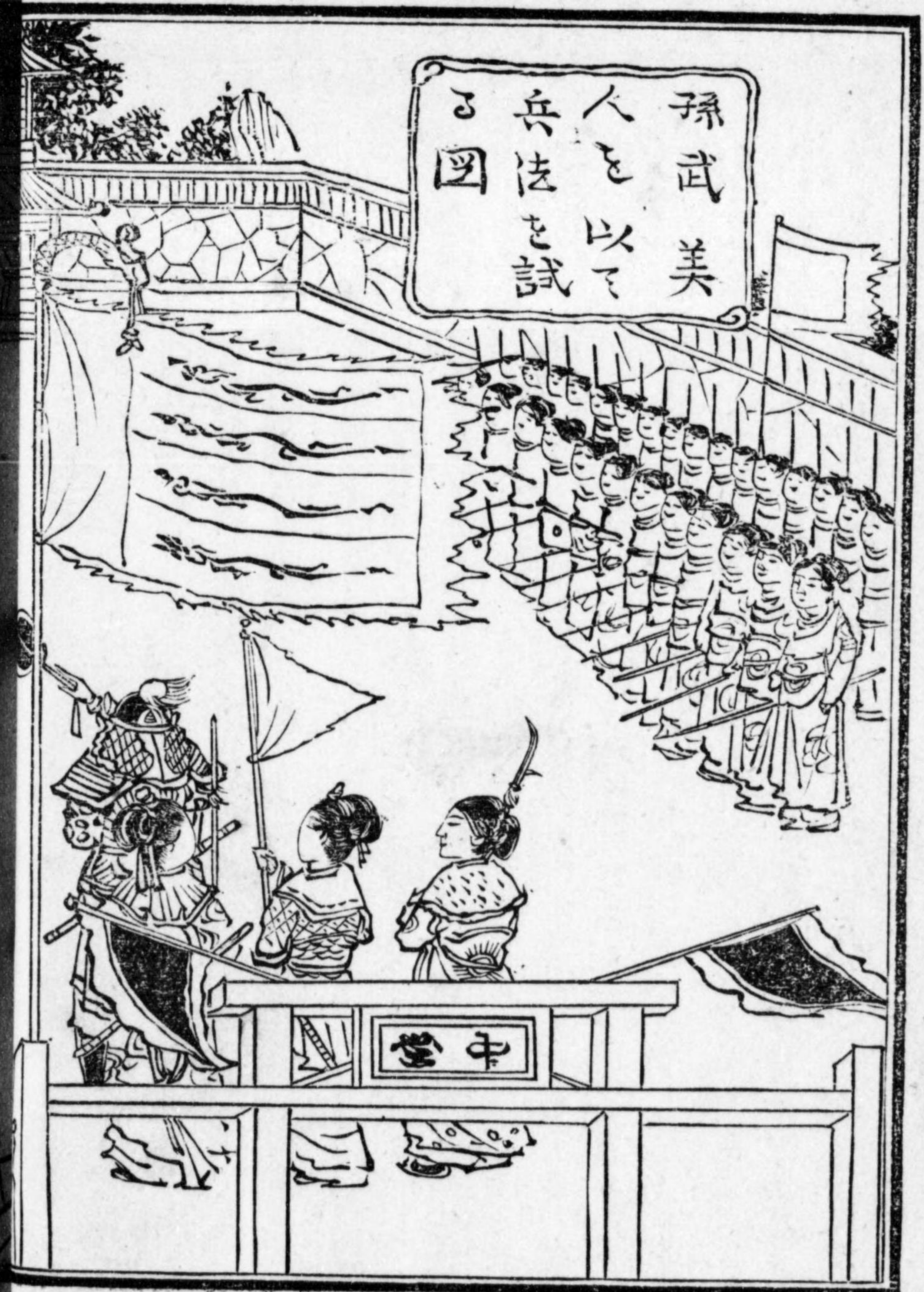
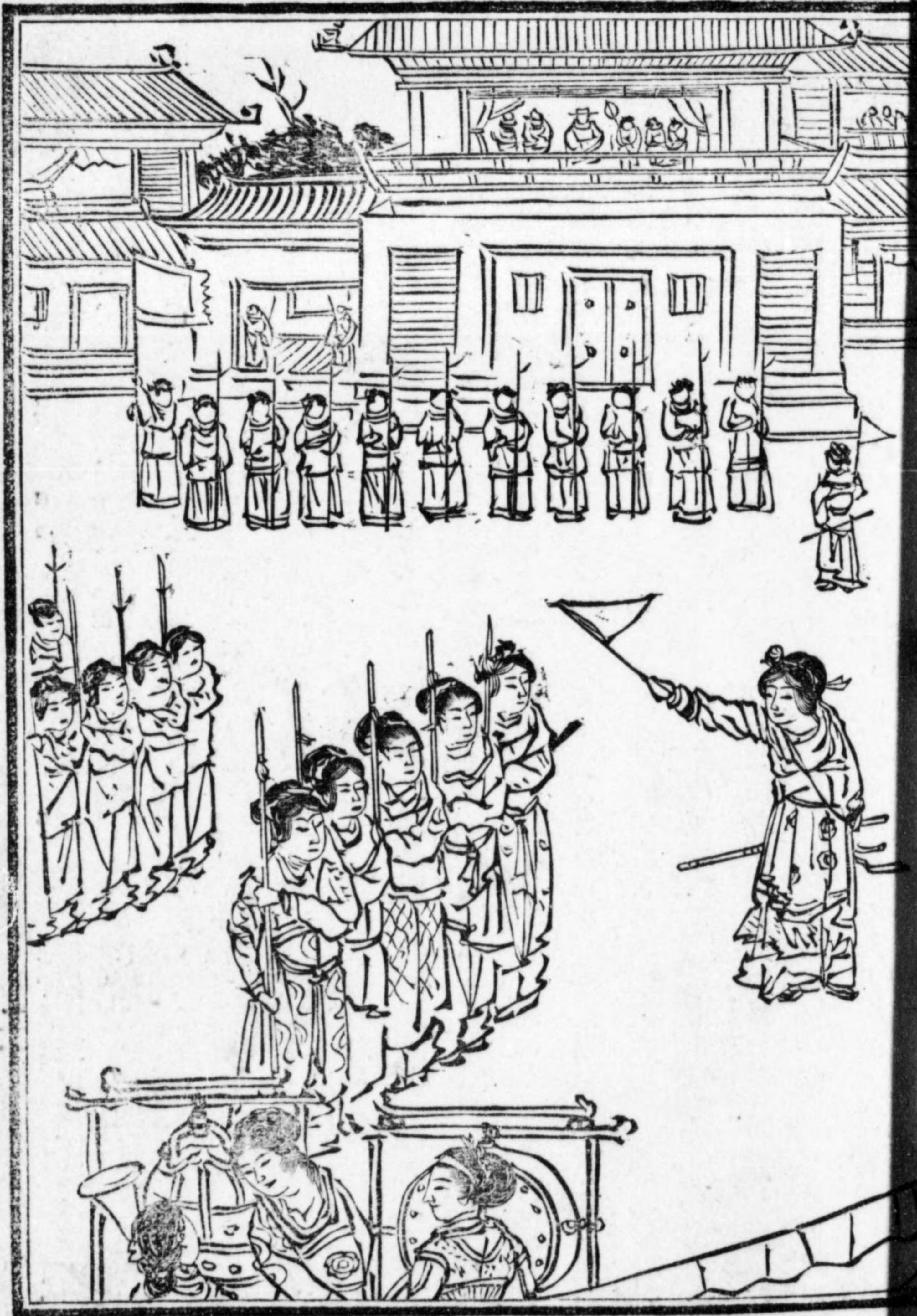
の燕軍の散るよ成て逃走ぬ因て亡ふ處の封内の故境を取返し兵を引て歸り未だ國都に至らずして兵旅を釋き約束を解き士卒と誓盟を爲て後邑に入りしかの景公の諸太夫と共に城下より百里の外の郊野まで迎へ出で帥を勞ひ禮を成して城を歸りける既にして穰苴を召て大司馬の官を拜し將軍の勳功尤も大なり今より寡人寢食を安んずるを得たりとて酒宴を玉はり士卒の功ある者よも夫々恩賜を領ちけり此度の功は依て田氏日よ齊の國は貴重せられしかの命卿の國氏高氏大夫の鮑氏の屬之を害とし景公は諍けれの景公之を退けぬ穰苴依て病を發して死にけり穰苴の二族田乞田豹等此は於て高國并は鮑氏を怨みける其後田常が簡公を弑するよ及で盡く高氏國氏の一族を亡し田常の曾孫田和に至りて自立して齊の威王と爲る兵を用ひ威を行ふ大は穰苴が遺風あり而して齊強大を爲し諸侯之は朝す威王大夫は命じ古の司馬の兵法を追論せしめ穰苴を其編中へ附録せり因て司馬穰苴が兵法と曰ふ

太史公が曰余司馬の兵法を讀み闕廓深遠なり三代の征伐といへ共未だ其義を盡すと能はず其文の如きの少しく褒大ありかの穰苴の區として齊の小國の爲し師を行か若き何う司馬兵法の揖讓よ及ふ暇あらんや故を以て論せず穰苴の列傳よ著く

孫子吳起列傳第五

孫子武の齊人なり兵法を以て吳王闔廬に見へけるは闔廬か日子の著す所の十三篇の兵書の寡人

盡く之を觀たり子少しく試み兵を部勒して其實地の修練を一見せしむへしと乞ければ孫武尊禮は供んと對へけるさらの多勢の婦人を集め之を以て訓練するとの成るへきよやと問ふ孫武可ありと之を許しける是は於て吳王宮中へ令して美女百八十人を選び出し兵士とてころの定めたり孫武之を分て二隊と爲し王の寵姫二人を以て各一隊ツの隊長と定め皆々は戟を持しめ孫子先之は命令を傳へけるは汝等汝の心と左右の手と脊とを知れりや婦人曰固より能辨へ居り孫子さらは汝等前の則心を視よ左の手を視よ右の手を視よ後の則脊を視よ是を進退坐作の法と爲へし心得たるかと教けれの婦人何も諾しけり約束既よ定り乃軍令を犯す者を罰する鉄鉞の類を立列ね即又三たひ命令を傳え五たひ申明よし聽て右は懸太鼓を打けれの婦人の癖とて大は笑て止されの孫子約束明かならず申令熟せざるは大将の罪ありとて復再ひ三令五申を爲して後左は懸太鼓を打けるは婦人復も大は笑ひて止されの孫子約束明かならず申令熟せざるは是は大将の罪されとも既よ之を明かよして法則は從ひざるは軍吏の罪なりとて彼王の寵姫なる左右の隊長を斬んとししけれの吳王臺上より此練兵を觀て有しか今愛姫を斬んとするを見るよりも大は駭き趣かよ使を以て令を下して曰せけるは寡人已は將軍の能兵と用ることを知れり寡人此二姫は非されの寢るも席を安せず食も味を甘せず願くは之を赦して斬と勿れ孫子對て臣既よ已は命を受て大将と爲れり大将の軍中へ在る時の君の命も受ざる所ありとて遂は二人の隊長なる寵姫



の首を刎させて女隊へ徇て其次なる美姫を以て隊長となし爰に於て復懸大鼓を打ければ婦人爭か笑ふへき左右前後跪起して皆規矩繩墨より中り聲さへ出す者亦かりき是に於て使を以て王に報せしめ兵既よ整齊せり王試よ臺を下て一見し玉へ唯王の欲る所のまゝにころ氷火の中へ赴くとも決して退くと有へからすと告げるよ吳王の二人の寵姫を斬れ心よ之を悲みて將軍罷て舍よ就て休息すへし寡人下て觀るとを願すとも對へける其時孫子王に於ては徒よ其言論のみを好れて實地の兵法に用ゆると能すとすり譏りける是に於て闔廬の孫子の兵法よ長したることを熟知し卒よ大將とあし西の強楚を破て其都まで兵を入れ北の齊晋の二國を威し名を諸侯よ顯したるに孫子か力多しとて孫武既よ死して後百余年孫臏と云ふ者あり孫武の子孫ありとて孫臏嘗て龐涓と云者と俱よ兵法を學しよ龐涓わ既よ魏の國よ事て魏の惠王の將軍と爲とを得たりしも自思ふよ兵界の中や孫臏よ及と能すと乃陰よ孫臏を召よせ己よまさるを疾み法刑を羅織し其兩足を斷て黥よし隠て人よ見られざる身体よころ爲しよけり此時齊國より梁へ使者の如しかり孫臏刑徒の身よからも陰よ見て齊の使者と兵法を論しければ齊の使者大よ之を驚き奇とし窃かよ己か車よ載與よ齊國へ伴歸り齊の大將田忌よ見へさせけるよ田忌孫臏を大よ善し客禮を以て接ひける時の流行よ從て田忌數々齊の諸公子と馳逐重射とて競馬の戲遊を爲しければ孫子も之よ隨ひて見物を爲しけるよ其馬足の甚た遠く隔らす馬よ上中下の輩あるを見て田忌よ向ひ君幾度も重

射し玉へ某君を勝しめん田忌之を信然し賭の重射を待て居り既よして王及ひ諸公子共よ競馬場へ立出て千金の逐射と定りけり質よ臨むとて既よ馬を乗出さんとする時よ孫子田忌よ今君の下輩の馬を以て彼の上輩の馬よ與せよ君の上輩の馬を以て彼の中輩の馬よ與せよ君の中輩の馬を以て彼の下輩の馬よ與せよと教へ既よ馳ると三輩し畢て田忌一回の下の輩の馬を上の輩の馬よ與せし故を以て勝さりしも其餘二回の田忌の勝となりよけり固より初の一回の下の輩の掛合せ負るを必とせしよりして後の勝を生し出せし者よころ田忌の卒よ王の千金の賭を得て大よ悦ひ勇みける是に於て孫子を威王よ進しかり威王兵法を質問し遂よ師として尊ひける其後魏國より趙國を伐ち趙甚た急なるを以て救を齊よ請しかり齊の威王孫臏を大將とせんと言れしよ孫臏刑餘の人の士卒信せず大將たるの大よ不可なりと辭するよ田忌を大將とし孫子を軍師と爲し輜重の中よ坐せしめて計謀を爲しよけり田忌兵を引て趙へ之となしけるを孫子止て夫雜亂紛糾を解者よ控捲とて拳を以て撃へからず鬪を救ふ者よ搏擲とて手を以て人を搏へからず亢を批ぎ虚を擣とて敵の攻るを捨置て虚き地を擣ころよければ敵の軍形格り軍勢禁り自然よ兵の解へきのみ今梁趙相攻む梁の輕兵銳卒の必す外趙國よ竭き老弱の内梁國よ疲れなん如す君兵を引て疾大梁よ走り其街路よ據り其方よ空虚を衝んよの彼必ず趙を釋て自國を救ふよ必せり是我一舉して趙の圍を解て魏よ其弊を受しむるありと是非明了論しければ田忌之よ從ひ魏へ兵を入れし

かの魏軍の狼狽して趙の都の邯鄲を退去しけるを齊軍の桂陵に戦ひて大よ之を破りけり後十五年魏と趙と韓の國を攻しかの韓急よして救を齊に請けるよ又々田忌を大將とし孫子を軍師として往しめけり孫子指揮して直よ兵を引て大梁に赴きたり魏の大將龐涓之を聞韓を去て歸り齊の軍に已過て西魏の大梁の都へ入たり此時孫子の田忌よ向ひ彼三晉の兵の素悍勇よして齊を輕んせり常よ齊を号して怯弱と爲す善戰者の其勢よ因て之を利導す兵法よ曰百里よして利よ趣く者の上將を蹶く五十里よして利よ趣く者の軍半の至ると齊軍魏の地よ入て十萬の竈を作らしめ明日の五萬の竈を作らしめ又明日の三萬の竈を作らしむ龐涓行と三日大よ喜ひ吾固より齊軍の怯弱なると知り吾地よ入ると三日士卒の逃亡する者已半の過たり乃ち其歩軍を棄其輕銳と日を倍し行を并て逐掛たり孫子龐涓か追來る刻限を度考ふるよ日暮よ當よ馬陵と云地よ至るへし馬陵の路狭くして左右よ阻隘多玄伏兵を置よの尤も便なる地利ければ乃ち其山上の大樹を斫り白き處よ龐涓此樹の下よ死せんと墨黒々と書記し齊軍の善射者よ萬弩道を挾て伏兵とし命令を傳て曰日暮此樹下よ松明の擧を見れば弩を齊く發すへしと徇たりける孫子の度よ少しも違す龐涓果して夜よ至り斫る樹の下よ到り白書を見しか暗くして文字の分明ならぬよ依り火を鑽て之を照し其書を読も終らぬよ齊軍の伏兵萬弩火を狙て發えければ魏軍大よ乱れ立龐涓の矢を受る事蠅毛の如くなりけり乃ち自到て曰く遂よ孫堅子の名を成んと齊軍因て勝よ乘し

盡く其軍を破り魏の太子申を虜よして歸りけり孫臆此を以て名を天下よ顯しける世よ其兵法を傳たり

吳起の衛人あり好兵を用ゆ嘗て學を孔子の門人曾子よ受け學成て魯君よ事へけるよ此時齊國よ魯を攻けれり吳起を大將とし之を防かしめんと思ひしも吳起の齊國の女を取りて妻とあして有ける故魯人其心を疑ひて大將となさしりしかの吳起の名を天下よ揚んと思ひ其妻を殺して齊國よの與せざることを明しける魯卒よ大將と爲し齊を攻て大よ之を破り軍功を顯しけるよ魯人或の吳起を謗りけるの起の人と爲り猜忍の人と云へけれ其少き時家千金と累ねしよ游仕して事を遂す遂よ其家産を破り郷黨の人々皆之を笑ひたりと噂しけるを聞よりも吳起の大よ之を怒り其己を謗し者三十餘人を斬殺して東の方衛の郭門を出るよ當て其母と訣別臂を搦て血を出して言けるの起若卿相と爲すんの再たひ衛の國の土を踏しと盟ひ夫より魯國よ至り遂よ曾子よ師とし事て在ける内其母衛よて死しけれども起前盟を思ふより國へ歸て喪を執す曾子之を薄して起を斥けて交を絶けれり吳起の是非あく又魯國よて兵法を修學し魯君よ事へたりけるよ魯君の疑ひを解んか爲妻を殺して大將を求たり夫魯の小國よして戰勝の名ある時の諸侯何れも魯を圖んとするからん且魯衛の兄弟の國なるを君起を用ひの則ち是衛の兄弟の國を棄る者よこりと言ふよ魯君の之を疑ひ吳起よ謝して用ひすなりぬ吳起是よ於て魏の文侯の賢あることを聞之よ事ん

と魏國へ至り奉仕の事を願ひける文侯之を聞其臣李克も問ける何如ある人あるか其賢否を告よかしと有る李克も吳起が人と爲り財貨を貪りて女色を好み然れども其兵を用ゆるに至りて司馬穰苴も及ぶ事能す實は名將と云へしと對へける故魏の文侯之は大将を命し秦を撃て五城を拔取けり吳起の大将たる士卒の最も下なる者と衣食を同じ臥す又席を設け行は騎乗せず親ら糧を裹て士卒と勞苦と分てり卒の中は疽を病たる者有けれり吳起其疽の膿を吮出して愈しける卒の母之を聞て大に哭悲みたる故或人汝の子の卒なり然るを吳將軍自身其疽の膿を吮出して愈し玉ふの上もなき大恩なる何として左様も哭するやと問へり其母否夫を悲むよ非ざるあり往年彼の父吳公も軍に従て亦疽を病たるは吳公之か爲り膿を吮て愈し玉へり其時の合戦は父の其恩も感するより敵も向て腫を返さず戦没して報したりき今又吳公其子の癰を吮玉へり父の如く戦死せんと思ふ故思す哭し泣たるありと答けり文侯吳起が善兵を用ひ廉平にして能を盡して士卒の歡心を得るを以て西河と云地の太守となし秦韓兩國の強敵を拒かしめけり其後文侯卒しぬ起其子武侯も事へけるか或時武侯西河の船を浮へて下られし中流にて吳越を顧み如何と思ふや美ある此山河の要害魏國自然の寶ありと言けるは其時吳起國を保り德も在り險阻の恃と成かたし昔三苗氏と云ふ諸侯の洞庭の湖を左よし彭蠡の湖を右よせしも德と義を修めさりしかの禹王之を滅し玉へり夏の桀王の都の河濟の大河を左よ受け太華の高山を右よ受け伊闕の峻嶺を

南よ居き羊腸の嶮岨を北よ取しも政を修ると不仁ありしか湯王之を放て遂に自滅を爲しけり又殷の紂王の都の孟門山の要害を左よ受け太行山を右よ居き常山北を包み太河其南を亘りたるも政を修むる事不徳ありしかの周の武王之を誅し玉へりされり國を有るは德を恃とすへくして嶮岨を頼とすへからず君若徳を修玉へりすん今此舟中の人ありとも皆敵國と云言へきなり争か嶮岨の恃となるへきと答へけれり武侯大に感し即ち吳起を西河の太守となせしは聲名甚た世も聞へけり儲も此時魏國の宰相の無かりしか田文と云者と宰相と爲けるは吳起大に不平にて田文も向ひ吾子と功を論せんと思ふは如何と問けれり田文固よ可あり争遠慮の有へきと言ふは吳起の容を正し三軍の大将となり士卒をして死を樂ましめ敵國敢て謀さるは子と起と孰か成得るや田文答て吾争か子よ及ん吳起又百官を治め万民を親しめ府庫を實て財用を餘あらしむるは子と起と孰れか成し得るや田文答て争か吾子よ及ん吳起又西河の地を守り秦國の兵敢て東よ郷て我國を伺ひす韓王趙王も我國へ聘聞を絶らしむる武威を示すは子と起と孰れか成し得るや田文答へて吾争か子よ及ん其時吳起此三の者の子皆吾も及ばず然るを位吾上よ加るは何故や其時田文主君年少く國內疑議多く大臣親ます百姓信せず是時方りては其國を子も屬えて可ならんか將亦之を吾も屬して可ならんか子如何思ふやと問れて吳起の默然たると良久しくり吾も及ひかたし子よ託すると尤善けれと言ふは田文此乃ち吾子の上よ位する故

なりと答へける吳起乃ち自ら己か田文又如ざるを知る者から此よ下て親みけり是より田文問も  
 かく死し公叔と云者宰相と爲り魏の公主と尙となり吳起の器量を忌けるを公叔の僕公叔又教へ  
 けるの吳起の去り易きのみ彼か人と爲り節廉にして自名を喜む者なり君因て先武侯又吳起の賢  
 人なり然れとも此國小よして強秦と界を接せり恐くの吳起長く留まる心なからんと言玉の武  
 侯如何せば留め置とを得へきやと問玉ふい必定あり其時君武侯よ試よ起を留むる爲公叔を妻よ  
 與へんと宣ふへし起留まる心あらん則 必ず命を受ん留まる心無時ハ辞退するの必定なり此を  
 以て彼か去留をトひ玉へと言置て君よの吳起を自邸へ伴ひ歸り即ち君の夫人公主よ君を怒て輕  
 せしめよ吳起之を見る時ハ後公主を賜るの君命ありとても己も亦妻の公主よ侮れんを嫌ふ爲之  
 を辞するの相違のあらしと言ふ又公叔大又悦ひ斯爲しけれの武侯より公主を賜る時よ至り之を  
 辭けるよより武侯大又疑念を生し吳起を信用せさりしかの吳起の罪を得んとを悞れ遂に魏を去  
 て楚よ之けるよ楚の悼王素より起か賢なるを聞至れハ則宰相と爲よけり是よ於て楚國の法令  
 を明審よし不急の官を捨公族の疎遠ある者を廢して戰鬪の士を撫養せり其要兵を強くし馳説の  
 縦横を辨論する者を破るを主とす遂に南の方百越を平け北の方陣祭の南國を并せ三晋を却け西  
 の方秦を伐諸侯楚の強盛あるを患へける故の楚の貴戚吳越の功を嫉み盡く之を害せんと謀りけ  
 る悼王死するよ及て宗室大臣亂を作して吳起を攻ける吳起逃走て王の尸の上よ伏しぬ是楚國の

法を借て己か死後の仇を報する爲なり果して吳起を射刺する爲よ并せて悼王の尸を射或ハ刺た  
 りけれの太子位よ即よ及で令尹よ命して盡く吳起を射て并て王の屍よ中たる者を誅せしむ起を  
 射るよ座して家を滅し死する者七十餘名よ及びたりと  
 太史公か曰世俗稱する所の軍陣の法ハ皆孫子十三篇よ本つけり吳起か兵法も世よ多く有り故よ  
 論せず只其行事よ施し設くる所の者を論述せり語よ曰能之を行ふ者の未必す能言す能之を言ふ  
 者の未必す能行のす孫子龐涓を籌策すると至て明かあり然とも蚤患を刑せらるよ救ふと能す  
 吳起武侯よ説よ形勢の徳よ如さるよを以てせり然よ之を楚よ行ふの刻暴恩少きを以て遂よ其驅  
 を亡すよ至れり悲ひかあ

伍子胥列傳第六

伍子胥の楚人あり名を員と云ふ父を伍奢と云ひ兄を伍尚と云ふ世々楚國の太夫たり先祖の伍舉  
 楚の先王莊王よ事て直諫するの功を以て名を諸侯よ顯しける因て其子孫世々楚國の太夫よ列り  
 門閥と稱せられける此時伍子胥の父伍奢の平王よ事へたり王よ太子あり名を建と云王伍奢を以  
 て太子の太傅の官とし同く太夫費無極を以て其副官少傅となしけるが費無極姦惡の人物よて太  
 子よ忠義れ心なく唯平王よ媚諂ひ位伍奢の上よ立ん事を常よ心よ願ける太子建己よ壯年よ成け  
 れば平王夫人を娶しめんと彼費無極を秦の國へ遣し婚姻の縁を求めしよ秦國よてハ固より楚の

大國を知るものから速に相談整ひ納徴親迎の期日を定め國へ歸て王は報じける事滞りなく  
 結了しぬ然も小臣秦の公女を見奉りし世に絶倫なる美人よおのせり彼を太子の婦とし給ふの  
 最惜き事よこり寧大王自娶玉ひて金閨の花と詠玉ひ別も他國へ婚姻を索め太子の夫人と爲玉  
 ふも大事のあらし如何賢慮を伺ひたしと勸る粹も好色ある平王忽地滿面は笑を含み汝の言吾意  
 叶へり好も執計へと命しける故仕濟したりと無極の悦ひ遂も秦の公女を太子の宮へ入奉らす  
 平王の夫人とあしけるよ平王の秦の女を娶て夫人と爲しめたり扱も無極の斯る惡計を以て大は平王の  
 産ぬ更も太子の爲も他國の公女を娶て夫人と爲しめたり扱も無極の斯る惡計を以て大は平王の  
 嬖幸を受け終も太子少傅の官を辞し王の近臣と成て威權を恣にして居たりけるか倩事を考  
 るよ平王の己も老ぬ一旦薨し玉ひ太子位も立時秦の女の事を怒必す吾を殺さるへし今より謀  
 略を施すの臍を嚙とも及いせしと心も屹度思慮するものから時として事として種々太子を  
 讒言しける太子建の母の蔡國の女も元來平王の寵愛をけれの太子も從て恩情深らぬ上も又秦  
 の女の事よりして王も之を忌惡む心の益々萌ける故太子建を遠んか爲遠き城父といふ土地を守  
 しめ國邊の敵を防とを命しける斯太子の王宮を離しより時至ぬと倭人費無極日夜太子の有事無  
 事を王に讒し且太子よ王の秦の女を娶玉ひしを深く之を怨玉ひしよ今城父よて數萬の兵の大  
 將と爲り外諸侯を交を結ひ其力を假て大王よ叛き奉つらんとするの御心ありと世人の已も風聞

しぬ願の王戒心し玉のすん不意の禍起りやせんと言を巧も讒しければ薪も油を灌か如く烈火  
 の怒も信偽を問す王の命して太傅ある伍奢を至急も呼寄て之を拷問爲けるよ伍奢の心も思ふや  
 うこの費無極の讒言もて斯る事機も至りしならん憎さも憎しと答て云やう王聰明も在まなな  
 ら争讒賊奸佞なる小臣の言も惑ひ玉ひ骨肉の太子を疏し玉ふりやと云ふと未終らぬも無極忽地  
 退出王伍奢の言も感され玉ふと勿れ今事の成さる中も制し玉のすん王よの遂も太子の手も生  
 禽れ玉ひあん惡心を許し玉ふへからすと云ふよ王の思慮淺く眼を怒らし聲奮絞り誰か有る彼捕  
 へよと命すれいつと答へて左右の者共伍奢を高手小手も縛て獄舎へこりの送り已もして王  
 の城父の司馬の官たる奮揚と云ふ者も命令を下し兵を率て太子を殺すべしと命しける奮揚是非  
 なく兵を引て太子を圍んとする前も至り服心の家臣を遣し太子も竊も此事を告げ願く速も去  
 玉へ然す誅を免玉のしと言送たりけれの太子建の取物も取敢す宋の國へり逃去けり無極又  
 平王も勸て伍奢の已も獄舎も伴玉ひしかの聊か憂のなきもの、彼も二人の男子あり何も豪傑の  
 者と聞き之をも誅戮し玉のすん楚國の後患を爲へきなり殊も弟ある伍員も力量ありて弓馬  
 達し文武の才略ありと聞く今其父を人質として二子を呼あも其免されしを希ひ必ず來て命を  
 乞なん其時父子三人併て之を誅しあの後腹痛す大も好らんと勸も王の大も悦ひ使を遣て伍奢も  
 言しめける汝二人の子を呼寄て汝か命を乞せあも吾汝か一命を助なんと諭すも伍奢の長子伍

尙の人と爲り仁心深き生れかれの父の助らるゝと聞ならん來るとい必定あり二男の伍員の生質  
 又剛戾よして耻を忍ぶの丈夫あり其來て吾と併て禽せられんより生て大事を擧かんと呼とも争  
 來へき然とも王命なれの否いせしと云ふよ王の聽入す二子の處へ使を遣し汝等兩人來て父  
 の罪を謝しなれ父を赦して渡し吳かん若も吾命と拒て來るとなくの父の決て殺すへしと父の  
 詞を添て言やりけるよ伍尙の之を聞て泪を流し注て父の一命を乞んと言ふを伍員の留め兄君往  
 せ玉ふと勿れ王の我々兄弟を召の父君を生さんとよのあらずかし若一人よても脱走る者ありて  
 後の患を爲んかど夫故父を質よして詐て二子を召併て之を殺さんと欲するのみ縦到て命を乞と  
 も決して赦さるゝ事のあらし父子三人空く讒者の劍よ死して讒を報るとを得さらしむるのみ如  
 じ他國へ身を逃れ其力を借て父君の恥を雪の勝るよの往て俱々滅るの無智の至と云へきのみ兄  
 君思慮し玉へかしと言ふ伍尙の汝か議論極て是あり我とても縦令彼所へ往たりとも到頭父君の  
 命を全すると能さるを知るも然とも父君我々を召玉ひ命を全くせんと思すのを子として往  
 て救もせず後恥を雪んとて其事就すの怯夫者とて天下の人の指頭よ係の遺憾あらすや汝の速  
 よ立退父君の讒を復とを心よ銘せよ吾の死を父君と俱すへしと言置て出て執よ就よけり伍胥  
 の之を見るよりも弓押取て矢を注ひ使者よ向ひて挽絞れぬすの遁しと兵士を進て擽捕んと  
 を右と左へ射白まし劍を誓て前後よ薙立忽地一方の血路を開き太子建の宋よ在を慕つゝ何處と

もかく逃去たり伍奢の子胥の亡去たるを聞とひとしく今より楚國の君臣子胥の爲る惱まされ國  
 内兵よ苦まんと言けると王の子胥を捕逃せしも伍尙の已よ生捕たれり父子併て殺しける父  
 子三人の議論識見何れも優劣あかりきと之と聞者感涙を催さぬ者なかりけり扱も伍胥の既よ  
 太子建を尋て宋よ到りしも宋の此時華亥尙寧華定の三大夫反逆して君臣の合戦絶さりしかり太  
 子建と俱々鄭の國へ逃去けり鄭人の深く太子建を善せし内建晋の國へ適て晋の頃公よ見へけ  
 るよ頃公言の序よ今太子よの既よ鄭の君臣と最能親睦しておらずと聞り然の何事も太子の所業  
 の疑のさるへし因て鄭國よ歸て後我爲よ内應を爲し玉へ其時我其外より之を攻おば鄭國を滅す  
 と掌握よ在り然る時鄭一國を太子よ參せん如何ぞと云ふよ太子建承諾し鄭へ還て窃よ其准  
 備を爲たるよ未た其事機の會せさるより遅々して有ける内會々私よ其從者を殺さんせしかり從  
 者預て其謀を知を以て之を鄭の國老よ告ける鄭の定公大よ驚き子産と謀て太子建を謀殺おしよ  
 けり伍胥恐て太子建の子勝と云ふ者と携へて吳の國へ到んと吳楚兩國の境なる昭關よこり至り  
 ける預て楚國の命よ因て待設けたる關尹某二人の者を生獲んと人數を以て追しめけれの伍胥僅  
 よ獨身よて勝と共よ歩走し幾 脱とを得さらんとするもの數ひ已よ江水と云大河よ至しよ  
 追兵の後よ迫り前よの滔々たる長流を横断せり進退此よ谷けれの子胥天を仰きて長歎し昊天  
 我腹讎の志を逐しめさるやと大よ哭しける所よ江上よ一人の漁父の舟よ乗て款乃を歌て居た





伍子香  
追兵小  
迫りて  
又援を  
得るに



りしか 忽 子胥の急なるを見るより 篙を 操て 此方の岸へ 漕よせつ、壯士此舟に乗て速く仇を  
 避よと聲掛たり子胥の夢かど疑ふ計勝と俱ふ此舟又打乗て前岸へう達しける子胥既渡りて後  
 漁父は向て救命の 大恩を謝し 腰間の 劍を解て 急難の旅中一資半錢も皆齎す所なし 齎す者唯此  
 劍のみ直百金よ 購んと云し人の多かりし 救命の恩を謝するよ 足すといへ共 願ひ之を納玉へ  
 と 漁父は 與へけれぬ 漁父咲て 楚國の法よ 伍胥を生獲若くは首を獻する者あれぬ 粟五万石よ 魯  
 の 執珪の高きを賜ふなり 豈徒は百金の劍のみあらんや 吾利欲の爲よせぬ 公を捕て 其恩賞を受ん  
 のみさるを然せざる者ぬ 壯士の危急を憐むのみ 豈敢て 其報を望んやとて 聊受るの 氣色なけれぬ  
 子胥の 其高義よ 感服し 頻よ 其大恩を謝し 別て 吳の國へ入んとする 途中疾よ 係て 大よ 苦み 此處よ  
 逗留し 乞食と成て 其日を送り 漸くよして 吳の國へ到りぬ 此時よ 當て 吳王僚方よ 事を用ひ 公子光  
 を用ひて 大將と爲し 四方よ 兵を出し けれぬ 伍子胥乃ち 公子光よ 因て 吳王よ 謁見を乞けれども 未  
 た之を許されず 待と 數月爰よ 楚の 平王の 封内の 吳よ 近き 邊邑よ 鐘離と云ふ 地の 村民吳の 邊邑の  
 卑梁氏と 俱よ 蠶を 養し 双方の 女子桑を 摘争ひ より 送よ 罵り 辱め 果の 拳の 雨霰送よ 攻撃をし  
 けるよ 吳楚の 君臣大よ 怒り 終り 兩國兵を 擧て 相攻伐するよ 至りける 吳王の 公子光を 大將として  
 數萬の 兵を 率よ しめ 楚と 一戦よ 打勝て 鐘離 居巢の 土地を 攻取りて 歸けり 此時 伍子胥の 初て 吳僚  
 よ 見るとを得て 今こゝ 復讎の時 至りぬと 大よ 悦て 説て 曰 楚國の 與し 易のみ 願くぬ 復 公子光を 遣

玉へ 臣之を 助て 必ず 楚國を 討平 んと 詞も 未だ 終ざるよ 公子光之を 支て 伍胥の 父兄共よ 楚よ 戮  
 せられし 故妄よ 王よ 勸て 楚を 伐し むる者ぬ 自身の 讐を 報する 心の 心よ 出るのみ 楚を 伐とて 未  
 破る 可らずと 言掠め けり 伍胥之と 聞て 公子光よ 叛逆の 志あり 事成就せざる 間ひ之よ 説よ 外の 征  
 伐を 以て するとも 決して 行れ かつしと 心中 竊よ 思惟し けれぬ 敢て 又言を 進す 反て 大力無双の 專  
 諸と 云へる 豪傑を 公子光よ 進め 暗よ 弑篡の 助と爲し 身を 退て 太子建の子の 勝と 耕作して 月日を  
 送る 事已よ 五年 此時 讎の 楚の 平王の 已よ 卒し 彼秦の 女の 生し 所の子 軫位よ 即き 之を 昭王と 号し  
 ける 吳王僚 楚國の 喪を 聞此 動搖よ 乘し 楚を 伐平 けん と 二公子よ 命し 數十萬の 兵よ 將として 往て  
 之を 襲し 心 楚之を 聞て 亦 數十萬の 兵を 發し 吳の 兵を 防し ぬ 反て 又 數十萬の 兵を 吳の 軍後よ 廻し け  
 れぬ 二公子の 軍兵 前後の 兵よ 推包れ 進退よ 苦み 吳の 國內よ 軍兵 穴虚よ 爲し しかば 公子光 今こゝ  
 時の 至れり と 專諸よ 命して 吳王僚を 襲刺し ぬ 自立して 吳王の 位よ 升り けり 是を 吳王闔廬と 稱し  
 ける 闔廬 既よ 心願 成就して けれぬ 伍員を 召て 行人の 官と かし 俱よ 國內の 政事を 謀大よ 之を 親重  
 し ぬ 爰よ 又 楚の 國よ 其 故ありて 其 大臣 卻宛 伯州犂を 誅せし しかば 州犂の 孫 伯嚭 逃亡して 吳の 地  
 へ 來て 身を 寄ける 吳も 亦 伯嚭を 子胥と 同しく 大夫の 位を 授けり 此 伯嚭 奸佞よ 後よ 國害と 爲と  
 り 此時 誰か 之を知 へき 吳王の 子胥と 同視し ける 却て 説前よ 吳王僚か 遣したる 二公子の 兵よ 將と  
 して 楚を 伐し 者 歸路を 絶れて 歸ると 能ひ ず 其のみ ならず 吳國の 内乱よ 王の 弑せらるゝと 聞よ

りも周より兵勢の振ぬ上、此等の事愈々驚き、今、是非なく引卒したる軍兵と共に楚國へ降り、楚國の之を舒と云ふ土地に封じしける。三年の後、吳王闔廬兵を興して、伍胥伯嚭の兩人を大將となし、楚國を伐て舒を攻取、遂に二公子を禽よしける。其時子胥の勢を乘して楚の都ある郢の地に至ると爲しける。爰に吳國の名將其名も著き、軍師孫武二人を制して、今吳國頻年兵を興すよ、り人民勞れ、資糧乏し、然るを長驅遠征して一敗を取る時の後悔するとも詮あからん。少時時を待て、りよければ、軍師の指揮を争か、背かん兵を纏て歸りける。か四年ふ至て、又もや兵を興しつ、楚を伐て六と潜とを攻取けり。六年、楚の昭王公子囊瓦を大將として、吳の國へ攻來り、數度の敗北の恥辱を此に雪めんと、兵勢猛に押寄たり。吳王伍子胥を大將として之を迎撃し、豫章と云ふ地を戰ひて大よ之を破り、楚の居巢を攻取けり。九年、吳王闔廬子胥孫武に向ひ、始士等郢の都に未だ入へからずと制したる。か今の形勢、由時の必ず勝じと定め、かたかり如何うやと問ければ、二子對て、今や楚の大將囊瓦貪欲にして、唐蔡の二國深く怨を抱くと聞く。王必ず大よ之を伐んと欲し、玉の、先此二國を味方と爲の功あるへし、さらすの未だ伐かたしと云ふを闔廬之を聽し、唐蔡二國を味方と誘ひ、共よ大兵を發しつ、楚と漢水を夾て陳しける。吳王の弟夫概王は請て軍を從ひ、功名を顯さんとを乞ける。吳王聽す。汝の留守して我國に在るへしと言ふを中々肯す。軍士を指揮させ、玉のすの其家臣を引率して先鋒をこり爲へければ、五千人を鶴翼に隊へ、第一番漢水を騎渡り、楚の先陣なる

子常が隊へ蒐けられ、子常の一手の其猛勢を辟易して七裂八斷に逃走る。總軍此勢を乘して、金鼓を等しく打鳴し、喊聲天地を動して、大山の崩る、如く巨濤の拍み異ならず、驀地に懸掛れ、楚軍の防くよ力なく、兵を引揚、嶮岨に據て支えたり。凡う五回の會戰、楚軍一回も勝と能す。皆八方へ逃走しければ、吳軍亡るを退掛て楚の都郢の土地へり攻入れければ、楚の昭王一戦も及ずして都を出奔し、雲夢の地へ逃退夫より、郢の地へ隠れ入りければ、然るに、郢公の父も平王を殺さたる者なれば、郢公の弟懷と云者兄に向ひ、昔時平王我父を殺せり。我今其子昭王を殺さるは、是泉下の父への孝ならんと言ふ。郢公之を恐れ、王は隨從して隨の國へり奔りければ、吳の兵之を探知り、兵を移して隨の國を圍み、使者を以て隨人と言せける。周の天子の子孫即ち我吳國と同姓なる姫姓の國々の漢川に在者、楚國よ於て盡く之を滅したり。されに、吳王楚君を得て甘心せんと欲するなれ、貴國よ於て之を殺さ速よ首を送れ。然へしと述べければ、隨人吳の兵勢を驚怖し、之を殺して、吳の國よ與へんと欲せし。昭王よ從ひ共よ出亡あしたりければ、王子基と云ふ者身代よ出んとを隨公よ乞ける。隨公之を肯す。隨人愈々昭王を吳よ與へんと決評して、龜と灼て之を卜たりければ、不吉の兆を現しければ、乃ち吳よ謝して與ふる事止り、始め伍員楚國に在し時、申包胥と云ふ者と朋友の交、最厚かりしかば、楚國を出奔する時、當り申包胥よ云ける。我必楚國を覆して見せへしと、申包胥之を開て、汝能覆の我能之を存せんと、言ける。か吳の兵克て都へ入るよ及て、伍子胥の昭王を尋求むれば、共既に出走せ

し後なれば讐を報ずるとを得ず是に於て楚の平王の墓を堀王の尸を引出さしめ之を鞭と三百  
 及て纒はち手かを留め復讐ふくしうの素志そしや稍成ぬと悦よろこひける此時彼申包胥の山中に逃匿にげかくれて有けるか此事を  
 聞て大に嘆たんし人を子胥の陣へ遣つかひし子の讎あだを報ずる尸しか及ふ事亦甚しと云ふへきのみ吾之を  
 聞るとあり人衆おほ時ときの天あま勝天定る時まの亦能人またよを破ると今子の故平王の臣親しんく北面して之つか事かし  
 よあらずやさるを今其遺骸わがを僇りするに至る豈天道の極無きしと思ふやと言せければ伍胥ごしよ之を聞て  
 汝申包胥しんほうしよ謝しやして言へ吾今日の腹讐ふくしうの日暮くれて途の遠とほきと行か如し顛倒てんだうして疾行しつかうし理ぎ逆ぎやくも事を  
 施ほさるとを得ざるありと答へける既すでにして申包胥の秦國しんこくに赴おもむき國の危急ききうを告救つげすくひを求めけれ  
 ども秦之を許ゆるさず申包胥秦の朝廷てうていに立て晝夜ちやや哭なくするも七日七夜其聲こゑを絶たす秦の哀公あいこう之を憐あはれ  
 國無道くわくだうなりと雖も如是かくのごとの忠臣ちゆうしんあり存すると無なかへけんやとて乃ち車くるま五百乗の軍を援兵えんぺいとして  
 楚を救すくひ吳兵を稷丘しやくきうと云地ちに伐うたしめ大之を敗りける然れとも吳王猶支さて軍を退しりぞけず斯吳王の  
 長く楚國そこくに滯留たいりうし昭王を求て討取うちとくと爲しける間を伺うかがひ闔廬かつりよの弟夫概ふがい陣中より吳國へ亡歸にげかへり自  
 立して吳王と爲なしかの闔廬之を聞とひとしく楚國を釋すてて國に歸り夫概を撃うちて之を敗る夫概吳國  
 支さえかね遂つひに楚國へ逃亡とうぼうして昭王に降りける昭王の斯吳國かに内乱ないらんあるを見て郢おひの都みやこに復入かへりし  
 吳王の弟夫概をの堂谿たうけいといふ土地に封ほうし堂谿氏たうけいしと号なづける是より楚復吳と戰て數々合戰くわくせんし勝  
 しかの吳王も楚に勝得るとの難かたきを計り兵を引て國に歸り迭たがひに國境を守て扣ひかたり後二歳闔廬本

子夫差をして兵しやうとして楚と伐しめ番と云地を攻取けり楚國そこくみての斯吳國かの強つよを悞あやれ又もや  
 大兵おほよて攻來せめらんかと遂つひに郢おひの都みやこと云地へ徙うつしける是時あたりに當て吳の強つよきと西強楚を破り北  
 齊せい晋しんを威おそし南越人なんえつじんを服ふくしけるは是皆子胥と孫武そんぶか力ちからよ由る所なりと其後五年越人吳の命令めいれいに  
 畔そむきしかの之を征伐せいせんとて吳王自身大將として兵を進めし越王勾踐こうせん大軍を率ひきて之を防戦ぼうせんし  
 吳王と携あ手てと云ふ地ちに合戦くわくせんして大之を敗り闔廬の將指しやうしを傷けたり是に於て吳王軍を卻しりぞけて敵  
 の隙ひまを伺うかがひ居けるは傷く所の將指の如何なる故ゆへや大に痛いたみ醫療いりやう手を盡つくせとも寸功すんこうなく將まさ死  
 せんとするよ及て太子夫差を枕頭まくらづへ呼よ近ちかけ爾越王勾踐こうせんの爾の父を殺すとを忘れたるかと問とふ夫  
 差さ決けつして忘わすれぬし必ず仇あだを報はす泉下せんかに告奉つげらんと答けるか此夕闔廬かつりよに空むなしく成なりけり夫差嗣  
 て位つに即つき伯嚭はくひを以て太宰たいさいの官くわんに昇のぼせ戰射せんしやを習し兵を鍊事二年の後越を伐て夫湫ふせうに敗りける越  
 王勾踐こうせん大に敗走はいし殘兵僅わずか五千人に討うちされ會稽くわいけいの上うへに兵を引纏まとめ大夫種しゆちゆう幣物へいぶつを多く齎もたらし吳  
 の太宰伯嚭たいさいはくひの許もとへ贈り和睦わかくの事を乞こむ越王勾踐こうせん國を獻けんし臣妾しんせつとなりて事へんと願ねがひせけり吳王  
 之を許ゆるさんとせしかの子胥大に諫いさめて越王の人と爲り能辛よくしん苦くま堪たる生質せいしつにて中々心の許ゆるしかたし  
 今王彼かれを滅ほろし玉たまのすんの後の悔くみを如何いかせん許容きよし玉たまとかかと苦くしく論ろんしけるよ吳王更さら  
 小聽入きす太宰嚭たいさいひの詞ことに從したがひ遂つひに越王と和議わぎの事ことより決けつしけり其後五年を経て吳王の中國ちゆうこくにて  
 齊せいの景公けいこう死しし大臣だいじん寵ちゆうを爭あひ新君弱しんくんじやくしと聞きよりも兵を掲あげて北の方齊國せいこくを伐んするよ子胥驚おどき今越

王勾踐會稽の恥を雪んと食味を重るとなく死者を弔し疾を問ひ大に人心を結ひ死士を畜へて我國の間を窺ふ時なるを争か他國に兵を出さん勾踐の死せざる限の枕を高くして寢かたし今吳國の越王あると猶人の腹心の疾有るか如し遂に身を死すに至るへしざるを王の越を滅す心なく遠く齊國を伐んとし玉ふの尤も誤と云ふへしと諫れれども吳王の用す大軍を興して齊國を伐て大に齊の師を艾陵と云地に擊破り其勢ひも乘じ鄒魯の二國を滅して凱旋し是より愈々子胥の謀を拙しとして更は用す其後四年を経て吳王復もや齊の國を伐んとせしは越王勾踐の孔子の門人子貢の謀を用ひ越の軍隊を引卒して吳を助け且重寶を以て太宰嚭に獻遣しければ嚭斜を知らず打悦ひ其越王を信愛すると一方ならず日夜吳王と越王を執成けるより吳王の嚭の計議を信用しける伍子胥の之を見聞し大に憂て吳王に向ひ今越王の腹心の病なるを王は於て其浮辭詐譎を信し齊を貪り玉へり齊を破りたりやも遠くして保ちかたし猶石田と異なるとなく租税を収ると能ふまじ且殷の盤庚の誥は顛越不恭の者あらん之を剗殄滅して遺育するとなき種を茲新邑は易しむると勿れと命せし此殷の天下の中興せし所なり因て越も盤庚の誥の如くは爲玉ふへし齊を捨て越をこり先は征伐し玉へかし然されの後々之を悔玉ふとも及ふとなかるへしと頻に諫たりけれ共吳王の少も聽受す子胥を齊の國へ使はこり遣はける子胥旅行し臨て其子を召寄せ竊に諭して言けるは吾數々王を諫しかと王更は用ひ玉のす吾今日己は吳國の亡る事を決

定しぬ吾家の汝も預て知る如く吳國累世の臣下よあらずされ此國と共に滅亡せん事の厚も過て更は益をなし吾汝を齊國の鮑牧に託せんと思ふされ汝も然心得よと乃使を齊に奉し其子と鮑氏に委託して吳に歸りて使命をこりの報しける太宰嚭に此等の事を探偵し是より子胥を自滅さすへき時至りぬと獨咲吳王は竊に呶きけるに預て知せ玉ふ如く元來子胥の生質は剛暴にして恩少く猜賊と云ふへき人なれば近日君を怨望すると甚たしと聞からず遂に大なる禍を爲出しなん且前日王は齊を伐んと有しを子胥に伐へからずと諫言を奉りしを王は用ひ玉のす齊の合戦大捷ありしを子胥に己か計謀の用ひられぬを憤り反て王を怨望せり今又王は齊を伐んとし王ふを子胥に復た王の聖慮は悔り逆ひ強て諫を奉り軍事を沮毀して勇氣を撓す彼の心を推考するは我國の合戦は敗北して己か計謀の中らん事を幸ふのみ今王吳國境内の武力を悉くて齊を伐んとし玉ふは子胥の諫の用ひられざるを怨望し輟謝し病と伴て軍は從ふ事を願す繼は使命を奉りて歸れり王戒心し玉のすん如何ある禍の起りやせん夫のみならず小臣間諜を遣て微之を伺ひしめしは其子を齊の大夫鮑氏に託せりと注進せり夫人臣として己か國を志を得ざるより外の諸侯も子を託するに二心も非ずして獨何や斯二心を懷きあから自誇て先王の謀臣今用ひられずと憤り常々軼々として怨望せり早く之を處置し玉へと薪油の讒口は吳王の領き汝の言の亦くとも吾も預は疑ひありとて即日使を子胥の家遣して蜀鏤と名し劍を玉にり自殺をう

命しける伍子胥天を仰ぎて歎息を嗟呼譏臣駭亂を爲せり然るを王不明にして反て我を誅す我若  
 か父闔廬をして覇たらしめ若か未だ立て太子と爲さる時群公子立ん事を争ひしも我一命を抛て  
 若の父王を諫争せり然らされの若立つと能さらん若已立とを得て其時我は吳國の半を分與せ  
 んと云しも我願て望まざり然るよ今諛臣の言を聽以て我か如き長者を殺す又甚しきならず  
 やと言終り聽て其舍人を呼よせ我死後我墓上よの梓を植よか梓の棺槨の器は堪たり吳國亡  
 て王を葬る爲よ其用を爲へさう又我兩眼を抉し出して城の東門の上よ懸置へし越の寇の入て吳  
 國を滅すを觀んと言終り自身よ到て死よけり吳王此子胥の遺言を聞大よ怒り子胥か屍を取よせ  
 て馬革を以て造たる鴟夷とて酒樽の形したる器よ盛入れ之を江水の中よ流しけり吳人深く之を  
 憐み子胥か屍を取上竊に埋葬し祠を江水の邊よ立因て其處の山を胥山と命ける蓋し其名よ寄た  
 る者より吳王已よ伍子胥を誅し逐よ齊國を伐よけり又齊の國よ大夫鮑氏ある者其君悼公を弑  
 して公子陽生を立て君となしけれの吳王其逆賊鮑氏を討せんと欲せしかども勝すして空く國へ  
 歸りける其後三年北方へ兵を出し諸侯を黃池よ會し勢ひよ乘して周の天子よ命令を傳へける越  
 王勾踐の吳王の遠征を時として吳の國を襲ひ吳の太子友を殺し吳の兵を破りし由注進ありけれ  
 の吳王國よ歸り厚く幣物を越よ送り繼よ越と和睦をこり結ひけるか其後九年越王勾踐吳を滅し  
 王夫差を殺し太宰嚭を誅するよ其君よ不忠よして外重賂を受け已よ比周して國を滅すよ至ると

を以せり子胥の言是よ至て悉驗ありとて世人之を稱しける爰よ又伍子胥の初め與よ俱よ逃し所  
 の故の楚の太子建の子勝と云者吳よ在しか吳王夫差の時楚の惠王勝を楚よ歸さんとせしかの楚  
 の大夫沈諸梁諫けるの勝勇を好て陰よ死士を求むと聞り是禍を速くの本なりと言けれとも惠王  
 聽用す逐よ勝を召楚の邊邑の郢と云ふ地よ居しめ白公と号しける白公楚よ歸り三年よして吳の  
 國よて子胥を誅しけり白公勝の國へ歸りて後鄭國の其父を殺したるを怨み陰よ死士を養ひ鄭を  
 伐事を請たりしよ令尹子西之を許し兵未だ發せずして晉國より鄭を伐一かは救を楚國よ乞ける  
 故楚王令尹子西よ命して往て鄭を救しめ與よ盟ひて歸りける白公勝之を聞て大よ怒仇の鄭よ非  
 すして反て是子西ありとて自劒を礪て有けるよ人何故劒を礪やと問けれの我の子西を殺す爲  
 なりと言ける故其人走て之を子西よ告けり子西笑て勝の卵の如き者のみ何事をか爲得んと言居  
 たり其後四年白公勝石乞と云者を語らひ襲て令尹子西司馬子纂を朝廷よて殺しける其時石乞楚  
 王を殺さ、れの事成就せずと勸めけれの石乞の從者屈固之を聞楚の惠王を負て亡て昭夫人の宮  
 へ匿しけり沈諸梁の白公乱を起すと聞よりもすの我言の違さりしと其國人を引卒して白公を攻  
 撃けれの白公兵敗れ山中へ亡入りて自殺しけり石乞をの虜となし白公の屍の在處を問けるよ之  
 を告さすけれの將よ之を養殺さんと爲けるよ石乞笑て勝の卿と爲り敗るれの烹らる、固より其  
 職ありとて終ふ其屍處を告す因て石乞を烹て更よ惠王を求て復之を立けり

太史公曰怨毒の人よ於るに甚しひ哉王者すら尙之を臣下たる者よ行ふと能す況て同列の者をや  
向よ伍子胥よ父奢よ従ひて俱よ死せしめ何り螻蟻よ異ならん義を棄て大耻を雪ぎ名後世よ  
垂たり悲ひかな子胥江上よ窘に方り道路よ食を乞ふ志豈嘗て須臾も郢の故郷を忘れんや故  
よ隠忍して功名を就たり烈丈夫よ非れぬ孰か能此を致さんや白公如自立して君と爲すん其功  
謀亦道よ勝へからざる者なるか否

仲尼弟子列傳第七

編者云く孔子と弟子との問答の論語よ詳らかなる以て此篇よ省て載す只其事業の較  
著なる者を擧て之を譯す讀者之を知るべし

仲由字の子路魯國の卞邑の人あり孔子より少きと九歳子路性質鄙野よして勇力を好み志伉直  
あり雄雞の羽を以て飾りたる冠を戴き豚の皮を以て作りたる佩物の掛孔子を陵暴せしか孔  
子禮を設け稍々よ之を誘ひ玉ひけれ子路後儒服して質を委進て孔子よ服事しける學成て衛國  
よ仕へ蒲邑の太夫となり孔子よ見へて辭して蒲よ至らんとする時孔子論し玉ひける蒲の邑の  
壯士多き土地なり故よ治め難し今吾汝よ告く恭くして敬ふ時の勇を執るへし寛よして正き時の  
衆を歸せしむへし恭正よして以て靜なる時の上よ執すへしと子路之を拜受して衛の國へ至り  
けり初め衛の靈公寵姫あり南子といふ靈公の太子蕢賸過を南子よ得て誅を懼れ出奔せり靈公の

卒するよ及て南子公子鄆を立んとせしよ公子鄆肯せず亡人太子蕢賸の子輒と云者は嫡孫あり之  
を立て君と爲玉へと曰けれ即輒を立て是を出公と爲しける出公立て十二年其父蕢賸外よ居て  
入るとを得す子路此時衛の大夫孔悝の邑宰たり蕢賸孔悝と乱を作し謀て孔悝か家よ入り遂よ其  
徒と襲て出公を攻む出公戰ひ破れて魯よ奔りける蕢賸入て立是を莊公とす孔悝か乱を作すよ方  
て子路外よ在り之を聞て馳て往く朋友子羔の衛の城門を出るよ遇ぬ子羔子路を見て出公已よ去  
玉へり門已よ閉たるに子還るへし空しく其禍を受ると母れと言よ子路の少しも聽す其食を食む  
者よ其難を避すと聞けり争か此處より還るへきと言ふよ子羔も留むるよ由かく別れてころの去  
よけり時よ使者の來るありて城門を開きけるよ子路隨ひて蕢賸の處よ至る蕢賸孔悝と臺よ登り  
て之よ避たり子路進て曰君聽う孔悝を用ゆるや請得て之を殺んすと蕢賸聽さず是よ於て子路臺  
を燔んとしけれ蕢賸懼れて乃ち石乞帝鑿をして子路を攻め撃て子路の冠を斷ちけり子路  
曰く君子の死すれども冠免すと遂よ櫻を結て死しける孔子衛の亂を聞せ玉ひ嗟乎由や死せん  
と果して死しよけり孔子嘗て宣ひし事あり吾由を得より惡言耳よ聞すと是時子貢魯の爲よ齋よ  
使して田常よ説たると同時なりと

端木賜字の子貢衛人なり孔子より少き事三十一歳利口巧辭なり孔子常よ其辨を斥けて徳よ害あり  
りとし玉へり時よ齊の大夫田常亂を其國よ作んと欲し高國鮑晏を畏れ憚りて未だ發せず故よ其





兵を移して魯の國を伐んとこりの謀りける孔子之と聞せられ門弟子は宣ふに夫魯の墳墓の在る處父母の國あり今危き事此の如し二三子何り出て之を救ひさると有ければ子路往んと請ふ孔子之を留めて遣す張子石行んと請ふ孔子許さず子貢行んと請ふ孔子之を許し玉へり子貢遂に齊に至り田常は面會し説て曰君の魯國を伐んするの過てり夫魯の伐かたきの國あり其城薄くして卑く其地狭くして淺し其君愚にして不仁大臣偽りて用ゆるをなし其士民の又甲兵の事を惡む此與に戰ふ可からず君吳の國を伐こうよけれ夫吳の城高くして厚く地廣くして深く甲堅くして新よ士撰ひて以て飽く重器精兵盡く其中に在り又明太夫之を守らしむ此伐易き國あり田常之を聞て忽然として顔色を易て曰く子の難とする所の人の易とする所の人の難とする所にして子之を以て常は教ゆるの何事やと詰るよ子貢のされのあり吾之を聞く憂ひ内は在者の強き者を攻め憂ひ外は在者の弱き者を攻むと今君の憂へ内は在り吾聞君三たび封せられて三たび成さる者の大臣よ之を聽さる者あれなり今君魯國を破りて以て齊國の地を廣めんとす戦ひ勝て以て主を驕らしめ且鮑晏等師を率て敵國を破りては二臣を尊くして君の功の與らし然る時の交り日よ主君と疎く爲ると必定あり是君上の主君の心を驕らしめ下の強臣を恣にして以て大事を成んとを求るの難しと云ふへし夫上驕る時の恣は臣驕る時の争ふ是君上の主君と郤有て下の大臣と交々争ふに至らん此の如くある時の君の齊よ立んと危からん故に曰く吳と伐よ

如す吳を伐て勝る時の民人外は死亡し大臣内は空虚とならんさらの君よの上は疆臣の敵なく下は民人の過なけん主を孤立せしめ齊國を箝制する者唯君一人の手あり君如何と思ふやと説れて田常足下の議論尤も善し然ながら吾兵勢業已に魯國よ加えんとするよの人皆之を知れり今故をくして去て吳の國へ向ふ時の大臣の人々我を疑ひあんりを如何せん問ふよ子貢君已に吾か説よ從ふ上からの一計を定めて其疑ひを避んといと易かるへし但し君兵を按めて魯を伐と勿れ吾請ふ吳は往魯を救しめ齊と一戰よ及せなん君其時兵を率て吳を迎へて之を伐り然るへしと言ふよ田常之を許しぬ是よ於て子貢南の方吳よ往き吳王よ見て説て曰く臣聞るとあり王者の人の世を絶す覇者の敵勢を強くするとなしと干鈞の重き者も僅に銖兩の輕きを加へて必ず衡を移るなり今万乘の齊を以て千乘の魯を私し其封内を廣めぬ貴國と境を争ひあんん是大王の爲よ竊よ之を危むあり且夫魯の弱國を救ひ玉ふの顯名よて齊の強國を伐玉ふの大利あり此勢よ乘し泗上の諸侯を撫安し暴齊を誅し伐て強晋を威し服す貴國の利是より大あるのなし其名の亡る魯を存して其實の強き齊國を困るの策あれ智者の決して疑はず大王如何し玉ふやと辨舌懸河瀉水の如く説付られて吳王の領き子の説尤善し然りと雖とも吾嘗て越と戦ひ之を會稽よ捷しめたり越王身を苦しめ士を養ひ我よ報るの心あり子我か越と伐を待其時我子の説を聽かん子貢か曰く越の勁きと魯の國よ過す吳の強きと齊よ過す王齊を捨置て越を伐玉の、齊已よ必ず魯を平

けなん且大王亡るを存し絶たるを繼を以て名とし玉ひて反て小越を伐て強齊を避玉ふの勇と云へからず夫勇者の艱難を辞せず仁者の困約を究せしめす知者の時機を失はず王者の世嗣を絶す之を以て其義を立つる者なり今越を存して諸侯又仁を示し弱魯を救ひ強齊を伐ち威光晋國よ加へ天下の諸侯必ず相率て吳國よ朝せん是千歳の一時覆業の成ると必せり且大王若必ず越を惡の臣請東の方越王よ見へて兵を出して大王の齊を伐よ從のしめん此實の越の國を空しくして諸侯を率て以て暴齊を伐の名あり其謀豈善からずやと言ふ吳王大よ説ひ乃ち子貢を越の國へ之しめけり子貢越よ至りしかの越王勾踐道路を掃除せしめ郊外まで出迎へ身自ら子貢の車を御し旅館よ導き問ふて曰此蠻夷の國なりさるを大夫何の故を以て儼然として辱あくる來臨し玉ひ子貢其時越王よ向ひ今吾吳王よ説よ魯を救ひ齊を伐よを以てせしめ其意之を欲して偏よ貴國の後を伺ふとを畏れ我か越を伐を待て後齊を伐んとて從のす此の如くなる時の近日必ず兵を興して貴國を破らんと必せり且夫人よ報るの志無して人よ之を疑のしむるの拙し人よ報るの意ありて人よ之を知しむるの殆し事未だ發せずして先人よ聞るの危し此三者の事を舉るの大患と云ふへし大王の拙きと殆きとの二の中よ免れ玉のしと言れて勾踐頓首再拜し孤嘗て己か力を料らす乃ち吳國よ一戰よ及び一敗して會稽よ困むよ至れり其痛實よ骨髓よ入り日夜よ唇を焦し舌を乾し徒よ吳王と踵を接て死せんと欲するの孤の願ひあり遂よ子貢よ其謀とよ問けれの子貢答へ

て吳王の人よ爲り猛暴よして群臣馳驅よ堪かたし國家數回の合戰よ困弊し士卒戦ひよ苦み百姓上を怨み大臣内よ心を變せり子胥の忠よして諫を以て死し太宰嚭の佞よして權を恣よし君の過よ順ひて以て其私よ安す是り國家を殘よの治法と云ふへし今大王誠士卒を發し之を佐て其齊を伐の志を激へ重寶を贈て其心を悅のしめ辭よ丁寧よして其禮節を尊くせの其齊を伐と掌を指か如し彼戰勝さる時の大王の福此上あし若戰勝時の彼必ず兵を以て晋を攻んとすへし吾請ふ北の方晋の君よ見へて共よ吳國を攻しめの吳を弱すと必定なりさる時の銳兵の齊國の戦ひよ盡き重甲の晋國の軍よ苦みなん其時大王其困敝を制し玉ひなの吳國を滅すと芥を拾ふか如くからんと教けれの越王再拜して大よ悦ひ子貢よ黄金百鎰劍一口良矛二柄を贈りけれとも子貢辭して之を受す遂よ吳よ歸り吳王よ報して曰く臣敬みて大王の言を越王よ告しかの越王大よ恐て孤不幸よして幼少ある時父を失ひ内已か力を量らす罪を吳王よ抵軍敗れ身辱られ會誓よ棲よ至り國も已よ虚葬となりぬさるを大王の賜よ頼て俎豆の祭器を連て先祖の祭を修るとと得せしめらる此恩死よ至るとも敢て忘れさるよ何の謀ありて吳を伐とを圖んとて深く恐れて答へたり然らの一兩日の中よの定て使者を以て已か情願を言來らんと陳よけり五日の後よ至て越より大夫種よ頓首して吳王に告しめけるの東海の役臣勾踐の使者陪臣種敢て下吏よ修し王の左右よ問奉よ今銜よ承るよ大王よの將よ大義を興し玉ひ強齊を誅し弱魯を救ひ周の王室をも撫

安し玉ふどか孤願くの國內の士卒三千人を發し自身は大将と成り甲冑を被り戈矛を執りて先鋒に進み自ら矢石を受けて敵を取らん越の賤臣種も因て先祖の藏器甲冑二十領缺の斧屈盧の矛歩光の劍を奉て軍吏を賀し奉ると言來るより吳王大に悦び越王自身も寡人の軍に從ひ共々齊を伐んと願へり聽受へきや如何すへきと子貢を召て問ければ子貢答て之を許すの不可もこう夫人の領國を空くし人の兵衆を悉し又其君を從へて征伐に向ひ玉ふの不義と云へし君其幣物の武器を受納し其出兵を許して其君越王の軍に從ふとを辭玉へ是る禮義と言へきありと言ければ吳王然ありと許諾して越王の自身も軍に從ふとを謝けり是も於て吳王齊を伐り一決し封内九郡の兵を發しける子貢之を見て最早吳國も用おしと去て晉の國へ至りける晉の君も説て曰く臣曾て聞る言あり思慮前より定まらされの倉卒も應ずへからず兵勢前より辨せされの敵も勝へからずと今夫齊國將も吳と一戦も及んとす吳合戦も負る時の越後より吳を亂すの必定あり若も戰勝時の其兵を以て晉も攻來らんと是亦必定なり君之を知玉ふやと問ければ晉君大に恐れ吳の強國なり之を防くと宜しく如何すへきと其謀を求めければ子貢今も至て餘謀の更も有へからず只能兵を修練し卒を休息せしめ彼の來るを待より外おし君速も其準備し玉へと告るも晉君然ありと領諾し其命令を下しけり子貢此國も今の用なしと魯の國へ行き孔子も復命したりけり扱も吳王の子貢の謀も從ひて齊王と艾陵の地も合戦し大に齊國を破り七將軍の兵を斬獲し勝を貪りて國へ

歸す果して兵を率て晉の國へ攻來り晉の兵と黃池の上に出遇たり是地も於て吳と晉と迷も強を争ひしか晉人遂も大に吳も撃勝ける故越王勾踐之を聞兵を起して江水を打渡りて吳を襲ひ城を去ると七里もして陣營を張て扣へたり吳王之を聞て争か久しく晉を支えん晉を去て歸來り越五湖も戦ひし三戰共も大に敗れ城門を守る兵さへ逃散たれ越王遂も王宮を圍み夫差を殺して其相と誅戮しぬ越王吳を破て後三年東向して覇たり故も子貢一たび出て魯國を存し齊國を亂し吳を破り晉と強くして越を覇とす子貢一たび使して勢をして相破れしむ十年の内魯齊晉吳越大に國勢を一變しける孔門言語の科も備りける功もこう子貢廢舉とて賤時と貨物と買ひ貴時と賣出し利潤を得るを好も善貨貨を轉するとをなせり喜て人の美を揚て人の過を匿すと能ひす常も魯の宰相となり或の衛の宰相と爲り卒も齊の國もて没しぬ

○ト商字の子夏衛人あり孔子より少きと四十四歳孔子の没し玉ひし後魏の西河も居て教授し魏の君文公の師となれり其子の死するを悲み其明を失へり子夏も孔門文學の科も著れ詩を序し易を傳へ又禮を傳ふ又孔子春秋を以て屬し玉へり文侯常も之も國政を問答けるとり曾參字の子輿魯の南武城の人なり孔子より少きと四十六才孔子能孝道も通するとし故も之も業を授け孝經を作る嘗て自ら言るとあり吾嘗て仕て小吏となり祿鍾釜の少きも過ぎす尙欣々として喜ふ者も其祿を多しとするも非ず道を樂み親を養を喜ふなり吾嘗て南の方越も遊ひて尊官

を得たり堂の高き九仞じゅうじんとして椽せん題だい數尺すうせき椽せん百乘ひゃくじやう猶なほ北向きやうして泣なみ者ものの賤けんきか爲なる非あらざるるなり吾親わがみことと見みざるを悲かなむなりと晩年ばんねん魯ろに歸かへりて死しせり

澹臺滅明たんたいめつめい字なづ子羽しよ魯ろの武城ぶじやうの人ひとなり孔子こうしより少すくと二十九歳じゅうじゅうきゅうさい狀貌じやうぼう甚た惡くし孔子こうしは事ことへんと欲ほつす孔子こうし以もつ爲な材さい氣薄きはくしと己おのれ業わざを受退うけたいきて行ゆひを修おこむ行ゆは徑きんちより由よしす公事こうじは非あらされの卿大夫けいだいふを見みす南なんは游あそびて江水かうすいに至いたり弟子ていし三百人さんひゃくにんを從したがへ取しゆ去きよ就しゆの法ほふと設おぼて弟子ていしを勉督べんとくせり名聲なせい諸侯しよほは著聞ちやくもんける孔子こうし之これを聞き玉たまひ吾言わがことを以もつて人ひとを取とりし之これを宰さい予よ失しつせり彼文雅はんがの辞ことばありて智ち其辨べんは充みたす貌かたちを以もつて人ひとを取とりし之これを子羽しよ失しせり貌陋かたらう惡くなりといへとも君子くんしの行ゆありと稱しやうし玉たまへり

宓ふ不ふ齊せい字なづ子賤しぜん魯ろ人にんなり子賤しぜん單父たんふの宰さいと爲なる琴ことを彈たん身堂みだうを下くだらずして治をさまる嘗かつて同門どうもんある巫馬ふま期きと云いふ者もの此地このちを治をさめし時星ときせいを以もつて出星いでせいを以もつて入いて亦能また之これを治をさめける後のち子賤しぜんのかく寬閑くわんかんよし能治よくをさまるを見て之これを問とひければ子賤しぜん我われの人にんは任にんし子しの力ちからは任にんす力ちからは任にんする著ちやくの勞らうし人にんは任にんする者ものの逸いつすとる答こたへける單父たんふを治をさめて後のち孔子こうしは反命はんめいしける此地このちは不齊ふせいより賢まされる者もの五人ごにんあり不齊ふせいと治をさまる所以ゆゑの者ものを教おしへける故嘗かつて學まなぶ所ところを伸得のびえたりと孔子こうし之これを聞き玉たまひ惜をか不齊ふせい治をさまる所ところの者もの小ちひちり治をさまる所ところの者もの大だいちり其功そのこう古ふるは庶幾ちかからんと曰いへり

原憲げんけん字なづ子思し魯ろ人にんなり孔子こうしの没後ぼつご衛ゑいに隱居いんきよして草澤そうたくの中なかに住居すませり此時このとき子貢しこうの衛國ゑいこくの宰さい相しやうよて有ありければ馳馬しそを結むすひ從騎じよきを連つらね藜藿あかざを排おし開ひらき究閻きゆゐん入い來きりて原憲げんけんを訪たずふければ憲けん敝へいれる衣冠いくわんを攝とる

ひて子貢しこうは遇あひければ子貢しこう從者じゆしやと恥はて思おもひすも夫子ふし豈病あはれんと甚たたしからずやと言いければ原憲げんけんの我聞わがき所ところの大小たいせう異ことなり吾聞わがき所ところの財さいなき者ものの之これを貧ひんといひ道みちを學まなびて行ゆふ事能ことざる者ものの之これを病ひと云いなりとざるを子しの憲けんを病ひりと云いへり我われの是貧これひんなり病ひは非あらずと答こたへける子貢しこう慙はて擇よむして去さけるか終身しゆしん其失言そのしつげんを恥はたりと

公冶長こうげいちやう字なづ子長しやう齊人せいにんなり能鳥との語ことばを辨べんしける嘗かつて某そのの地ちは人の殺ころされて有ありける由よしを人ひとに告つげけるより疑うたわれ累なほ細ほめよころの爲なりよけり已いは按問あんもんせらるゝに至いたり子長しやう鳥語ちやうごよて知しれとを辨べんしける故ゆゑさらの之これを驗けんすへしと言いふ時ときしも檐のきは鳥雀てうじやくの喧なしく鳴なげるより有司ゆうしあれ何なにの語ことばをなすりと問とふ子長しやう喟せき々き々きたり白蓮水はくれんすいの頭かぶは車くるまの粟あはを覆くつせるあり車脚くるまのあしの泥土ぬいどは陷おり牛うしの角つのを折おたり之これを取収とれんとすれとも盡つす相伴ついでひて啄つんと語ことばるよころと答こたへければ人ひとを遣やり驗けんせしむるよ果つして子長しやうの言こと違たがはず依よて細細さいさいと救ゆるされける其後そのち孔子こうし公冶長こうげいちやうを宣のたまく縲あれの中なかに在あるといへとも其罪そのつみは非あらずとて其女そのむすめを以もつて妻めかけし玉たまへり

商瞿しやうこ字なづ子木し魯人ろにんなり孔子こうしより少すくきと二十九歳じゅうじゅうきゅうさい孔子こうし易えきを瞿くは傳つたへ瞿楚國くつこの馭臂こひ子弘しこうは傳つたへ子弘しこう江東かうとうの人ひと矯けう子庸しよ疵し傳つたへ燕國えんこくの周子家豎しゆしかは傳つたへ豎淳子じゆんしんの人ひと光子乘羽くわんしやうは傳つたへ羽齊國うせいこくの田子莊何てんしやうは傳つたへ何東武かとうぶの人ひと王子中同わうしちゆうどうは傳つたへ同蓄川どうしやくせんの人ひと楊何やうかは傳つたへ何元朔年間げんしやくねんかん易えきを治をさるを以もつて漢の武帝わんのたいふは事ことへて中大夫ちゆうだいふの位ゐに至いたれり

有若字の子有魯人なり孔子より少事十三歳孔子既没して弟子之を思ひ慕ひ有若の狀孔子に似たるを以て相共評定して立て師と爲し之と事ると其孔子の在せし時の如くありき他日弟子進て昔夫子他へ行んとするに當り雨具を持せ玉へり弟子之を訝りしか果して雨降出たる弟子孔子は夫子何を以て其雨ふるを知り玉ひしと問ければ夫子答へ玉ひけるに詩云すや月畢又離れり滂沱たらしむと然るに昨夜月畢の星は宿り他日月の畢は宿るとの多かるに竟に雨降す又商瞿年長して子あり其母深く之を憂ひ更別妻を娶しめんとしてけり此時孔子瞿を齊國に使遣んとし玉ひければ其母之を以て辭しけるに夫子曰く憂ると勿れ瞿は年四十の後まさは五男子有へしと已よして果して御辭の如くなりき夫子何を以て之を知り玉ひしやと問ふに有若默然として應るとの爲されに弟子等起て有若之を避よ此子の坐すへき席は非すと遂に師の位を斥けり

太史公か曰學者多く七十子の徒を稱するに譽る者の其實は過ぎ毀る者の或は其眞を損ず之を釣くして其毀譽する者を見るに未だ厥容貌を覩すして之を論言す謬り多き所以あり弟子籍に孔氏の古文は出是は近しと言へし余弟子の名姓文學を以て悉く論語の弟子の問を取り并せて篇と爲し疑ひしき者へ闕て取らず

商君列傳第八

商君の衛の諸庶孽の公子あり名に鞅姓に公孫氏其祖の本姬姓なり鞅少年より刑名法術の學風を好み魏國の宰相公叔座より事て中庶子となる公叔座其賢あるを知て未だ魏王は進るに及ばず座は大病に係れり魏の惠王親ら往て其病を問て言けるに公叔若泉下は赴くとあらに寡人を助くる者ありませよ社稷を如何せんと歎きければ公叔座座の中庶子公孫鞅年尚少しと雖も奇才ありて常人は非す願くは王一國を舉て此人は聽玉へ必ず愛むかるべしと言ふ惠王默然として許す心の有すして且去んと爲しければ座又左右の人を屏け王即鞅を用ゆることを聽玉のすに必ず之を殺すへし無事は此國を去しめ他國を用ひらるゝとあらに大に我國の害となるへし搆て忘玉ふへからずと再三諫めたりければ王の之を許諾して城へこり歸りけり其時公叔座鞅を召て謝しけるに今王我が没後の誰か宰相とすへきと問れば故吾汝を進しよ王の顔色許さぬ容あり吾此時君を先よして臣を後よし因て王は即用ひ玉ひすに殺し玉へと言たるに王領きて許したり汝の身の危きと風裏の燈火も唯ならず疾々去と命しける其時鞅は拜謝して王已に君の言を用ひて臣は國を任ずると能すさらの亦君の言を用ひて臣を殺とも爲へからずとて卒に去すして魏國に在けり却て說惠王の既に公叔座の館を去り左右の近臣は向ひ公叔病甚たし悲ひかある已に昏惘せし故は是非を顛倒し寡人は國を以て公孫鞅を聽せよと遺言したり豈病の爲に悖乱せしやあらすやと有り言たれに果して鞅の言の如く殺すとをも爲さるき公叔既に死し公孫鞅秦の孝公か命令を國中下し

賢者を招き先祖穆公の羈業を修め東の方敵は侵されたる地を取復さんとすることを聞迺ち遂に西の方桑の國へ入り孝公の寵臣景監は因て孝公を見ゆることを求めたり孝公既ち鞅を見て其議論を聞も時々居睡して更之を心留めす退出して後孝公景監を召し怒て子の推舉せし客の妾人のみ何とて用ゆるは足へきと甚々不興して有しかの景監歸りて衛鞅を譲けるは鞅笑て吾君侯は説は五帝の徳を以て天下を治る事を説たりしも君侯の志開悟と能す今より五六日を経て復吾を見へしめよとて鞅復孝公を見へて議論を陳けれども猶前日の如くして益々居睡をう爲しよける已よして君前を退きければ孝公復景監を叱られける景監も是非なく亦衛鞅を譲恨けり衛鞅其時君恨むと勿れ吾君侯は説は王道を以てせしも猶未だ旨は中らざるあり請復吾を見えしめよ吾善く其旨は中んと鞅復孝公を見ゆる孝公之を善して未だ用ひず罷て去る孝公景監は言けるは汝の客善し共は語るは足りと鞅曰く吾公は説は覇道を以てせしよ其意之を用んと欲す誠復吾を見えしめよ我已よ其意を知れり衛鞅復孝公を見ゆる公與は語り自ら膝の席は前を知す語ると數日よして厭す景監曰く子何を以て吾君は中たる吾君の歡ふと甚たし鞅曰く吾君は説は帝王の道三代よ此するを以てせしよ君曰く久遠よして吾待事能す且賢君の各々其身は及ひ名を天下よ顯せり安んう能く邑々として以て帝王を成んやと故は吾國を強くするの術を以て君は説きしよ君大よ之を悦ぶのみ然れども以て徳を殷周よ比しかたし孝公既ち衛鞅を用ふ鞅法と變せんと欲す天下の

人の己と議し論せんことを恐れ因て論説し曰く疑き行の名を成しかたき疑き事功ありかたし且夫人より高き行ひ有る者の固より世よ非とせられ獨知の慮有者の必ず人は嘗る愚ある者の成事は暗く知ある者の未萌は見る民の與は始めを慮るへからずして與は成るを樂むへし至徳を論する者の世俗は和せず大功を成す者の衆人は謀らず是を以て聖人苟も國を強くするとあれは故事は法らず苟くも民を利す可きとあれは其禮法は循はす孝公か曰く鞅の言尤も理ありとされければ大夫甘龍曰く然らず聖人の民を易すして教へ知者の法を變せずして治めり民情は因て教ふる時の勞せずして功を成し古法は縁て治る時の吏習て民之は安す衛鞅が曰龍の言ふ所の世俗の論あり常人の故の風俗は安し學者の己が故聞し所は濁る此二の者を以て官は居法を守るは可なり與は法の外を論する所の人は非す夏殷周の三代の禮を同く爲されども王たり齊桓晋文の五伯の法を異はずれ共覇たり智者法を作て愚者の制せらる賢者の禮を更て不肖者の拘る凡俗の論は取は足すと論しられ甘龍一句も出す閉口す其時左の方の班席より大聲論し出したるは利百よ至らねの法を變す功十よ至らねの器を易すといへり古制は法る時の過なく古禮は循ふ時の邪あし妄は法を變せんとするは國の爲は非すと諸人驚きて之を見れば太夫杜壑あり其時衛鞅足下の論も甘大夫と同じく凡俗の論と言ふへし夫世を治るは一道ならず國は便なる時の古法は法す故は湯王武王の聖人の何も古は循はすして天下よ王たり桀紂の如きは古



禮を易すして遂に滅亡せり古より反する者の非なりと爲へからず禮は循ふ者の多とするに足すと  
 も論せられ杜摯目を瞠若て默然たり孝公諸大夫の衛鞅は屈するを見て大聲に衛鞅の説尤も善し  
 諸大夫論するを止よ吾の衛鞅は従ふなりとて左庶長の官に任し卒に國法を變するの議及び  
 ける先民は五家を保となし十家を什とあして送は惡事を糾し發て一家は罪あれ九家連坐の法  
 を定めたりこの法を變するも民の守らざるを格れて重禁を設けたるあり姦を告さる者の腰斬の  
 刑に處す姦を告る者の敵の首を斬ると恩賞を同じ爵一級を與ふ姦を匿す者の敵は降參する者と  
 罰を同じくして其身を誅し其家を没す民二男ありて分異して別は生活を爲さる者の倍の年貢を  
 課す軍功ある者の各々率を以て上爵を受く私門を爲す者の各輕重を以て刑を被る大小力を僇せ  
 耕織を本業とし粟帛を出すと多き者の其身の役を復し末利を事とし及び怠りて貧しき者の舉取  
 て收孛とて没して官の奴婢と爲す宗室たりとも軍功なき者の公の屬籍は係るを得ず尊卑爵秩  
 等級を明よして各々差以を定む名田宅臣妾衣服の家の資格は從ひて僇修に至らしめす功ある者  
 の顯榮し功無き者の富りといへとも芬華よするを得ず其大略かくの如し令既よ具りて未だ布  
 告せず民の己を信せざるを恐れ乃ち三丈の木を國都の市の南門よ立て民を募り能此木を徙し  
 て北門へ置者あらん其賞として十金を予んと令するよ人民等拵みて敢て徙す者なし是よ於て又  
 令て能徙す者よ五十金を賞せんと一人有て之を徙しけるよ輒よ五十金を予へて欺かざるを明

し卒よ令をう下しける令民は行ゆる、と期年秦の民國都よ之て令の不便を言し出る者千人の多  
 よ及へり是よ秦の太子法を犯しけれの衛鞅法の行われざるの上の人之を犯すよ由るあり太子を  
 法よ就へきなれども君主の嗣なれば刑を施す可らずとて其傳の公子虔を刑よ就しめ其師の公  
 孫賈を諒の刑よ行ひける秦人之を見て驚き懼れ皆何れも法令を確守けり之を行ふと十年よ至  
 て秦の人民大よ悦ひ道よ遺たる物を拾す山よ盜賊なく家々よ給り人々よ不足なく民公の職ひよ  
 勇み私か門よの怯し郷邑共大よ治りける人民の初令の不便ありと言し者都へ來て令の便利  
 ありと言ふ者有しかの衛鞅此等の者の皆法令を乱すの民と云ふへしとて悉く之を國邊の城下へ  
 遷せける其後の人民敢て法令を議論する者なく息を凝して命令を守りけり孝公大よ悦ひ鞅は  
 良造の爵を玉りける又衛鞅は大軍を率て魏國の安邑と云地を攻圍みて之を降參させけれ其  
 權勢益々盛なり夫より三年の後冀闕宮庭の大殿を咸陽よ築き都を此地よ徙し又人民の父子兄弟  
 室を同じ内息する者を禁制し小都の郷邑聚を集め合せて縣と爲し此よ令亟の官を置凡る三十一  
 縣と定め田を多くせんか爲よ南北の道路の阡東西の道路の陌并よ封疆かの餘計よ屬する者を除  
 き去り賦税を均一よし斗桶權衡丈尺を平かよす之を行ふと四年公子虔復法を犯す之を刑よ  
 行ひける如此あると五年よして秦國富強天子祭肉を賜り諸侯畢賀するよ至りける其明年齊  
 魏の兵を馬陵よ破り太子申を虜よし將軍龐涓を殺す其明年衛鞅孝公に説て曰く秦と魏との譬の



共よ人の腹心の疾有るか如し魏の秦を并すよ非れぬ秦即ち魏を并せん何者の魏の嶺阨の西嶮固の地も居て安邑も都せり秦と河を界として獨り山東の利を擅よし利ある時の秦を侵し病時の東の方よ地を収め取れり今主君の賢聖を以て秦國頼て盛かりざるよ魏の近年大よ齊國も破られ諸侯之よ畔く此時よ因て魏を伐こう上策あれ魏秦を支えされぬ必す東よ徙ん東よ徙ぬ秦河山の固よ據て以て諸侯を制せん此り帝王たるへきの洪業とこう言へけれ如何よ聖慮を伺ふかりと言ふよ孝公以爲其言是なりと衛鞅を大將として復もや魏國を伐しめける魏王之を聞て公子卬を大將として之を防しめ軍勢迭よ相距きて未だ戦ひを接へず衛鞅魏の大將公子卬よ書を遣けるの吾始め貴國よ在し時君と相觀せり今俱よ兩國の大將と爲り相攻撃して戦ふよ忍ひす願くぬ公子と面會して盟を爲し酒宴を催して軍を罷め共よ秦と魏を安んじらん公子の來臨を仰くとの文言亦れぬ公子卬以爲これ最も然るへしと會盟よころ到りけり盟ひ已よ畢り酒宴の半よ至りし時衛鞅忽然として卮を地よ擲つを相圖として帷幙の中よ伏たる甲士破落々々と起り立公子卬大よ驚き左右よ指揮して突戦すれども固より小勢よて不意よ起し事なれぬ遂よ虜と爲りよけり衛鞅指揮して此圖を透す魏の本營を攻破れと大將を遣しけれぬ魏國の既よ大將を生捕れ争か片時を支ゆへき七裂八斷よ打破られ魏の國よころ逃歸れり魏の惠王屢々齊秦よ破られ國內空虛し日よ以削れけれぬ恐れて使を秦よ遣し河西の地を割て秦よ獻し魏の遂よ安邑の都を大梁よ徙しけり此

時惠王歎息して寡人公叔座の言を用ひざるを恨むとて後悔こうのえたりける衛鞅既よ魏を破りて還る前後の功よ由て秦之を於商の十五邑よ封し号して商君と爲しけり商君秦よ宰相たると十年宗室貴戚怨望する者多し爰よ趙良商君を見るところを求む商君鞅の君よ見るところを得しぬ孟蘭皋の紹介よ由れり今鞅足下と永く款接せんと請ふあり足下之を許すやと問けれぬ趙良僕に敢て之を願ひざるあり孔子言るとあり賢人を推て戴き尊ぶ者の進み不肖を聚て王たる者の退く僕不肖故よ足下よ損あり敢て命を受ざる所なり僕之を聞曰く其位よ非すして之よ居を位を貪るといひ其名よ非すして之を有を名を貪るといふ僕君の義を聴けぬ恐くぬ僕の位を貪り名を貪ると人よ讒らん故よ敢て命を聞すと答へたり商君其口氣を曉り子の吾か秦を治ると悦ひざるか願くぬ之を説と問けれぬ趙良反して聽を聰といひ内よ視るを明といひ自勝を強といふ虞舜言るとあり自卑する時の尙しと君虜舜の道を道よ若す僕よ問とを爲すとを休よと答へたり商君其時己の功を説て始め秦國の戎翟の教父子別かく室を同じくして居れり今我其教を更め制して其男女の別を定め大よ冀闕を築き營すると魯衛の國と異るとあし子我か秦國を治るを觀しならん五殺太夫の賢なると孰と思やふ趙良曰く千羊の皮の一狐の掖よ如す千人の諾々たるの一士の諤々たるよ如す周の武王の諤々を用ひて昌よ殷の紂王の墨々を用て亡ひたり君若武王を非とせざるか僕請くぬ終日正言を以て君よ説て誅せらるゝ無んぬ可なるへきか商君か曰く語よ之有り貌言の華か

り至言の實なり苦言の藥なり甘言の疾なりと夫子果して終日正言する事を肯の鞅か藥なり  
 將より事んとす子又何の辞するとかあらん趙良か曰く請先五穀太夫の人と爲りを説ん五穀大  
 夫百里傒の荆の鄙人なり秦の穆公の賢なる事を聞て望み見る事と願ひ旅行して資なく自ら吾身  
 を秦の客と粥り禍を被牛を食期年よして穆公其賢なる事を知り之を牛口の下より擧用ひて之を  
 百姓の上よ加へたり秦國敢て怨る者なし秦又宰相たる事六七年よして東の方鄭を伐ち晉國の君  
 專公懷公文公の三君を國又復歸せしめたり敎令を國內へ發しての巴國貢を致し徳を諸侯よ施し  
 ての八戎來服せり由余之を聞て關を叩て見へんとを請ふ五穀大夫の秦國よ相たるや勞すれども  
 坐乘せず暑けれども蓋を張す國中よ行よ車乘を從へす干戈を操す功名の府庫の中よ藏め徳行の  
 後世の遠よ施せり其死する時秦國の男女涕を流し童子の歌謠す春者の杵相歌のす此五穀大夫  
 の徳なり今君の秦王よ見ゆるの嬖人景監よ因て主とさせり名を爲す所以よ非す秦の宰相として  
 百姓を以て事とせずして大よ冀闕を築く功と爲す所以よあらす太子の師傅公孫賈公子虔を黜よ  
 し或の劓民を殘ひ傷るよ峻刑罰と以てするの是怨を畜ふるあり君の敎令の民を化する事秦國  
 の君命よりも深く民の君よ効ふ事秦國の君命よりも捷し今又君左道を建て外よ在ての君命を改  
 易せり敎とすへき所以の者よ非るあり君又南面し人君の位よ居て諸侯と同く寡人と稱し日よ秦  
 の貴公子を繩し讓む詩よ曰く鼠を相よ体あり人よして禮あからんや人よして禮あくん何う過

か又死せざる詩の詞を以て君を觀れの壽と爲すへからす公子虔門を杜て出さると已よ八年あり  
 君又祝懼を殺して公孫賈を黜よす詩よ曰く人を得る者の興り人を失ふ者の崩ると此數事の人を  
 得る所以よ非ざるなり君の出るや後車數十從車甲冑を載せ多力よして駢脅なる者驂乘となり矛  
 を持し關戰を操る者車よ旁て趨る此一物具のらされの君困より出てす書よ曰く徳を恃む者の昌  
 方を恃む者の亡ふと云へり君の危きと朝露の如し尙將幾許の年を延許多の壽を益んと欲する  
 や於商の十五都を返し國よ濫きて郊野の地よ遁れ秦君よ勸て嚴穴の士と顯し老を養ひ孤を存  
 し父兄を敬し有功を序て有徳を尊ひあり少く安穩の地よ至るへしざるを尙商於の富を貪り秦國  
 の命令を寵威とし百姓の怨みを畜へんとす秦王一旦賓客を相朝よ立す泉下よ赴むきあば秦國の  
 君の罪を收め録んと欲する者豈微ならんや亡ると足を翹て待へしと商君從ひす後五月よして秦  
 の孝公卒し太子立太子虔の徒商君反逆せんと欲すと告げれば吏を發して之を捕へんとす商君亡  
 て關下よ至り客舎よ舎せんと欲す客舎の主人其是商君なることを知らずして曰く商君の法令よ人  
 の驗なき者を舎する者の之を坐すと故よ舎するとの許しかたしと云ふよ商君喟然として歎息し  
 嗟乎法を爲の弊害一よ此身よ至るかくの如きかど去て魏の國へ行けるよ魏國よての嘗て公子印  
 を欺きて之を虜よして魏の師を破りしとを怨み居れの争か之を受納へき商君是非あく他國へ之  
 んどあしけるを魏の大夫商君の秦國の賊なるを今秦の強くして其賊我國へ入るよ秦へ送り歸さ

すの必是か惡みを受けて大は不可なるとあらんと遂は秦國へ追歸せり商君復秦入り已か領地なる商邑は走き其徒属を集め邑の兵を發して北は出て鄭國を撃けるは秦兵を發して商君を攻め之を鄭國の電池は於て殺まける秦の惠王商君を軍裂はして國內へ商君の如く謀叛を爲者の如く此ならんと徇しめて遂は商君の一家をこころの滅しける

太史公の曰く商君は其天質深刻薄行の人なり其孝公を干んと欲し帝王の術を以てせしを跡るは淨虚の説を挟み持て其本姓は非す且因る所嬖臣由用ひらるゝを得るは及びて公子虔を刑し魏の大將公子卬を欺ひき趙良の言を師とせず亦商君の恩少きを發明するは足り余嘗て商君が著す所の開塞耕戰の書を讀み其人の行事と相類せり率は惡名を秦國は受くるといはる也夫

蘇秦列傳第九

蘇秦字は季子東周雒陽の入り周の天子の大夫蘇忿生の後裔ありといふ少年より智辨を以て郷黨は稱せらる此時齊國の鬼谷といふ地は鬼谷先生と云人あり縦横家の學術を以て名を世は鳴しけるか蘇秦東行して此先生は從ひ學問すると數年自以爲く學成れりと出遊して諸侯を干せしを用ひられず大は困却して家は歸りけれは兄弟嫂妹妻妾まで窃かは皆之を笑ひ周人の風俗は産業を治め工商を力め什の二の租税を納るを務めと爲ふ今子の本業の農事を釋て口舌の議論を事とす困究するは固より其分なりと言けれは蘇秦之を聞て慙て己か身を傷み乃室を閉て出す其

師は受し所の書を出して徧く之を視る己はして曰く夫士たる者業已は首を屈て書を受け尊榮を取ると能すんは多く學ひたりとも何の益かあらんと是は於て周書の陰符を出して之と讀み稍睡を催す時の錐を引て自其股を刺血流れて腫は至るも敢て屈せず一年まで搦摩せて人主の情を揣て其意は中るの術を鍛練し出し大は説ひて曰く此金玉錦繡を出して卿相の尊位を取る事能はざる者あらんやと周の顯王は説んと欲せしは顯王の左右の從臣素より蘇秦を習ひ知りて皆之を輕して信せず乃ち西は方秦の國は至る秦の孝公卒す惠王は説て曰秦は四塞の國として山を破り滑を帯ひ東は關河あり西は漢中あり南は巴蜀あり北は代馬あり其藏する所尤も尊ふべし此天の府といふへきあり且其士民の聚きて其兵法の教とを以て天下を并せ吞て帝と稱して治むへしと言ふは秦王毛羽未だ成らず高く蜚ふへからず文理未だ明かならず并せ兼へからずと方は商鞅を誅せし時なれは辨士を疾みて用ひず乃ち東の方趙の國は至る趙の肅侯其弟成を宰相とし奉陽君と號せり奉陽君蘇秦を説はす蘇秦之を察して燕の國は至りしは一歳餘はして初めて見ゆる事を得たり燕の文侯も説て曰く燕は東は朝鮮遼東あり北は林胡樓煩あり西は雲中九原あり南は曠陀易水あり土地は二千餘里の廣きを占め帶甲は數十万の多を養ひ戰車は六百乘騎馬は六千匹兵糧は數年の畜へあり南方は碣石雁門の富饒なる山あり北方は棗栗を産するの利ありて民田作せずといへども棗栗を食とするは餘りあり此所謂天然の府藏の國と云ふへし且安樂無事はして軍

兵を覆へし大將を殺さる國の燕も過たる者なし大王の斯國內の無事ある故を知り玉ふや燕の寇も犯されず甲兵を被らざる故に趙國の其南方の蔽と成るを以てなり秦と趙と五たひ戦ひ秦の再ひ勝て趙の三たひ勝り秦趙共々斃れ勞れて王の全き燕國を以て其後を制せり此燕の寇も犯されざる故由あり且又秦の燕を攻るの雲中九原の地を踰代上谷の險を過き地を彌ると數千里縱令燕城を得るとも秦の計固より守ると能す秦の燕を害すると能はざるの明かなり趙の燕を攻るの號を發し令を出すと十日に至らずして數十萬の兵馬東垣に攻來らん噲陀を渡り易水を涉り四五日に至らずして燕の國都も距らん故に臣常以爲く秦の燕を攻むると千里の外も戰ひ趙の燕を伐つると百里の内も戰ふざるを大王百里の患を憂玉のすして千里外の患を憂ひ玉ふの計此より過つ者なし是故に願くは大王趙と從親して天下一とある時の燕國必ず患からん如何燕慮を玉ふやと言ふは文侯子の議論の則可なり然れども吾國小にして西の方の強趙も迫り南の方の齊國も近し齊趙の共々強大の國なり子必ず合從して吾國を安せんとあらん寡人國を以て其言も從はんと是も於て蘇秦も資用を與へ車馬金帛を齎して趙の國へ至らせける時は趙もての奉陽君已も死し蘇秦憚る所なく即ち趙の蕭侯も説けるは天下の卿相人臣及び布衣の士皆賢君の行義を高しとして皆教を奉し忠を大王の前も陳せんと欲し願ふの日久し然れども奉陽君姪て君よして政事も任じ玉のす是を以て賓容游士敢て自心を君前も盡す者なし今奉陽君館舍を捐て死しは

君今よりして復士民と相親み睚み玉ふならん臣故も敢て其愚なる慮を進んと欲す竊も君か爲も計も民を安し事なきも若くと莫し且く以て民も事あると無れ其民を安するの本の交りも擇ふを第一とす交を擇て其宜きを得る時の人民安和し交を擇て宜きを得ざる時の人民修身安和を得るとなし請外患を言さん齊と秦と兩國敵とありて民安きとを得ず秦を助けて齊を攻るも民安きとを得ず齊を助けて秦を攻るも民安きとを得ず故も夫人の君を謀り人の國を伐り常に辭を出し人の交を斷絶するとを苦しむなり願くは君慎みて口より出し玉ふと勿れ願くは利害を定て白と黒きとを別ち陰と陽とを異にするか如く分明も説出さん君誠能く臣の言を用ひ玉の、燕國の必す旃裘狗馬の地を致し齊の必す魚鹽の海を致し楚の必す橘柚の園を致し韓魏中山の皆湯沐の奉邑を致さ使へし而して王の貴戚父兄皆封侯を受るも至り玉ふと必せり夫地を割き利を包るの五伯の軍を覆へし將を禽よして求る所以あり貴戚を封侯もするの湯武の天子を放ち弑して争ふ所以あり今君高く手を拱きて兩之を有てるの此臣か君の爲も願ふ所以あり今大王秦も與し玉いと秦必ず韓魏を弱ん齊も與し玉の、齊必ず楚魏を弱ん魏弱き時の河外を割ん韓弱時の宜陽を效さん宜陽致さん則上郡の路の絶さん河外割の則同じく是上郡の道通せず楚弱ければ則援を失なはん此三の策の孰計らすんあるへからず夫秦軹道を下る時の南陽危し韓を劫して周の都も包む時の趙國自から兵刃を操らざるを得ず衛も據守る時の齊國必ず秦も入朝せん秦

巴は山東を得んと欲する時の必ず兵を擧て趙の國に向ひなん秦の軍兵河水を渡り漳水を踏て番  
 吾は據る時の其兵の必ず趙の都の邯鄲の下は戰ふに至りなん此臣の君の爲は患る所なり今日  
 在て山東の建國の中より趙より強き國の有ると莫し趙の地方二千里帶甲數十萬車千乘騎萬匹兵  
 糧數年を支るは足り其國たる西より常山あり南より漳河あり北より燕國あり燕の固より弱國よ  
 して畏はるは足るあり秦の天下の中は於て害とする所の者なり趙は如く然るは秦の敢て兵を  
 擧て趙を伐さる者如何なる故う韓と魏との兩國か其後を伐んとを畏る、なりされは韓魏の趙  
 の南の蔽ひといふへきなり秦の韓魏を攻るは高山大川の嶮岨あるは非ず稍之を蠶食し國都は  
 傳の容易の事あるへし韓魏秦を支ゆると能さる時の必ず入りて秦は臣とならん秦若韓魏の障な  
 き時の鋒銳の禍必ず趙は中らん此臣の君の爲は患る所なり臣聞るとあり堯帝三夫の分かく舜  
 帝咫尺の地無くして天下を有ち禹王の百人の聚なくして以て諸侯は王たり湯王武王の士は三千  
 人よ過す車三百乘よ過す率三萬人よ過す立て天子と爲りたるは誠は其道を得たればなり是故よ  
 明主の外は其敵の強弱を料り内は其士卒の賢不肖を度り兩軍未だ戰はざるは勝敗存亡の機固よ  
 り已は胸中よ形る豈は衆人の言は採ひ掠められて冥々を以て大事を決せんや臣竊は天下の地圖  
 を案し諸侯の土地を計算するは秦は五倍し諸侯の士卒を料度するは秦は十倍せり齊楚韓魏趙燕  
 の六國一と爲り力を并せ西郷して秦を攻り秦は必ず破れん今西面して之は事への秦は臣と見ら

れん夫人を破ると人よ破らるゝと人を臣とすと人よ臣とせらるゝと豈日は同して論すへけんや  
 夫秦の爲よする衡人の皆諸侯の地を割取て秦國よ予へんと欲す秦は多く地を予ふる時の臺榭を  
 高くし宮室よ美よし竿瑟の音を聽かん前よは樓閣軒轅あり後よは長姣美人あり他國の秦の患を  
 被て已は其憂は與からず是故は衡人の日夜は務て秦の權力を假て諸侯を恐喝け以て土地を割  
 事を求む故は大王の孰く之を計ん事を願ふあり臣聞く明主の疑ひを絶ち讒を去り流言の迹を屏  
 け朋黨の門を塞く故は主君を尊ひ土地を廣くし兵士を強くするの計は臣たる者其忠心を前よ陳  
 する事を得たり故は竊か大の王爲は計は韓魏齊楚燕趙を一つよして從親し以て秦國よ畔くよ  
 の如くかし天下の大將宰相を洹水の上よ會合せしめ人質を取通し白馬を刳其血を飲て盟をか  
 要約して曰んよは秦國楚を攻なば齊と魏と各々銳師を出して之を佐け韓の秦の糧道を絶ち燕  
 の常山の北を守るへし秦國韓魏を攻めり楚の秦兵の後を絶ち齊の魏の銳師を出して之を佐け趙の  
 漳を涉り燕の雲中を守るへし秦國齊を攻めり楚の秦の後を絶ち韓の城泉を守り魏の其道を塞き  
 趙の何博蘭を涉り燕の銳師を出して之を佐くへし秦國燕を攻めり趙の常山を守り楚の武關は軍  
 し齊の勃海を涉り韓魏の皆銳師を出して之を佐くべし秦國趙を攻めり韓の宜陽は軍し楚の武  
 關は軍し魏の河外は軍し齊の清河を涉り燕の銳師を出して之を佐くへし六諸侯の中よて約の  
 如くせざる者あれは五國の兵を以て共よ之を伐へしかく六國從親して秦を擯る時の秦の甲兵敢

て函谷より出て山東の諸國を害せし如此なる時の霸王の大業成就すへしと辨舌懸河の如く天下の形勢利害を説けれの趙王を初め滿座の卿大夫扱も大ひなる議論かな今より天下の一變せんを感しけり其時趙王寡人年少く國よ立の日淺く未だ嘗て社稷の長計を聞かず今上客より天下を存し諸侯を安するよ意あり寡人敬みて國を以て其詞又從いんとて乃ち車百乘黄金千鎰白璧百双錦繡千純を飾りて諸侯の要約を定めける是時周の天子より秦の強大あるを恐れ先祖文王武王の祭肉を秦の惠王に贈り致しけるかくの如くなれりやかて惠王大將犀首より兵數萬を率ぬしめて魏と攻魏の大將龍賈を討取雕陰の地を攻取り軍兵を東方へ出さんと欲する形勢なるを蘇秦見てかくて秦軍趙へや至らんざる時の吾か計策未だ成さる間破れを生せん之を拒くよ至て我友張儀より如者あしと乃張儀を激し怒しめ秦の國へ入れ之を止むる謀を爲しよける其事の張儀傳より詳かなり蘇秦是より於て韓の宣惠王に説て曰抑々韓國の北より洛陽成臯の固めあり西より宜陽商阪の塞あり東より宛穰渭水の固あり南より漢山の嶮岨あり地方九百餘里帶甲數十萬天下の強弓勁弩皆韓國より出つ谿子の柘の孳少府の時力距來の二ツの弩皆六百歩の外より射る韓の卒足を超踏て射る時の百發の弩止るよ暇あらず遠き者の挿蔽て弩を洞し近き者の鑄心を穿す且韓卒の持る所の劔戟の皆冥山の地より出つ棠谿墨陽合陽鄠師宛馮龍淵太阿此等の名劔皆陸より牛馬を斷り水より鵝雁を截り漱よ當る時の堅甲鉄幕を斬る革扶肢芮よ至るまで畢く具さるとなし韓卒の勇を以て堅

き甲を被勁き弩を驅み利き劔を帯ひて敵よ向ひなり一人を以て百人よ當るの言よ足さるなりかく韓の勁きと大王の賢とを以て反て西より向ひて秦の國より事へ臂を交て服し社稷を羞しめて天下よ笑れ玉ふり其恥此より大ある者あらんや願くは大王熟と之を計玉へ大王秦より事より秦必ず宜陽成臯を割とを求めん今茲其地を效し與へなり明年又復地を割とと求めん其度毎よ與へなり土地の之よ給するとかく與へされり前よ與へし功を棄て空しく後の禍を受なん且へ大王の地の盡るとありて秦の求め已むとあし盡ると有るの地を以て已むとあききの口よ逆ふ此所謂怨を市ひ禍を結ぶ者よて戦いすして土地を削り取れなん臣聞けるとあり鄙陋も寧ろ雞の口と爲るとも牛の後と爲ると勿れとりの何あれり雞の口より小あれども食を進むへく牛の後より大なれども糞を出せりありしかるを今西より向ひ臂を交て秦國よ臣とし事ふるの何う牛の後と異ならんや夫大王の賢を以て強韓の兵を挾みて牛後の名を受玉ふり臣竊も大王の爲よ之を羞と激する詞よ韓王の勃然として顔色を起し臂を攘け目を瞋し劔を按り天を仰き太息して曰ける寡人不肖かれども必ず秦より事ると能じ今足下詔るよ趙王の教令を以てせり吾敬て社稷を奉て從いんとり答ける蘇秦是より於て魏の國へ至り相見して襄王に説て曰く大王の地より西より鴻溝陳汝南許國昆陽石陵舞陽新都新鄭あり東より淮穎潁潁潁無胥あり西より長城の界あり北より河外卷衍酸棗あり地方千里地名より小なりと雖も田舍廩廩速列ね曾て芻牧る所なし人民の衆き車馬の多き日夜

行路絶す鞫々般々として響き渡れると三軍の行か如し臣竊も量るよ大王の國の楚國も下らず然るを秦の爲よする衡人の王を悞し強虎狼の秦を假て以て天下の諸侯を侵す卒よ秦の患を來すも其禍を顧みず夫強き秦國の威勢を挾みて内其君を劫制す罪此より大なる者な一夫魏の天下の強國なり主の天下の賢王あり今乃て西よ面ひて秦よ事へ東藩と稱し其巡狩の帝宮を築き冠帶制度皆其法を受け春秋よ貢奉して其祭祀を助んとするの意ありと聞けり臣竊も大王の爲よ之を恥つ臣聞く越王勾踐の合戦よ做れ卒三千人のみありしも後干遂の一戦よ吳王夫差を禽たり周の武王の卒三千人革車三百乘の小勢よて般紂を牧野の地よ滅しぬ豈よ其士卒の衆きやらんや能其武威を奮ひし故あり今臣竊も聞くよ大王の士卒武士二十万蒼頭の兵二十万奮撃二十万斷徒十万六百乘騎馬五十匹ありと此其越王勾踐周の武王よ過ると遠しと云へし然るを群臣の説よ聞て秦國よ臣とし事へんとす夫秦よ事ふれよ必ず土地を割て臣とし事る實効を見さすんよある可らず故よ兵また用ひさるよ國已よ勵なん凡る群臣の秦よ事へんと言ふ者よ皆舉姦人よして忠臣よ非ざるなり夫人の臣よ爲て其君の土地を割て人よ與へ外の交りを求め一時安眠の功を偷み取て其後の禍を顧す公家を破て私門を營み外の強秦の威勢を挾て内よ其君を劫し制し以て土地を割とを勸心願くよ大王之を熟察し玉へ周書よ曰く繇々として絶されよ蔓々たるを奈何せん毫釐よして伐されよ將よ斧柯を用ゆんとす前慮定まらずんよ後大なる患あらん將よ之を如何せんとする

大王誠能臣よ聽六國從親し心を專よし力を并せ意を壹よし玉の、必ず強秦の患なからん故よ做邑に趙王臣よ愚計を效し明約を奉せしむ大王の詔をもて之を詔よ在り魏王曰寡人不肖未だ嘗て明かなる教を聞とを得ず今足下趙王の詔を以て告らる敬て國を以て其命よ從いんと答へけり因て東の方齊の宣王よ説て曰く齊の南よ泰山あり東よ限邪あり西よ清河あり北よ勃海あり此所謂四塞の國なり齊の地方二千餘里帶甲數十萬兵糧丘山の如し三軍の良五家の兵進と鋒矢よりも疾く戦ふと雷霆よりも激く解ると風雨よりも急し即ち軍役あるも未だ嘗て泰山を倍き清河を絶り勃海を涉さるあり臨淄の城都よ七万の戸數あり臣竊も之を料よ一戸三男子よ下らす三七二十一萬人あり遠き郡縣より發するを待すして臨淄の卒固より己よ二十一万よ充り臨淄甚た富て實ち其人民竿を吹き瑟を鼓き琴を弾き筑を擊雞を鬥し狗を走し六博蹋鞠等の樂を爲さる者あり臨淄の都の車轂擊ち人肩摩り枉を連て帷を成し袂を舉て幘を成し汗を揮ひて雨を成し家々よ般よ人々よ足り志高く氣揚る夫大王の賢と齊の強きを以てせよ天下能く當ると莫し然るを西面して秦よ事ふ臣竊も大王の爲よ之を羞つ且夫韓魏の秦國を重し畏るよ所以の秦と境壤界を接すれよなり兵出て相當ると十日を待すまて戦勝存亡の機決せり韓魏戦ひて秦よ勝時よ其兵半の折て四境を守ると能はず戦て勝さる時よ國已よ危亡すると其後よ隨ひて至る是韓と魏と秦と戦ふとを重りて之か臣たるを重さる所以あり今秦の齊を攻るよ則夫と異なり韓魏の土地と背よし衛の陽晉

の道を過ぎ亢父の險を徑り車軌を方るを得ず驕の列を爲とを得ず百人險を守る時の千人も過るとを得ず秦深く入らんと欲するも狼の如く顧て韓魏の其後を討とを恐る、あり是故又伺疑ひ盧喝騎矜して敢て進すされの秦の齊を害すると能ざるの亦已よ明かり夫秦の齊を奈何ともするに無きを深料らすして西面して之を事んと欲す是群臣の計過つと謂ふへし今秦國又臣と事るの名なくして國を強くするの實あり臣是故に大王の少しく意を留て之を計るとを願ふかり齊王の曰く寡人不敏且僻遠の地にして海を守る窮道東境の國なり未だ曾て賢者の餘教を聞とを得ず今足下趙王の詔を以て詔らる敬みて國を以て従ひさんと諾しける蘇秦乃ち西南の方楚の國に至り楚の威王と相見して説て曰く楚の天下の強國なり王の天下の賢王なり西の黔中巫郡あり東の夏州海陽あり南の洞庭蒼梧あり北の陘塞鄆陽あり地方五千餘里兵士百万車千乘騎馬萬匹兵糧十年の畜へあり此霸王の資なり夫楚國の強きと大王の賢明とを以て天下能當ると有とあし今乃て西を面て秦國の臣たらんと欲する時の天下の諸侯皆西を向て秦の章臺の下に朝觀せざる者なからん秦の害とする所の者なり楚國又如となし楚強き時の秦弱く秦強き時の楚弱らん其勢ひ決して兩なから立す故に大王の爲に計るは從親して秦を孤立せしむるは如くなし大王從親よ從ひ玉のすんは秦必ず兩軍を起して楚國を伐かん一軍の武關より出一軍の黔中より下らぬ鄢郢の都の動くへし臣聞く之を其未だ乱れざるは治るなり之を其未だ有ざるは爲あり患至りて後

よ之を憂ふるも及ふなきのみ故に大王蚤く之を孰計し玉ふとを願ふかり大王誠能く臣の言を聽玉の、臣請ふ山東の國より四時の貢賦を奉て大王の明詔を承させなん社稷を委ね宗廟を奉し士を練り兵を勵き只大王の之を用ひ玉ふ儘ならん大王誠能臣の愚計を用ひ玉の、韓魏齊燕趙衛の妙音美人必ず後宮に充ち燕代の橐駝良馬の必ず外厩に實たん故に從合時の楚國王たらん衛成る時の秦國帝たらん然と今霸王の業を釋て人は臣たるの名を取玉ふの竊も大王の爲に取ざる所かり夫秦の虎狼の國なり天下を呑の心あり是天下の仇讎あり衛人の皆諸侯の地を割與へて秦に事んと欲す此所謂仇を養ひて讐を奉く者と云ふへし夫人の臣と爲りて其君の地を割あたへて外虎狼の秦に交り以て天下を侵し掠む卒は秦の患へありても其禍を願みず夫外は強秦の威を挾て以て内は其君を却かし其地を割とを求むるは大道不忠此は過たる者なし故に從親すれは天下の諸侯地を割て楚に事へ衛合すれは大王地を割て秦に事へ玉の此兩の策の相去る事甚だ遠し大王何れ居玉ふや故に敝邑の趙王賤臣に命して愚計を效し明約を奉せしむ只大王の賢慮に在のみ楚王の曰く寡人の國西の方秦國と境を接へたり秦巴蜀を舉り漢中を并するの心あり秦の虎狼の國にして親むへからざるなりしかるは韓と魏との今己は秦の患に迫れり與に謀るは足ざるへし若深く與に謀りて約を反きて秦に入る事ある時の謀末た發せずして而して吾國すでは危からん寡人自ら料るは楚の力を以て秦に當るは勝事を見ず内群臣と謀り恃り足ざるなり寡人臥れども





席を安せず食へども味を甘んぜず心揺々然も懸れる旌の風も靡き終薄所なきか如し今足下天下を一よし諸侯を収め危き國々を安せんと欲するの高義と云ふへし寡人謹みて社稷を奉て以て足下の計は從へんと答ける是は於て六國從合して力を并す蘇秦從約の長とあり并て六國は相たり北の方此事を趙王は報す乃ち行て故郷雒陽を過く車騎輜重諸侯各々使者を發して之を送ると太た衆し其儀衛王者は擬ふべし周の天子顯王之を聞て大は恐悞し道路を掃除去上卿を出して郊勞せしめ己か蘇秦を用ひざる事を頻は後悔なしよけり蘇秦の聽て己か家へ歸り入けるは冕旒の冠を戴き紳を垂笏を正しくしたる形狀の鬼神の如く思ひれて昔し困窮して歸り來りしと云ふを違ひされの兄弟妻嫂目を側て敢て仰き視る者なく俯伏して側は侍り食物等を捧げ、れは蘇秦咲ふやと云ふ嫂は嫂の大は恥らひ委蛇蒲服して面を地は掩て謝けるは昔年の困窮して歸り玉ひし故心はあらぬ無禮を爲したり今日位は高く金多き故を以てかく恭ひ奉く事はこゝろと答へければ其時蘇秦喟然として歎息し昔し困窮して歸りし時今日富貴にして歸り來りしも同じく一人の身にして蘇秦は易り有るとなし今富貴の身とありては親戚も之と畏み悞れ昔貧賤なる時之を輕去易とれり況て他人の恠むは足ざるなり若我は雒陽負郭はて膏腴の田地二頃あらしめは生涯の活計は心を安し奮發の心なく争か六國の宰相の印綬を佩る富貴の身に至らんやと一言終り聽

て從者を召し金銀珠玉を取出さしめ山の如く積置き千金を散して宗族朋友は賜ひける初め蘇秦が燕へ往し時僅は百錢を貸て旅費となしけるか此度百金を以て之を償ひ其外徧く恩德を受たる者十分は報をこゝろ爲しよけり其從者の中一人未た報を得ざる者あり其者進み出て己か事を言ければ蘇秦笑て我決えて汝を忘れたるは非ず汝の我と燕の國へ至りし時易水の邊にて我を去て去んとせしと再三なりき吾汝は舉動よて心よ之を察たり是時よ當りて我尤も困迫せり故よ汝を怨むと深し是故よ汝は後よ爲し者なり今汝よも與んと多くは金を與へけり蘇秦既は六國の從親を約して趙は歸りければ趙の肅侯封地を與へて武安君と爲しよけり乃ち六國一同より從約の書を秦の國へ投入ければ秦國の強きも辟易し兵を函谷關は出して山東を闚る者十五年の久きよ及ける其後秦は犀首は命して齊魏の二國を欺かまめ與よ共は趙を伐しめ從約を取らんとせしよ齊魏之は欺かれ趙を伐しかは趙王蘇秦を讓ければ蘇秦恐れて燕は使して必ず齊は報せんと請ひて趙を去りしかは從約全く解よけり秦の惠王其女を以て燕の太子の婦となしける是歳文公卒し太子立是を燕の易王と爲す易王初て立し年齊の宣王燕の喪は乘して之を伐ち其十城を攻取りたり易王蘇秦は謂けるは往年先生燕に至られし時先王先生は資して趙王は見へしめ遂は六國の從と約したりき今齊先つ趙を伐ち次は我燕に至れり此從約其驗あして云へし是先生の故を以て天下の笑を招きたり先生能燕の爲よ其侵し取たる地を齊より得ることを爲し得へきか如何やと

詰るよ蘇秦大は慚臣速かよ齊に至りて之を取返さんと齊の國へ至りける乃ち齊王よ見え再拜  
 し俯て慶びを述仰て弔を言ひけれの齊王怪みては何故慶と弔の相隨ふとの速かあるや蘇秦か曰  
 く是固より説あり飢たる人の飢ても鳥喙を食ひぬ故の其愈々腹も充て餓て死すると患を同じく  
 するか爲なり今燕國の弱はありといへとも秦王の少増ありさるを大王其十城を利として長く強  
 秦と仇をあす今弱燕は鷹行を爲さしめて強秦は其後を敵せ終は天下の精兵を招き玉ふの是鳥喙  
 を食ふの餓者と同類あり齊王愀然として顔色を變て憂ひて言ける然る時の奈何して居らんと  
 問よ蘇秦の心は悦ひ臣聞古の善事を制する者の禍を轉して福と爲し敗れは因て功と爲すと云へ  
 り大王誠能く臣の計を聽玉の、燕の十城を歸さるへし燕故なくして十城を得る時の必ず喜ん  
 秦王已か増の故を以て燕の十城を返すと聞なれ亦必ず喜ひかん此所謂仇讎を弄て石の如き交を  
 得る者なり夫燕と秦と俱は齊は事へなり大王の号令天下取て聽さる者有るとなし是大王の虚  
 辞を以て秦國を附十城を返して天下を取玉ふ上策よて霸王の業とこり言へきなれと説れて齊王  
 善と稱し燕の十城を返しける人の蘇秦を毀る者あり左右は國を賣る反覆の臣なり遂はの大乱  
 を爲すへしと言けれの蘇秦罪を得るとを恐れ燕は歸りけるよ燕王の蘇秦を舊の官は復せさりし  
 かい蘇秦燕王よ見て臣の東周の鄙人なり分寸の功有と無して王親ら之を宗廟は拜し之を朝廷は  
 禮せり今臣王の爲は齊の兵を卻けて十城を収め返せしかの宜しく益々親み玉ふへきよ今歸り來

て王臣を官は復せざる者の人必ず不信の者ありと臣を王は讒する者有しからん臣の不信の大王  
 の禍あり臣聞く忠信の自ら爲よする所以なり進取るの人の爲よする所以なり且臣の齊王よ説る  
 の曾て之を歎くよの非す臣老母を東周の故郷に棄置きたり是因より自ら爲よするを去て進取  
 を行ふ者なり今孝なると曾參の如く廉あると伯夷の如く信なる事尾生の如くある三人を得て王  
 は事しめ何若うや王の曰足かん蘇秦其時孝なる事曾參か如くならん義決して其親を離れて外  
 は一宿せざるへし又安う歩して千里は行て弱燕の危王は事へんや廉なる事伯夷か如くならん義  
 孤竹君の嗣と爲らす武王の臣と爲るを肯す封侯を受すして首陽山の下は餓死せり廉ある事斯の  
 如きあらん王又安う能よ歩して千里は行て進み取る事を齊は行のしむる事を得んや信なる事  
 尾生か如くあらん女子と梁の下は期するよ女子來す水至て去す柱を抱きて死せり信なる事斯の  
 如きあらん王又安う之は歩して千里は行て齊の強兵を卻けしむる事を得んや臣の所謂忠信よし  
 て罪を得たる者なりと言ふよ燕王否若忠信ならざるのみ豈忠と信との二ツを守りて罪を得る者  
 有へきやと詰れの蘇秦然か一同よの言かたし臣聞く客の遠く吏とありて家は残りし妻の人は通  
 する者あり其夫將は歸り來んとするを其姦夫之を憂ひけるよ妻の曰憂ると勿れ妾已は毒酒を製  
 して待居るなりと居ると三日ありて其夫歸り來れり妻は妾よ命して毒酒を擧て之を進め使るよ  
 妾の之を知り酒は毒あるとを言んとすれの其主母を逐出さんとを恐れ言ましとする時の其主父

を殺すとを恐れ已とを得ず伴り侍て酒を他も打翻しければ主父其哀情を知らされの大も怒て之を咎つと五十杖に至りける是妾一だひ侍て酒を覆へし上の主父を存全よし下の主母を存全せり然れとも咎るゝとを免れず争か忠信の必ず罪を受しと言ふとあらん臣の過も不幸よしして此妾は類する者と言へきのみと言ふ燕王大も悟り先生復ひ故の官も就へしとこり命し益々厚く之を遇ひける易王の母の文侯の夫人ありしか蘇秦と私通して有しを燕王知りつゝ之も事て益々孝行なり蘇秦遂よの誅の身よ及のんを恐ひ乃ち燕王も説けるの臣燕國のみ居りての燕を重らしむる事能ふま玄齊も在る時の燕を重んせしむるの術あり然し玉のすやと願ひければ燕王の唯先生の心の儘ありと許す蘇秦伴りて罪を燕も得たる爲して逃亡して齊の國へり走きけり齊の宣王預て其才略を知る者から客卿の位を授けける己よしして齊の宣王卒し其子湣王位も即けり蘇秦湣王も説勸て父の葬送を厚くして其孝心を明かよし宮室を高し苑囿を大よしして得意を明よし齊國を破り敵して燕の爲よせんと欲す間もなく易王卒して噲立て王と爲れり其後齊の大夫蘇秦と寵愛と争ふ者ありて人よ蘇秦を殺さしめけるよ死せず殊てこりの逃走れり齊王人よ命して賊を索し求めさせけれども捕ふるとなし蘇秦死せんとする時齊王も謂けるの臣死よ即ちの臣の尸を車裂よし市中へ徇しめて蘇秦燕の爲よ乱し齊國も爲んとせしと死後も顯然たり因て刑も行ふと告玉の、臣を刺たる賊必ず出なんと死後其言よ従ひければ果して其賊 自出よける齊王

因て之を誅しければ燕よての之を聞き甚たしひか齊の蘇生の爲よ仇を報ひたる事民を詐るといふへしと言けると蘇秦の死後よ至りて燕の爲よする情實泄ければ齊後よ之を聞て乃ち燕を恨みけり燕聞て其た之を恐れける蘇秦の弟を代と曰ひ代の弟蘇勵共よ兄蘇秦の功名を遂たるを見て皆學問を爲しけるか蘇秦の死するよ及ひて蘇代蘇秦の故事を襲んと欲し燕よ至て燕王も見て臣の東周の鄙人なり窃よ大王の義甚た高き事を聞く故よ不敏の身を以て鉏耨を釋て大王を干す曾て趙の都邯鄲よ至り趙王も見え群臣も接し市街を逍遙せしよ見る所の者東周よて聞しよ劣れり臣窃よ其志よ負きたり今燕の朝廷を見るよ大王こり天下の明王といふへきありと曰ければ燕王か曰く子か今言ふ所の明王どの如何ある君を曰者うや蘇代對へて臣聞く明王の其過を聞とを務めて其善を聞くとを欲せず臣因て請らくの大王の過を請しかん夫齊趙の燕の仇讎あり楚魏の燕の援國なり今大王仇讎よ奉て援國を伐の燕を利する所以よ非ざるなり王自之を慮り玉へ此の則計の過者よして群臣王へ聞する者あき忠臣よ非るあり王曰く夫齊の固より寡人の讐よして伐んと欲する所直吾國敵力足ざるを患るなり子能燕を以て齊を伐なの寡人國を擧て子よ委せさんと有よ對へて凡り天下の戰國の七よしして燕其弱と第一よ處り獨戰ふとの能はず附所ある時の其國必ず重し南の方楚も附時の楚國重く西の方秦も附時の秦重く中韓魏も附時の韓魏重らん且苟も附所の國重れれば此必王をして重らしむるの必定なり今夫齊の長大の主よし

て自ら用ゆると甚た過たり南の方楚を攻ると五年畜聚竭たり西の方秦よ苦むと三年士卒罷散れ  
 たり北燕國と戦ひ三軍を覆して僅よ燕の二將を獲たり然して其余兵を以て南面して五千乘の  
 大宋を擧て十二諸侯を包并せんとす此其君の欲盡く得て其民の力の已よ竭たり惡う取よ足んや  
 且臣之を聞く數々戰ふ時の民勞す久しく師する時の兵散るといへりされの畏る、よの足さるや  
 りと言へり燕王吾聞く齊よ清濟濁河ありて以て固ど爲よ足り長城鉅防ありて以て塞となすよ足  
 りりと誠よ然るか問ふよ答へて天の時齊よ與せざる時の清濟濁河有といへ共惡ん固めと爲  
 よ足んや民力罷散する時の長城鉅防ありと雖とも惡う塞となすに足んや且異日濟西の兵の師よ  
 就さるの趙國を恐れて之よ備るなり河北の兵の師よ就さるの燕國を恐れて之よ備るなり今濟  
 西河北の兵とても舉皆軍役よ就たるの封内の敗るよ所以を知り玉ふへし夫驕り亢ふる君の必ず  
 利を好み亡國の臣の必ず財貨を貪る王誠能く寵子母弟以て人質とし寶珠玉帛以て左右よ事ふる  
 ことを差玉のすんの彼齊王よの燕を徳ありとして輕々しく宋を亡すと有らんとすへし如此あれ  
 り齊の亡すへきのみ燕王の曰く吾終よ子を以て命を天よ受んとて乃ち一人の子よ齊よ人質とし  
 ける而して蘇勵燕の質子よ因て齊王よ見るとを求めしよ齊王蘇秦を怨むの餘り蘇勵を囚んとし  
 けるを燕の質子謝して遂よ質を委て齊の臣と成りよけり爰よ又燕の宰相子之の蘇代と婚姻の  
 縁を結ひ燕國の政權を得んと欲し乃ち蘇代よ燕の質子よ齊よ侍せしめける故齊の代よ命して質

子の安寧を報せしめしよ燕王問けるの齊王の其諸侯の覇となるへきか代か曰能し燕王何故  
 と問けれの代か曰其臣下を疑て信せずか、る器略よて如何て霸王と爲るとを得んと答へけるよ  
 り燕王の専ら宰相子之よ信任し己よして遂よ位を讓けれの燕國忽地騷動して遂よ燕王噲并ひよ  
 宰相子之を殺よ至り國人昭王を立て王とあしける蘇代蘇勵遂よ燕よ歸らす蘇代も終よ齊よ事け  
 るよ齊善之を待けり其後蘇代魏を過けるよ魏人燕の爲よ代を執へける齊他人を遣て魏王よ謂し  
 めけるの齊の宋の地を以て秦王の弟涇陽君を封せんと請と聞けり然れとも秦必ず受さらん秦齊  
 を有せして宋の地を得るを利とせざるよの非るなり齊王と蘇代とを信せざるなり今齊と魏と和  
 せざるかくの如く甚しき時の齊も秦を取かす秦も亦齊を信せん齊と秦と和合して涇陽君宋の地  
 を有ちな魏の爲に決して利あるへからず故よ王蘇代を東せしめて齊よ歸すよ如のあしさら  
 り秦必ず齊を疑ひて蘇代か齊魏を合するかと之を惡みあん齊秦合す天下變なき時の仇とする所  
 の齊を伐へき形成ぬへしと説せけれの魏國よて終よ蘇代を放ち歸しぬ蘇代宋よ之しよ宋よて亦  
 善之を待いけり此時齊宋を伐て宋太た急なる故蘇代乃ち燕の昭王よ書を遣て曰けるの夫燕の列  
 り万乘よ在て人質と齊よ入置玉ふの名分卑くして權力輕し万乘を奉して齊を助て宋を伐つり人  
 民勞して財用費ゆ夫宋を破り楚の淮北を殘ひ齊を肥して大よすれの饜強くして國よ害あらん此  
 三ツの者の皆國の大敗あり然れとも大王の之を行ふ者の將よ信を齊よ取詐らざるを示し玉ん

とのとならん然れどもしか爲し玉ふ時の齊よ於ての加々大王を信せずして燕國を忌むと愈々甚  
 じからん是王の計 過てりと云ふへし夫宋を以て淮北を以て之を齊よ加るの万乗の國を強く  
 するありざるを齊よて之を并せの是一の齊國を益あり北夷の齊よ附者方七百里之よ魯衛を加へ  
 ちの万乗の國を強くするあり而るを齊之を并せの是二の齊國を益あり夫一の齊國の強きよすら  
 燕猶狼の如く顧て支ると能はず今三の齊を以て燕よ臨め其禍必ず大ひならん然れども智  
 者の事を舉るの禍よ因て福と爲し敗を轉して功と爲す齊國の尊ふ所の紫の敗素を染たるなれど  
 其買の十倍せり齊の大國の名あるのみよて其疲弊すると敗素と同じ昔時越王勾踐の會稽よ擡し  
 かども復強吳を残して天下よ霸たり此皆禍よ因て福と爲し敗を轉して功とさせし者なり今大王  
 若禍よ因て福と爲し敗を轉して功と成んと欲せの挑て齊を霸として之を尊ふよ勝れるとかし使  
 を遣て周の王室よ盟のしめ秦の符を焚て曰ひ玉へ其第一の良計の秦を破らん其次の必ず長く之  
 を擡けん秦擡らるゝを以て破れを待よ至りあり必ず之を患へなん秦五世の間諸侯を伐て威  
 を奮ひしも今齊國の下と爲り秦王の志苟かたりども齊を究するとを得の國を以て功を爲すとを  
 憚からず然の王何り辨士を遣て此言を以て秦王よ説しめざるうのかくう曰へきかれ燕趙宋を破  
 り齊を肥し之を尊て之か下たる者の燕趙之を利とするよ非ず之を利とせずして勢ひ之を爲す  
 者の秦王を信せざる故ありされの王よ於て何故よ信すへき者よ燕と趙とを接取ざる秦王の母弟

漢陽君高陵君を燕趙よ先んして人質と爲しめよ秦よ變有時の因て以て人質とあし燕趙共よ秦を  
 信せんさらの秦の西帝と爲り燕の北帝と爲り趙の中帝と爲りぬへし三帝を立て命令を天下よ下  
 し若韓魏令を聽されの秦之を伐ち齊命を聽されの燕趙之を伐つ如此かれの天下聽ざる者なし天  
 下服し聽の因て韓魏を驅て齊を伐て曰んよ必ず宋の土地を反せ楚の淮北を歸せと責むへし宋  
 の地を反し楚の淮北を歸すの燕趙の利とする所並よ三帝を立るの燕趙の願ふ所なり夫實の利と  
 する所を得尊き事の願ふ所を得の燕趙乃齊を棄る事の願ふ所なり夫實の利とする所を得尊き事  
 の齊の覇業必ず成ぬへし諸侯齊を替て王從のされの齊の爲よ國伐れかん諸侯齊を替て後よ王之  
 よ從ひなり是王の名卑々して賤し今燕趙を収れちの國安くして王の名尊くして貴しと云ふへし  
 さるを此二國を収れされの危くして名も亦從ひて卑しかるへし夫尊と安きとを去て危きと卑き  
 とを取るの智者の決して爲さるなり秦王此説を聞かひ必ず心を刺か若くあるへしされの王よ  
 何故よ辨士を遣て此苦言を以て秦よ説しめざる秦必ず此謀を取て齊の必ず伐るへし夫秦を取な  
 りの厚き交りと云ふへし齊を伐ちの正き利と云ふへし厚き交りを尊ひ正き利を務むるの聖王の事  
 業と云ふへしと燕の昭王其書を善し先人嘗て蘇氏よ徳あり子之の乱ありて蘇氏此國を去れり燕  
 國仇を齊よ報ひんと欲する蘇氏よ非れの可ある者なしとて乃ち蘇代を召て復善之を侍ひ共よ齊  
 を伐つとを謀り竟よ齊國を破り潛王を走せける其後秦よて燕王を召寄ければ王往ん思ひしよ蘇

代王を約めて楚の積の地を得て國亡ひ齊の宋の國を舉て國亡ひたり齊楚の二國積宋を有を以て  
 秦も事るとを得ざる者の如何ある故や功有者の秦の深き讐なれりあり秦の天下を取るの義を  
 行ふも非ず暴あり秦の暴を行ふの正しく天下を告て楚も告けるの蜀地の甲船も乘岷も浮ひ夏時  
 の水勢も乘して江水も下りなり五日もして郢の地に至るへし漢中の甲兵船も乘巴の地も出て夏  
 の水勢も乘して漢水も下りなり四日もして五渚の地に至るへし寡人甲兵を宛の地も積み東して  
 隨國へ下りなり智者ありと雖も謀るも及す勇者ありといへ共怒るも暇あらじ楚國と取る事集  
 を射るよりも易し王乃て天下の函谷を攻るを待の亦遠からずやと楚王之か爲も十七年秦も事た  
 りき秦正しく韓も告て曰けるの我少曲の地も起ら一日の内も大行山を斷絶なん我宜陽より起  
 りて平陽の地も觸なん二日の内も國中動搖すへし我兩周を離て鄭國も觸出なん五日の内も  
 貴國を拔さんと韓氏信も然りとし遂も秦も事へたり秦正しく魏も告けるの我安邑を舉女戟を塞  
 かん韓氏の大行山の斷切なん我軹道南陽封冀の地も下り兩周を包夏の水勢も乘して輕舟も浮へ  
 強弩前も在り鉄戈後も在り榮口を決して大梁の都も水攻もせぬ拔取るへし白馬津の流を決しな  
 の外黃濟陽の地の掌中も在り宿胥の阿口を決しな虚と頓丘か守かたけん陸より攻る時の河内  
 の地を撃ち水より攻る時の大梁を滅しなんと曰けれの魏氏然ありとし故も秦も事へたり秦又安  
 邑を攻んと欲するも齊の之を救ふとを恐れ宋國を以て齊も委して曰けるの宋王無道もして木こ

以て人形を造り以て寡人も寫り其面を射る寡人地絶へ兵遠くして攻るも由なし王苟能く宋を破  
 りて之を有ち玉ひなり寡人か自ら之を得ると異なるもあしと已も安邑を得女戟を塞きしかり因  
 て宋を破るを以て齊の罪となせり秦又韓を攻んと欲し天下の之を救ふを恐れ則ち齊を以て天下  
 も委て齊王四たひ寡人と約し四たひ共も寡人と欺きたり且天下を率ひて寡人を攻る者三たひ齊  
 ある時の秦なく秦ある時の齊なからん必ず之を伐ち必ず之を亡さんと云へり已も宜陽少曲を得  
 て蘭石を取りしかり因て齊を破るを以て天下の罪となせり秦又魏を攻んと欲するも楚の救んと  
 を重り畏れ則南陽の地を楚も委ねて寡人固より韓と絶んとせり均陵を残り鄆阨を塞き苟楚も利  
 ある時の寡人自ら之を有か如しと曰ける故魏與國を弄て秦國も合ひたり因て鄆阨を塞くを以て  
 楚の罪となせり兵林中も困りて燕趙を重れの膠東を以て燕も委ね濟西を以て趙も委ね己も魏も  
 講和するを得て公子延を質とし大將犀首も命して軍行を屬せしめて趙を攻たり兵又譙石も傷  
 れ陽馬も敗られて魏を重かる時の葉と蔡とを以て魏も委ね己も趙も講和する時の魏を劫かして  
 爲も此地を割す困む時の太后の弟穰侯を出して和睦を講し嬴時の舅も母とを兼欺けり燕を適る  
 よの膠東を以てすと曰ひ魏を適るよの葉蔡を以てすと曰ひ楚を適るよの鄆阨を以てすと曰ひ齊  
 を適るよの宋を以てすと曰ふ其言循環するか如し兵を用ゆると刺蜚か如し母も制すると能はず  
 舅も約むると能ず魏の龍賈の戦ひ韓の岸門の戦ひ魏の封陵の戦ひ趙の趙莊の戦ひ共も秦の韓魏

趙の人民を殺せしと數百萬今日其生る者の皆秦の戰し死したる者の孤なり西河の外上維の地三川晉國の禍三晉の半の秦の禍かくの如く大なり而も燕趙游説の士皆以て秦より事を争ひて其君を説く此臣の大も患る所なりと燕の昭王此議を容て秦より行さりき蘇代復燕國を重せらる燕諸侯の從親を約せしむる事蘇秦の時の如くせしよ或の從親し或の從親せず天下此よ由て蘇氏の從約を宗主とせり代と勵と皆壽を以て死し二人とも名聲諸侯は顯れたり

太史公か曰く蘇秦兄弟三人皆諸侯より游説して以て其名を天下に顯せり其術權變も長して蘇秦の反間を被りて死したり天下共之を咲ひ其術を學ふとを諱り然れとも世も蘇秦の事を言ふ異説多し異時事の之も類する者あれい皆之を蘇秦に附て其所業とせり蘇秦閭閻より起りて六國の從親を連ね秦國を擯くると十五年此其智人より過たる者あり吾故も其行事を列ね其次序を次て蘇秦のみ獨り惡聲を蒙らざらしむ

張儀列傳第十

張儀の魏人あり其先の晉の餘子の官たり始め嘗て蘇秦と與も齊の鬼谷先生より事て術を學ぶ蘇秦自ら以らく張儀も及のすと張儀已も學成就して諸侯より游説し嘗て楚の宰相も陪從して共も酒を飲けるか已もして楚の宰相所持する所の璧を亡へり宰相の門人の人々心も張儀の盜しやと意ひ張儀の貧困もして行狀甚た惡し渠奴必ず相君の璧を盜みしならんとて共も集りて張儀を執へ掠

しく嘗つ事數百枚も及ひたれとも張儀冤を訴へて更も服せず因て纒も之を釋しける張儀歎恨して家も歸りけれの其妻 嘻 たる聲を發し扱々御身書を讀て游説し玉のすんのか、る辱の受玉のしと言ふ張儀の打笑つ妻も向て口を明き汝吾舌を視よ尙在や否やと問の妻の笑ひつ、何とて舌のなかるへきと言ふ張儀さらの足りぬ此舌あらは卿相を取るも聊か難からずと此時も當りて蘇秦の己も趙王を説て從親を相約する事を得たれとも秦の諸侯を攻取り後も負くを恐ひて秦も一人の服心の者を用ひさせんと欲すれとも其人なきを憂へしか忽地張儀を思ひ出し乃ち人を以て微も張儀を感せしめて曰せけるの子始め蘇秦と親み善かりき今蘇秦已も路も當り政權を執れり子往游て願を通ずるとを求めかり同門の舊好必ず子を薦めなんと言ふも張儀の此も從ひ趙よ之て諂を 上り蘇秦も途とを求めけり蘇秦の預て門下の人を誡め爲も通せざらしめ又去るとを得ざらしむる者數日已もして張儀を呼出して之も見ひ堂下も坐せしめて僕妾の食を與へ因て數々之を讓けるの子の材能を以て乃て自ら困み辱られて此も至るの何事や予寧ろ子を薦て富貴もするも能ざらんや願も子の収め用ゆるよの足さるありと曰て謝して張儀を去しめける張儀の初め來し時自ら以爲く吾の蘇秦の故人あり決して悪く爲さるへしと頼とせしよこの如何も益を求めて反て恥辱を受しかば怒も堪はず心も篤も思念するも六國の諸侯の皆蘇秦の手中も有れい事ふへき者有ると無し獨秦のみ能く趙を苦しめんと遂も秦の國も入りよける蘇秦の張儀



を逐退け己よして其舍人よ告げるの張儀の天下の賢士なり吾も殆ど及んず今吾幸よ先用られたり而ふして能く秦の柄を執る者の獨張儀可なるのみ今貧くして進むよ由無し吾其小利を樂んて大事を遂さらんことを恐る故よ召て之を辱めて以て其意を激發せしめたり汝我爲よ陰よ彼よ奉きて其足さる資を助けよ乃ち趙王よ言して金幣車馬を發して人を微よ張儀よ隨へ與よ客舍よ同宿せしめ稍々張儀よ近き就て奉するよ車馬金錢を以して用ひんと欲する所のまよせよ張儀か爲よ給を取て吾よ出入を告るよ及んずと命しける此力よ依て張儀遂よ秦の惠王よ見るとを得たり惠王其才辨器量を愛し用て客卿の位を授け共よ諸侯を伐とを謀りけり蘇秦の舍人乃ち辭して去んとしけれの張儀留めて吾子の力よ依て顯るよとを得たり今より方よ且よ恩徳を報せんとするよ何り去んとするやと問へば舍人の此皆臣の君の器量を知てしか爲すよ非す乃ち蘇君の力なり蘇君秦の趙を伐て從約を敗るとを憂へ君よ非れの秦國の政柄を得る者あしと故よ君を感怒奮激せしめ臣を遣して陰よ君よ資用を奉給せしめたるあり此悉く蘇君の計謀あり今君己よ用ひられ玉へり歸て此事を報せんと思へなりと云れて張儀の大よ驚き嗟呼此吾蘇君の術中よ在て曾て悟らざりき吾蘇君の才略よ及んずると是を以て己よ明かなり且吾今新よ用ひらる争か能趙を謀るよ及んや吾か爲よ蘇君よ謝して玉のれかし蘇君の時儀決して口を開て言のじ且蘇君の時よ當りて儀か如きの言も争か能すへきと謝辭を陳てり遣歸しけり張儀己よ秦國の宰相と

爲り文檄を爲りて楚國の宰相よ告げるの往年吾若よ從ひて酒を飲し時我汝が壁を盗まざるよ汝吾を賊として答うてり今より若能く汝の國を守れ我願て且よ若の城を盗んとするると言送りけれの楚の宰相の大よ恐怖したりしとす扱も此時よ當て苴と蜀と相攻撃て戰の止ざるより兩國より使を以て急を告救ひを奏よ求めしかの秦の惠王兵を發して蜀を伐んと欲せしも道路險狹よし大軍涉りかたきを憂ひしよ韓又來て秦を侵せしかの秦の惠王先韓を伐て後蜀を伐んと思ふも其勝利あきとを恐れ又先蜀を伐んと欲すれの韓の其敵を襲んとを恐れ猶豫して未だ決するよ能はず大よ卿相を會し此事如何すへきやと問けれの上卿司馬錯列を出て今回の合戰蜀を伐を便利とす速よ命令を下し玉へと勸めける其時張儀列を離て韓を伐玉の便利あるよ如すと駁しけれの惠王さらの其韓を伐の便利ある説を陳へし詳かよ聞て可否を決せんと命しけれの張儀答へて先魏の國を親しみ楚の國を善し兵を三川の地よ下し斜谷の口を塞き屯留の道よ當り魏よ南陽を絶しめ楚よ南鄭を臨ましめ我國新城宜陽を攻て二周の郊外よ臨み周平の罪を誅めな周自ら救ふよ能ざるよを知て宗廟の九鼎寶器を出して和を乞ふの必せり乃ち九鼎よ據り圖藉と按へ天子を挾て諸侯よ命令を下しな天下敢て聽さると有となし此天下よ王たるの太業なり又蜀の西僻の國よして戎翟の倫類あり兵をつからし衆を勞するとも名を成すよ足す其地を得たりしも利と爲すよ足らず臣聞く名を争ふ者の朝よ於てし利を争ふ者の市よ於てすと今三川周室の天

下の朝市なりざるを王之を争ひ玉のす願て戎翟を争ひ玉ふの王業を立つるに遠しとこり論しける其時司馬錯張公の論する所其義なきよ非すといへ共臣が思ふ所の則ち然らず臣聞く國を富さんと欲する者の其土地を廣るとを勤め兵を強くせんと欲する者の其民を富すとを勤め王たらんと欲する者の其徳を博とを勤む三の資備りて王業従ひて來る者ありと今吾國地尙小よえて民尙貧し故よ臣の先其爲し易き事より爲んと欲するあり夫蜀の西僻の國よして戎翟の長あり暴虐よして桀紂の乱あり秦を以て之を攻る時の譬の豺狼を驅て群る羊と逐か如し其地を得て以て國を廣るよ足り其財を取て以て民を富すよ足れり兵を繕め衆を傷らすして其國已よ服しかん一國を拔取とも天下暴とせず利西海を盡すも天下貧れりとせず是我一たひ事を舉て名と實と兩ながら附者なり而る上よ又暴虐を禁め乱離を止むるの名あり然るを今韓を攻め天子を劫すの空しく惡名を取るのみよて必ず利益有ると見ず又不義の名ありて天下の欲せざる所を攻めり國危からん臣請らく其伐へからざるの故由を論せん周の天下の宗室よして即天子なり齊韓の與國あり周自ら九鼎を出し天子の位を失ふとを知り韓も三川の地を失ふとを知れり將よ二國力を并せ謀を合せて以て齊と起り因て力を楚と魏よ求め九鼎を楚よ與へ土地を魏よ與ふる時の王の力よても止むると能ひ此臣か危しと謂所なり因て蜀を伐玉ふの危からずして完全きよ如す臣か説の斯の如しや陳けるよ惠王善ま吾も然思ふされり子の説よ從いんと卒よ兵を起して蜀を

ち十月よ之を取り遂よ蜀地を定め蜀王を貶し更め号して侯とあし陳莊を遣りして蜀の宰相としける蜀の國已よ秦よ屬せしかの秦以て益よ強く富厚よして諸侯を輕するよ至りける惠王の十年よ當て公子華と張儀を兩大將として魏國の蒲陽を圍ましめ之を降し張儀因て秦王よ言し復其地を魏よ與へ公子繇を以て魏よ人質とし因て魏王よ説けるの秦王の魏王を待遇すると斯の如く厚しざるを王之よ答へ玉のすん無禮と云へしと諷しけれり魏よて上郡少梁の地を献して秦へこりの謝しよけり惠王是よ於て張儀を以て上相と爲し少梁の名を更めて夏陽と唱へけり張儀秦の相となりて四年惠王を立て王とあま居と一年よして秦の大將として陝を取り上郡の塞を築き其後二年使して齊楚の宰相と留桑の東よ會し還て相を免し魏の宰相とありて其實の秦の爲よま魏よ先秦よ事へしめて諸侯よ之は效のしめんとせしよ魏王秦よ事ふると肯せず秦王怒て魏を伐て曲沃平周を取り復陰かよ張儀を厚くすると益よ甚たしかりしかの張儀心よ功なくて歸り報すへきとあきを慙ち魏よ留まると四年よして魏の襄王卒して哀王立てり張儀復哀王よ説くよ哀王も亦秦よ事ふるとを聽受す張儀因て陰よ秦をして魏を伐まむ魏秦と戰て敗走せり明年齊又攻來りて魏を伐ち之を觀津よ敗りぬ秦復魏を伐んと欲し先韓の申差か軍を取り首を斬ると八万よ及ひしかの諸侯何れも震ひ恐れける因て張儀復魏王よ説けるの魏の地方千里よ足す士卒三十五人よ過す土地の四方平よして四面より通行輻湊す名山大川の險阻なく鄭より梁よ至るまで二百

餘里車馳せ人走るよ力を費すして至らん梁南の楚國と境ひ西の韓と境ひ北の趙と境ひ東の齊と境ひ士卒四方を成り亭部を守る者十万人よ及ふへし是梁の地勢の固より戰場よして守りかたきの地あり梁南の方楚よ與して齊よ與せざる時の齊其東を攻めん東の方齊よ與して趙よ與せざる時の趙其北を攻めん韓よ合ざる時の韓其西を攻めん楚よ親ざる時の楚其南を攻ん此所謂四よ分れ五よ裂るの國と云ふへし且夫諸侯の從約を爲る者の將よ社稷を安し君を尊ひ兵を強くし名を顯さんとするあり今從をなす者の天下を一よし昆弟の好を結ひ白馬を刑えて血を飲り涓水の上よ盟ひて以て相堅くするあり然れども親き兄弟同じき父母すら尙錢財を爭ふ事有を詐譎反覆の蘇秦の餘謀を恃んと欲るの其事の成へからざる事明かあり大王秦よ事へ玉のすんの秦兵を下して向外を攻めん卷衍酸棗よ據り衛を劫かして陽晋を取る時の趙兵の南せず趙兵南せずして梁兵北せず梁兵北せざる時の從約の道斷絶すへし從約の道斷絶せし大王の國危きと母らんは欲し玉ふも得かたかるへし若又秦韓を折て梁を攻んは韓秦よ怯れ秦と韓と一とならん大王の國の亡ると立て須へきなり此臣の大王の爲よ深く患る所あり大王の爲よ計よ秦よ事るよ如となし秦よ事ふる時の楚も韓も必ず動くよあるへからす楚韓の患なき時の大王枕を高くして臥し玉ひ此國憂なき事必せり且夫秦の弱んと欲する所の者の楚よ如者の有へからす能く楚を弱むる者の魏よ如國のあるへからす楚の富大なるの名あれども其實の空虚あり其卒多しといへ共輕々しく走て北

易く堅戦すると能ざる國あり梁の兵士を悉して南面して楚を伐ない之よ勝と必定なり楚を割て梁の益し楚を虧て秦の意よ適ひ禍を他國よ嫁し與へて己か國を安んず此善事と云ふへきなり大王臣の言を聽玉のすの秦甲兵を下して東魏國を伐ん其時秦よ事へんとし玉ふとも中々及ひかたかるへし且夫從人の多く虚辨を奮ひて信實少あし一の諸侯よ説付て封侯よ至る是故よ天下の游談の士日夜腕を搦目を瞞らし齒を切て從約の便利を以て諸侯よ説さる者あり人主其辨舌を賢として其虚説よ欺かれ眼眩みて遂よ其言よ從ふなり臣之を聞く積羽舟を沈め群輕軸を折り衆口金を鏢し積毀骨を消すと云へり故よ願くは大王計議を審かよし定め玉へ臣の且く骸骨を玉ふて魏を辟さんと三寸の舌頭天下の形勢勝敗を説盡されて哀王の忽地從約を倍くの心起りしかの張儀よ因て和睦を秦よ乞ひよけり張儀歸て復秦よ相と成りけるか三年よして魏復秦よ背きて從約よ從ひけれの秦の魏よ攻て曲沃を取よけり此時秦の齊を伐んと欲すれども齊楚從親して有けれの是よ於て張儀往て楚國よ相たり張儀の楚よ至るや楚王上等の容館を虛はらひ自ら之よ館せしめ此僻陋の小國なるよ子何を以て寡人よ教へらるゝやと言ふよ張儀の大王誠能臣よ聽玉ひ開門を閉ち從約を齊の國と絶玉ひなるの臣商於の地六百里と獻し且秦の女を以て大王の箕帚の妾と爲奉らん秦楚婦を娶り女を嫁し長く兄弟の國と爲なん此北の方齊を弱めて西の方秦よ益なり當時の計此より便利の有へからすと言ふよ楚王の大王説ひ張儀の言よ從ひけれの群臣何れも皆其

事を賀しける中、大夫陳軫列を出て、獨弔みを陳け、れ、楚王大、怒を發し、寡人師を興し、兵を發せ、すして六百里の地を得るを群臣皆之を賀する、子獨之を弔ふ、何事や、説あら、言へ、聞んと、言、れて陳軫少しも臆せず、臣を以て之を觀る、商於の地の得へ、からずして、齊と秦との交り合、なん、齊、秦の交、合、至り、か、い、患、忽、地、楚國、當るへ、し、此理を能く、高察有へ、し、と言ふ、楚王、其説聞ん、と問る、れ、陳軫對て、され、い、て、秦の楚國を重し、貴ふ、故、其齊と從親する、と、以て、あり、今、關門を閉、て、約を齊國、絶、時、楚國、孤立、なるより、外、なし、秦如何、夫、孤立の楚國の心を得んと、て、之、商、於、の、地、六、百、里、を、與、へ、ん、や、張儀、秦、至り、か、い、必、す、約、束、負、く、から、ん、此、北、の、齊、の、交、を、絶、て、西、の、患、を、秦、生、ず、る、な、り、然、る、時、兩、國、の、兵、共、楚、國、へ、攻、來、ら、ん、善、く、王、の、爲、計、る、い、陰、合、て、陽、齊、を、絶、人、を、張、儀、隨、い、し、め、苟、吾、商、於、の、地、を、與、へ、ん、其、時、齊、絶、と、も、未、た、晚、し、と、云、ふ、べ、か、ら、ず、吾、地、を、與、す、い、陰、合、の、謀、計、あり、事、於、於、障、を、し、と、云、ふ、楚、王、陳、子、口、を、閉、て、復、一、言、を、容、る、事、勿、れ、寡、人、か、地、を、得、る、を、見、よ、か、し、と、乃、ち、宰、相、の、印、を、以、て、張、儀、を、授、け、厚、く、賂、物、を、遣、い、し、關、を、閉、て、約、を、齊、絶、ち、一、人、の、將、軍、を、張、儀、隨、い、し、め、秦、の、國、へ、う、遣、い、し、け、り、張、儀、秦、至り、伴、て、車、の、綬、を、失、ひ、て、車、より、墮、ち、朝、廷、へ、出、さ、る、と、三、月、の、久、き、及、ひ、け、れ、楚、王、之、を、聞、張、儀、寡、人、か、齊、の、約、を、絶、こ、と、甚、た、し、か、ら、さ、る、より、然、爲、す、事、と、思、い、れ、た、り、と、勇、士、を、宋、の、國、遣、い、し、宋、の、符、を、借、受、て、北、齊、王、と、罵、ら、せ、け、れ、齊、王、大、怒、り、節、を、折、て、秦、へ、下、り、秦、齊、の、交、已、合、け、れ、張、儀、乃、ち、朝、廷、へ、出、て、楚、の、使

者、向、ひ、臣、奉、邑、六、里、の、地、あり、願、く、い、大、王、の、左、右、獻、し、奉、ら、ん、と、云、ふ、楚、の、使、者、打、愕、き、臣、命、令、を、王、受、た、る、商、於、の、地、六、百、里、と、云、ふ、い、心、得、ず、と、還、て、之、を、王、報、し、け、れ、楚、王、烈、火、の、如、く、怒、り、立、直、兵、を、發、し、て、秦、を、攻、ん、と、な、し、け、れ、其、時、陳、軫、王、を、拜、し、軫、今、日、こ、う、口、を、開、く、も、罪、あ、ら、し、臣、か、説、少、し、も、違、ひ、あ、ら、さ、り、し、今、よ、し、て、秦、國、を、攻、玉、ふ、い、恐、兵、よ、し、て、勝、か、た、し、寧、ろ、地、を、割、の、愈、れ、る、如、し、反、て、之、地、を、賂、ひ、て、秦、と、共、兵、を、併、せ、て、齊、を、攻、る、可、る、へ、し、是、我、地、を、秦、出、し、て、償、ひ、を、齊、取、る、か、り、楚、國、尙、存、し、保、つ、へ、し、さ、ら、す、い、國、の、危、き、事、累、る、卵、異、か、ら、ず、と、諫、め、け、れ、と、も、楚、王、聽、す、卒、兵、を、發、し、て、將、軍、屈、匄、命、し、て、秦、を、擊、し、む、齊、秦、共、楚、を、攻、め、首、を、斬、る、と、八、萬、屈、匄、を、殺、し、遂、丹、陽、漢、中、の、地、を、取、り、よ、ける、楚、又、復、益、々、兵、を、發、し、て、秦、を、襲、ひ、藍、田、至、り、て、大、戰、ひ、ける、楚、又、大、敗、れ、た、り、是、於、て、是、非、な、く、楚、兩、城、を、秦、割、與、へ、て、纔、和、睦、を、あ、し、ける、秦、又、楚、と、要、し、て、黔、中、の、地、を、得、て、武、關、の、外、を、以、て、之、易、ん、と、望、み、け、れ、楚、王、黔、中、の、地、獻、せ、ん、交、易、及、い、ず、唯、張、儀、と、黔、中、と、交、易、せ、ん、と、言、け、る、よ、う、秦、王、張、儀、を、遣、ん、と、欲、せ、し、も、其、言、を、口、より、出、し、か、ね、た、る、を、張、儀、早、く、も、之、を、曉、り、自、ら、願、ひ、て、行、ん、こ、う、い、言、出、け、る、惠、王、彼、楚、王、子、の、商、於、の、地、負、く、を、怒、り、子、を、誅、戮、し、て、甘、心、せ、ん、と、す、る、を、往、忽、地、一、命、を、失、ひ、あ、ん、止、よ、々、と、言、け、る、張、儀、咲、て、大、王、然、亦、虞、玉、ふ、事、勿、れ、元、來、秦、強、く、し、て、楚、弱、し、臣、を、誅、す、る、事、容、易、よ、手、を、下、す、ま、し、且、臣、楚、の、大、夫、靳、尚、と、斷、琴、の、交、り、あり、靳、尚、楚、王、寵、夫、人、鄭、袖、事、へ、て、能、其、意、を、得、た

り鄭袖の言ふ所楚王決して違ふとなし且又臣王の節を奉して楚も使用するも楚國争か敢て誅を加へん假令臣誅せらるゝとも黔中の地を得の臣の上願なりと遂も楚も使しけり楚の懷王至の則ち張儀を囚へ將よ之を誅戮せんとおしけるも預て張儀も託せられて斯言かちと教へられたる斬尙の鄭袖の前へ出夫人も亦近日王の寵愛の衰ふへきを知玉ふやと云れて鄭袖大に怪みうの如何なる故かある只速かも語れかちと頻も問て止まされのり他なし秦王甚た張儀を愛し必ず楚國より出さんと欲し今將よ上庸の地六縣を楚も賂ひ美人を以て楚も聘し宮中の善歌謳ふ美女を以て膝とあさんとすと聞たりさる時の王必ず地を重んじ秦を尊ふ所より其女の必ず貴はれて夫人の遂も斥けられん因て夫人張儀が爲も言を爲し之を出して秦も還すもしかさるへしと説れて夫人の大も愕き夫より日夜楚王も對し人臣各々其主の爲も用ひらるゝ者もして今黔中の地未だ秦も入さるも張儀を來らしめ大王を至て重せしよ大王未だ禮する所あらずして張儀を殺し玉ひあひ秦必ず大も怒て楚を攻めん妾願くは敵兵の至らぬ前よ子母共は江南の地へ迂住み秦兵も魚肉の如く斫きぬやう爲して玉へと泣訴ふるも懐王後悔し張儀を赦し厚く之を禮して故の如くも遇ひけり張儀既も出て未だ去す蘇秦死すと聞し楚王も説けるも秦の土地已も天下も半よして兵四國も敵す險阻を破り大河を帯ひ四塞以て固めとす虎賁の兵士百餘万車千乘騎万匹粟を積事丘山の如く法令既も明も士卒難を安し死を樂む主の明もして以て熾も將の智ありて以て武なり兵

甲を出すおしと雖も常山の險を 席 卷の勢ありて必ず天下の脊を折せん天下後も服する者あれの先亡ん且夫從約を爲す者の以て群羊を驅て猛虎を攻むるも異ならず虎と羊と格、へさると明かなり今王猛虎も與せずして群羊も與す臣竊も以て大王の計過てりと爲すなり凡天下の強國楚も非れの則ち秦なり秦も非れの則ち楚なり兩國交々争ふ時の其勢ひ兩ら立じ大王秦も與せされの秦甲兵を下して宜陽も據ん韓の上地の通せず河東を下り成臬を取あ韓の必ず入て秦も臣たらんされの魏も亦風も從ひて動きあん秦の楚の西を攻め韓魏の其北を攻め楚國の社稷安ら危き母とを得んや且夫從約者の群弱を集めて至強を攻む敵を料らずして輕々しく戦かひ國貪くして數々兵を擧く是危亡の術なり臣之を聞り兵力の如さる者の共も戰を挑むと無れ米粟の如さる者の與も久しきを持すると勿れと夫從人飾辨虛辭と以て君の節を高しとし其利のみ言て其害を言す卒も秦の禍あるも爲すも及ふなきのみ是故も大王の執と之を計るとを願ふなり秦の西も巴蜀の地あり大船も粟を積み汝山より起り江水も浮て以て下るも楚も至ると三千里船を舫ひ卒を載す一舫も五十人と三月の食とを載せ水も下て浮ふ時の一日も行と三百餘里も數多きか如じといへ共牛馬の力を費さす十日も至すして扞關も至らん扞關驚時の境より以東も盡く城を守て動と能す黔中巫郡の王の有も非るへし秦武關より出て南も向て伐時の北地諸侯の通路も絶せん秦兵の楚を攻るも危難三月の内も在て楚諸侯の援兵を待の半年の外も在り是勢も相及のさ

るなり夫弱諸侯の救を待て強秦の禍を忘る、此臣か大王の爲に患る所以なり大王嘗て吳國と五たひ戦かひて三たひ勝玉ひしも陣卒盡たりと聞く新城を偏守して民の苦みを存せり臣聞功の大なる者の危くし易くして民の敵る、者の上を怨むと云へり夫危くし易き功を守て強秦の心よ逆ふの臣竊も大王の爲に之を危む且夫秦の兵を函谷關より出さずして齊趙を攻伐さる故に陰謀て天下を呑の心あるなり楚嘗て秦と難を構へて漢中を戦ひしも楚國勝す列侯執珪の貴き人々七十餘名戦没して果に漢中の地を亡ひたり楚王大に怒り兵を興して秦を襲ひ藍田を戦ひたり此所謂兩虜の相搏と云者なり夫如此くなる時の秦と楚と相迭は疲敝て韓魏の二國全き威力を以て其後を制するに至らしむるの計と此より危きとあらし願くは大王孰と之を計玉へ秦甲兵を下し六國の交道なる衛の晋陽を攻むる時の必ず大に天下の向を關ぬへし大王悉く兵と起して宋を攻め數月に至らずして宋を擧取るへし宋を擧て東を指て兵を下し玉の泗水の邊ある十二國の諸侯の盡く大王の所有と爲りかん凡う天下に諸侯をして信約從親を以て相堅る者の蘇秦なり蘇秦武安君と封せられ燕の宰相たり即ち陰に燕王と伐て齊を破りて其土地を分つことを謀り伴りて罪有者の爲し出奔して齊に逃入りぬ齊王因て受て宰相とせり居と二年にして其事覺れ齊王大に怒り蘇秦を市よて車裂おせり夫れ一の詐譎者の蘇秦を以て天下を經營し諸侯を混一よせんと欲するの其成るへからさると明かり今秦と楚との境壤界を接せり固より形勢相親むべきの國

なり大王誠能臣よ聽玉の、臣請らくは秦の太子を人質よ獻せん楚の太子も同じく秦よ人質とし秦の公主を以て大王の箕箒の妾となし万室の都を獻して以て湯沐の費用よ供し長く兄弟の國と爲り終身相攻伐と無きよ至らば計此より便なる者の無しと言ふは楚王の己は張儀を得て黔中の地を秦よ與ふるとを重し之を許さんと欲せしかり大夫屈原大王前よ張儀よ欺かれ彼至りたる臣以爲く大王之を烹殺し玉のんと今縱ひ殺すよ忍ひすとも又其邪ある説を聽玉ふの不可ありと諫めけれども懷王の飽まで張儀よ説動かされ一圖よ之を信したれり己は張儀を赦して黔中の地を得るの尤も美利あり己は諾して之よ倍くの不可ありとて卒に張儀よ許し秦と親しく爲よけり張儀楚を去り因て遂に韓よ之き韓王よ説けるの韓の地險惡よして山居せり五穀の生する所の菽よ非されの麥のみ民の食に大抵菽藿の羹を飯り一歳登らざる時の民糲糠よたも厭足す地九百里よ過す二歳の粮なし大王の士卒を料よ之を悉して三十万人よ過す雜役負擔も其中に在り徵亭鄣塞を守る者を除きて見卒二十万よ過さるのみ秦の帶甲百餘万車千乘騎万匹虎賁之士徒陶科頭よて願を捧戟を奮ひて敵陣へ入る者勝て計ふへからす秦の馬の良と戎兵の衆きと馬の前を探後を踏て蹄の間二尋を走る者數るよ勝へからす山東諸侯の兵士甲を被胃を繋り會戦するよ秦兵の甲を捐祖き揚よて敵よ趨き左よ人の頭を挈右よ生虜と挾て往來せり夫秦の士卒と山東の士卒との猶孟賁の怯夫と相敵するの如く重力を以て相壓合時の烏獲の嬰兒と相搏か如し夫

孟賁烏獲の力士を戦へせて不服の弱國を攻む千鈞の重を鳥卵の上へ垂るか如し必ず幸ひあかるへし夫群臣諸侯地の寡きとを料すして從人の甘言好辭を聽き比周て相飾り皆奮ひ起て曰く吾計を聽け以て強して天下を覇たるへしと社稷長遠の計を願みすして涇史の説を聽き人君を誑誤しむるの此は過たる者なし大王秦は事へすん秦甲兵を下し宜陽は據り韓の上地を斷切さん東の方成皋滎陽を取る時の鴻臺の宮桑林の苑の王の有るなり非るなり成皋を塞ぎ上地を絶時王乃國分れん先秦は事する時の安く秦は事へさる時の危し夫禍を造て其福の報あると求むるの計淺くして怨深し秦は逆ひて楚は順ふの亡ると母らんと欲すといへ共得へからず故は大王の爲は計は秦の爲はするよ如し秦の欲する所の楚を弱るよ如し而して能楚を弱す者の韓は如し韓の能楚より強きよ非ず其地理の勢然るなり今王西面して秦は事へて以て楚を攻むる秦王必ず喜ん夫楚を攻て以て其地を利し禍を轉して秦を説ひしむ計此より便ある者なし韓王張儀の計を聽受けし儀歸て報しけるよ秦の惠王張儀を五邑の地は封じ号して武信君と曰ふ又張儀は命して東の方齊の潛王は説しめけるの天下の強國齊より過たる者なし大臣父兄の殷衆富樂なりされとも大王の爲は計は皆一時の説を爲して百世の利を顧みず從約を大王は説者の必ず曰ん齊の西は強趙あり南は韓と梁とあり齊の海を負ふの國あり地廣く民多く兵強く士勇なり百の秦ありといへとも將は齊を奈何ともすると無かんすとす大王其説を賢ありとして其實地を計玉

いす夫從約を説人の從を以て可と爲さると有ると莫し臣之を聞く齊の魯と三たひ戦ひて魯國三たひ勝たるも國乃危く亡るとい其後も隨ひて來れり戦ひ勝の名ありて國亡るの實あるは是何事や齊の大國として魯の小國なる故なり今秦と齊との猶魯と齊との如し秦と趙と河漳の上は戦ひしよ再び戦ひて趙再び勝たり番吾の下は戦ひし時も再び戦て又再び勝たり四たひ戦ひ勝し後趙の亡卒數十万よして僅は邯鄲の都を存せしのみ戦ひ勝の名ありと雖も國は已は破れたり是何の故りや秦元強くして趙元弱き故りかし今秦と楚と女を嫁し婦を娶とり昆弟の國と爲り韓は已は宜陽を献し梁は已は河外を效し趙は已は入りて池池は朝し河間の地を割て秦は事するよ至りし又大王秦は事へされし秦は韓と梁とを驅立て齊の南方の地を攻なん趙の兵卒を悉して清河を渡り博關を指えて攻來りなり臨淄の都即墨の地の王の所有るよ非ざるへし國一日攻めらるよ至ては秦は事へまよくおほすとすも得へからざるの必定なり是故は願くは大王の執と之を計考へ玉いんとをと陳けれは齊王聞て吾國の僻陋にして東海の上は隱居せり未だ嘗て社稷の長利を聞さるなり子の計は從いんと乃張儀に許しけり張儀去て西の方趙王は説て曰く敵邑の秦王使臣を以て愚計を大王は效さしむ大王天下の諸侯を収め率めて以て秦國を賓げ玉ひ秦の兵士敢て函谷關を出さると十五年及へり大王の威光山東の諸侯は行ゆる敵邑の秦王恐悞懾伏し甲冑を繕ひ戈兵を厲き車騎を飾へ馳射と習し田作を力め米粟を積み四封の内を守り愁ひ居り懼れ處り敢て動

搖せず唯大王之を督過玉ふ又意めれなり今大王の力を以て巴蜀を擧げ漢中を并せ兩周の地と  
 包ね九鼎を遷し白馬の津を守る又至て秦僻遠されとも心よ忿怒を含むの日久し今秦より寡少  
 かる敵たる甲調たる兵有て纒澗池軍ちし願くは河水を渡り漳水を踰番吾の地と據り邯鄲の  
 都又會し甲子の日を以て合戦し殷の紂王の罪を正さんと思ひ立ちたて因て敬みて使臣よ先左右  
 又聞するあり凡う大王の從約を爲すとを信する所の者ハ蘇秦を恃み玉ふよこり蘇秦奸佞よして  
 衆諸侯を熒惑し是を非とし非きを是とし遂よ齊國よて謀反を圖り自ら市中又於て車裂の刑を被  
 むれり夫天下の諸侯を一よ爲んとするの成へからさると亦明かあり今楚と秦とい兄弟の國と爲  
 りて韓と梁とい東藩の臣と爲り齊の魚鹽の地を獻せり此趙國の右の臂を斷たるなり夫右の臂を  
 斷れて人と闘ひ其兇類を失ひて孤居るの危きと母らまく欲するを求めたりとも豈得へけんや今  
 秦の三人の大將軍を遣發せり其一將軍の午道の地と塞き齊よ告て大師を興さしめ清河を渡り趙  
 の都邯鄲の東又陣せしめ一將軍の成泉の地と陣を布き韓と梁との二國を驅催し河外よ陣せしめ  
 一將軍の澗池と陣を張り四國を約して一と爲り以て趙を攻む趙國服せり其地を四分よして各々  
 其一分を領せんと欲す是故又敢て意を匿さす情を隱さす先以左右よ聞し上るなり偕又臣竊よ  
 大王の爲よ計るよ秦王と澗池よ遇ひ相見て口づから約を結ひ玉ふよ如とあかるへし夫またて軍  
 兵を按て攻むると無からん大王願くは速かよ計を定め玉へと言けれは趙王大よ懼れて先王の時

奉陽君權を專よし勢を擅よし先王を蔽ひ欺き獨擅よ百事を結たり寡人居師傳よ屬し國家  
 の謀計よ與らす先王群臣を弄て薨し寡人年幼く祀を奉するの日新なり心固より竊よ疑ひて以  
 爲く一從して秦國よ事へさるの國の長利よ非るありと乃て且心を變慮を易へ土地を割き前  
 の過を謝して以て秦よ事へんと願ひしよ適使者の明かる詔を聞て悦ひよ堪すよ張儀よ許  
 しけれは張儀北の方燕よ之き昭王よ説て曰く大王の親む所の趙よ如いなし昔趙襄子嘗て其姉を  
 以て代王の夫人と爲し代を并んと欲し約して代王と句注山の塞よて遇ひ金もて耳を爲り其尾  
 を長くし人を撃て殺すへからしめたり代王と酒宴の時陰に厨人よ告けるに即酒酣樂なる時熱  
 を進め耳を反し柄を以て之を撃と命し置酒酣樂よ至りし時熱隙を進む斟を進め因て耳を反し尾  
 を以て代王を撃て之を殺し王の腦地よ塗れたり其姉之を聞て大よ悲み斧を摩きて自刺して死  
 むけり故よ今よ至て摩斧と号する山あるあり代王の亡るとは天下聞さるとなし夫趙王の狼の如  
 く戻りて親なきとい大王の明かよ見る所なり趙王を以て親むへしとあすか趙兵を興して燕を攻  
 め再び燕の都を圍て大王を劫かし大王十城を割て以て謝し玉ひしよあらずや今趙王已よ入て秦  
 王よ澗池よ朝し河間を效して秦よ事よ今大王秦よ事よする時ハ秦甲兵を雲中九原よ下し趙を驅て  
 先よ爲し燕を攻なり易水長城の大王の有よ非ざるあり且今時趙の秦よ於るに郡縣の如くよて  
 敢て妄よ師を擧して攻伐せず今王秦よ事よするに秦王必ず喜ひなんさらは趙も妄よ動くよあるへ



からず是西より強秦の援を得て南より齊趙の患なからん願くは大王の孰と之を計玉のんことをと  
 辨しけるよ燕王曰く寡人蠻夷よ僻處せり大男子といへ共裁よ嬰兒の如く言以て正き計を采るよ  
 足す今上客幸よ之を教ゆ請く西面して秦よ事へ恒山の尾東よ在る五城を獻せん儀歸て報す未  
 た成陽よ至らすして秦の惠王卒し武王立てり武王太子たりし時より張儀を説はず位よ即よ及ひ  
 て群臣多く張儀を讒言しけるの彼信なし左右よ國を賣り以て已か身を容らるゝを取る秦必ず復  
 之を用ひは恐く天下の咲ひとあらんと諸侯張儀か武王と卻ありと聞て皆衡約を畔きて復從約  
 を定めけり秦の武王元年群臣日夜よ張儀を惡して未だ已ます齊の讓又至る張儀誅を懼れ乃ち因  
 て秦の武王よ謂て曰く儀愚なる計あり願くは之を效さん王曰く奈何なる計や言へ聞んとこの言  
 よ張儀對へてされのよて秦の社稷の計を爲すの東方の諸侯よ大變ありてこり王以て多く地を割  
 得へきかり今齊王甚た儀を惡む儀の在所の必ず師を興して之を伐と聞けり儀願くは其不肖の身  
 を乞て梁へ之なん齊必ず師を興して梁を伐ん梁と齊との兵城下よ連りて相去る事能ざる其間を  
 以て韓を伐て三川よ入り兵よ函谷よ出して伐となく周よ臨み天子を却かし玉ひなは祭器の必ず  
 王の手よ入らん其時天子を挟み圖籍を按して諸侯を令せの此王業なり此計の如何りやと告すよ  
 武王然なりと諾し乃ち革車三十乗を具へて張儀を梁よ遣のしける齊王之を聞くと均しく兵を舉  
 て梁を伐ち張儀を執へんとあしけるよ梁の哀王大よ恐れけり張儀其時哀王よ向ひ王決して忠

玉ふと勿れ儀齊の兵よ罷しむるの手中よありと乃ち已か舍人馮喜を楚よ之かじめ使を借て齊  
 よ之しめ齊王よ謂せけるの王甚た張儀を憎めりされとも亦大よ厚く張儀を秦よ託し玉ふとい如  
 何ある故ると言けれの齊王か曰く寡人儀を憎む儀の在所の必ず師を興して之を伐よ何り儀を秦  
 よ託することを爲すへき其人对へて是乃て王の儀を託する所以よこり儀の秦を出る時秦王と  
 約すらく王の爲よ計よ東方の諸侯よ大變ありて後王以て多く地を割得へし今齊王甚た儀を憎む  
 儀の在る所師を興して之を伐と聞けり故よ儀願くは其不肖の身を以て梁よ之かん齊必ず師を興  
 して之を伐ならん齊梁の兵城下よ連りて相去ると能のさる間を以て王韓を伐て三川よ入り兵を  
 函谷よ出して伐事なく周よ臨み天子を却かし祭器の王の手よ入るへし其時天子を挟み圖籍  
 を按へ諸王よ令し玉ひあひ此王業なりと告せしよりして秦王の此謀よ從ひて革車三十乗を具て  
 之を梁よ入しめたるあり今張儀梁よ入り王果して之を伐ち玉ふの是内國を罷らして外餘國を伐  
 ち鄰國の敵を廣くして以て内自ら臨みて張儀を秦王よ信せしむるあり此臣の所謂儀を託と謂の  
 此事ありと言けれの齊王尤も善しとて兵を解しめけり是後張儀魏よ相たると一歳よして壽を以  
 て魏國よ死しよけり

陳軫の游説の士あり張儀と共よ秦の惠王よ事へ皆貴ひ重せらる張儀陳軫を秦王よ惡しけるの軫  
 秦と楚との間よ重幣輕使して將よ國の爲よ交んとするよ今楚國已よ善せずして秦よ善き者の自

ら爲すすると厚くして王の爲は薄くすれはかり軫已は秦と去り楚は注んと欲し願へり王胡り聽し玉のさるやと曰けれは王陳軫は吾子の秦を去て楚よ之んと欲するを聞きたり信は是有かと問れて陳軫然なりと答へけれは王其時張儀の言果して偽りの無しと言ふは陳軫されはよて軫か秦國を去んと欲するとの獨儀のみ之を知らば道行人も皆能知れり昔子胥其君は忠よして天下の人君争ひて已か臣とあさんと願へり曾參其親は孝よして天下の人又争ひて己か子とあさんと願へりと故は僕妾を賣は鬪巷を出して售者の良僕妾なり出婦郷曲へ嫁者の良婦あり今軫其君は忠ならずんは楚も亦何を以て軫を忠として招かんや忠あるも且は弄られんとす軫楚は往すして何くは歸せんやと言ふは王の其言を以て然りとし遂は善之を待けり秦は居と期年秦の惠王終は張儀を宰相と爲しけれは恐れて楚國へ奔退けるか楚國よは未だ陳軫の才略を知らされは之を重せずして有りし中陳軫秦の使を命せられ梁を過りて犀首を見んと乞けるは犀首謝して遇さりしかは軫諷者は向ひ吾元公は一事を教んとて來しは公謝して吾を見す吾將は行んとす他日を待つとを得ざるなりと云ふは犀首は出て見ひける陳軫は曰く公何り酒を飲とを好むや犀首は曰く閑暇よして事なけれはかり陳軫は曰く吾請公をして奔走して事は鑿しめは可ならんや犀首は曰く奈何なる事や陳軫は曰く宰相田需諸侯を約して從親せんとするは楚王之を疑ひて未だ信せざるなりと因て公王は謂て曰く臣燕趙の王と故あり數々人をして來らしめて曰く事なけれは

何り來て相見さるとの命おれは燕趙二國へ訪はんと行を王は請玉へ王行を許しなは公車を多く從へ玉ふと勿れ車三十乘を庭上へ陳ね明かは燕と趙とへ之と宣言し玉へと教へけり犀首之を聞て心は悦ひ聽て陳軫の爲は宴を開き款語舊交の如くなりき扱も陳軫の歸て後其言の如くおしければ燕趙の客之を聞て車を馳て其王は告げ人を遣して犀首を迎へさせよけり楚王之を聞て大は怒て曰く田需寡人と約して犀首燕趙よ之は我を欺むくありとて田需の約を聽さりし齊王犀首の北燕趙へ行と聞き人を遣て政事を委ねける故犀首遂は三國の宰相の事を行ひけり却て陳軫は遂は秦よ至りける此時魏韓相攻て期年の間兵結ひて解す秦の惠王之を救んと欲し左右は同ふ左右或は同く之を救ふと便なり或は曰く救ふ勿きと便なりと議論區々なりけれは惠王も未だ之か爲は決すると能す陳軫適々至れり惠王は曰く子寡人を去て楚は往しか亦寡人を思ふや否やと問れて陳軫大王夫越人莊烏の事を聞玉はすや越人莊烏楚國よ仕て執珪の爵を受頃くありて病は係れり楚王は曰く烏故越の鄙細人なり今楚は仕て執珪たり貴富極まれり亦越を思ふや不や中謝の官人對へて曰く凡人の故を思ふは其病の時よ在るかり彼人越を思ひなは則ち越の聲をなし越を思ひすは楚の聲をなさんと楚玉人は命して之を聽しめけるは猶尙越の聲なりき今臣弄逐れ楚よ之といへとも豈能秦聲なからんや惠王は曰く善し今韓魏相攻め期年まで解す或は謂らく寡人よ之を救ふと便なりと或は謂らく救ふ勿きと便なりと寡人決すると能す願くは子子か主の爲

又計るの餘を以て寡人か爲よ之を計れ陳軫對て曰く亦嘗て夫下莊子か虎を刺とを以て王は聞ず  
 る者ありや莊子虎を刺んとするは館の豎子之を止めて曰く兩虎方且牛を食んとす食ひて  
 甘き時の必ず争はん争ひ、必ず闘はん闘ふ時の大なる者の傷き小なる者の死せん傷くは從ひて  
 之を刺殺しな一舉して必ず双の虎を刺の名を成ん莊子以て然りと爲し立て須と須更もて兩虎  
 果して相闘ひ大なる者の傷を蒙り小なる者の死しよけり莊子傷く者も從ひて之を刺ければ一舉  
 して雙虎を刺すの功ありき今韓魏相攻め期年よして解す是必ず大國の傷き小國の亡ん傷くは從  
 ひて之を伐玉ひちの一舉して必兩の實功を得へし此も猶莊子か虎を刺の類なり臣か主の爲あす  
 ると王の爲あすると豈別異なるとあらんや秦王聞て善と稱し卒に救す大國の果して傷き小國  
 の亡ひたり秦兵を興して之を伐ち大は尅り是陳軫が計あり  
 犀首の魏の陰晋の人なり名を衍といひ姓の公孫氏犀首の魏國の官名なり張儀と睦しからず張儀  
 秦の爲よ魏よ之ける時魏王張儀を宰相とせしかの犀首利ありとせず故よ人として韓の公叔よ謂  
 しめけるの張儀已よ秦魏を合す其言よ曰けるの魏國よての南陽を攻め秦國よての三川を攻んと  
 約せりと魏王の張儀を貴ふ所以の者の韓の地を得んと欲すれなり且よ韓の南陽の既よ舉られ  
 んとせり子何り少しく委て以て衍か功と爲よさるやさらの秦魏乃交の錯させん斯ある時の魏  
 國の必ず秦國を圖て張儀を稟韓を収入て吾を宰相とせんと言送りけれの公叔聞て以爲便利あり

と因て之と犀首よ委ねて功と爲よしかの果して魏よ相とありて張儀の去りよける此時義渠の君魏  
 よ朝せしよ犀首の張儀か復秦の宰相たりと聞て之を害とし義渠の君よ謂けるの君の國道遠けれ  
 の復見えかたかるへし請くの事の情を謁言さん中國事無き時の秦必ず兵を出して君の國と燒擄  
 焚杆ん中國事ある時の秦將よ輕使を以て幣物を重くして君の國よ事へんとすされの君其術よ乘  
 玉ふなと告げるよ其後楚魏齊韓趙の五國秦を伐し時會陳軫秦王よ謂けるの義渠の君の蠻夷  
 の賢君なり之よ賂ひて其志を撫安するよ如す秦王の曰善しと乃ち文繡千純婦女百人を以て義渠  
 の君よ遣りしよ義渠の君群臣を致て謀て曰く此う先年公孫衍か謂し所なりとて乃ち兵を起して  
 秦を襲ひ大よ秦人を李伯の下よ取りけり張儀已よ卒するの後犀首入て秦よ相たり又嘗て五國の  
 宰相の印綬を佩て從約の長と爲りけるとす

太史公か曰く三晋權變の士多し夫れ從衡を言て秦を強くする者の皆韓魏趙の人あり夫れ張儀の  
 行事蘇秦よりも甚たし然るよ世蘇秦を惡する者の其先よ死して張儀か其短なる所を振ひ暴にし  
 て已か説を扶け其衡の道を成すを以ての故なり之を要するよ蘇秦張儀の兩人の眞よ傾危の士な  
 るかな

楊里子甘茂列傳第十一

楊里子名の疾秦の惠王の弟なり惠王との異母もて母の韓の國の女なり楊里子の滑稽もして非を

是とし是非とするの辨才ありて智慧多かりしかの秦人号して智慧囊と曰ひける秦の惠王の八年は楞里子を右更の爵叙し大將として魏の曲沃を伐し心盡く其人民を出して之を歸し其城池のみを取て秦へ入れけり同く廿五年は楞里子を大將として趙を伐しめ趙の將軍莊豹を生虜として閻の地を拔取れり明年魏章を助けて楚を攻め楚の大將屈丐を敗りて漢中の地を取れり素楞里子を封して号して嚴君と爲せり秦の惠王卒す太子武王立つ張儀魏章を逐て楞里子甘茂を以て左右の丞相と爲す秦甘茂は韓を攻しめ宜陽を拔取り楞里子は車百乘を以て周へ入らしむ周士卒を以て護衛して之を迎へ意甚た恭敬けれの楚王怒て何故かく秦を重するとて周の天子を讓けれの客の游騰と云ふ者周の爲は楚王と説けるの昔時晋の智伯の仇猶と伐や道路の險阨を憂へ之は廣車數乘を遣りしかの仇猶氏大は悦び道路を平かよして之を入れけれの兵隨ひて伐入て仇猶遂は亡ひたり是備へなき故あり齊の桓公祭を襲はんとす号して楚を誅すと曰ひ其實遂は祭を襲て之を破りぬ今秦の虎狼の國あり楞里子は車百乘を以て周の郊へ入らしむ周仇猶祭を以て自之を觀る故よ之か備へを爲して長き戟て前を守り強弩を以て後を護らしむるの名は楞里子を衛ると曰て其實の之を囚るあり且夫周豈能其社稷を憂るとなからんや一旦國を亡して大王を憂はむることを恐る、故を号と解説しけれの楚王の乃て悦ひけり其後秦の武王卒し昭王立ち楞里子益々尊ひ重せらる昭王の元年楞里子の將として衛國の蒲と云地を伐けれの蒲の守恐れて胡衍と云

者又請て兵を退くるとを説せける胡衍因て蒲の爲は楞里子と謂けるの公の蒲を攻るの秦の爲はするが魏の爲はするが魏の爲はせんとなれり則善し秦の爲はなれり則ち頼りて爲さるなり夫衛の衛たる所以の者ハ蒲あるを以ての故なるを今蒲を伐て蒲守ると能すの秦は下らすして折て魏へ入らん魏西河の外を亡ひて以て取還すと無者の兵弱き故なり今蒲を取の衛を取るあり衛魏は從ふ時の國必ず強からん魏強きの日ハ西河の外とても危からん且秦王公の爲所の事秦は害ありて魏は利ある時の必ず公を罪しさんと説は楞里子の奈何すへきと問けれの胡衍さらハ公蒲を釋し攻むると勿れ臣試みよ公の爲は入て之を言ひ以て衛君は恩徳となしなん此儀ハ如何よと言けれハ楞里子の善しと号しける胡衍蒲に入り其守は謂けるハ胡里子蒲の苦しみ病とを知れり故は必ず蒲を抜んとす術能く蒲を釋して攻ると勿らしめん公如何するやと云けれハ蒲の守大は恐れ因て再拜して曰く願くハ兵を解とを請なりとて金三百斤を遺て曰けるは秦の兵尙退きなハ必ず子の功を衛君は言し南面の位よ子を奉きなんと号しける楞里子蒲より受て大は衛は貴どかりし楞里子は遂は蒲を解て去り還時皮氏を伐けるよ皮氏未だ降らすして去ける昭王の七年は楞里子卒せり渭南章臺の東は葬る曰く我が死後百歳にして當は天子の宮ありて我が墓を夾むへしと楞里子か室は昭王の廟の西渭南の陰郷の楞里は在り故は俗は之を楞里子と謂ふ漢の世興るよ至て長樂宮其東は在り未央宮其西は在り武庫正しく其墓は當れり秦人の諺は曰く力の則任鄙智

則楞里と云けるを  
 甘茂の下蔡の人なり下蔡の監門者の史舉先生も事て百家の説を學ひ張儀と楞里子とに因て秦の  
 惠王も見へけるよ王見て之を悦び大將として魏章を佐て漢中の地を略し定めしめて功あり惠王  
 卒し武王立つ張儀魏章去て魏へ之きけり此時蜀侯輝の宰相陳壯と云ふ者謀反し蜀地乱れけれ  
 秦より甘茂を遣て蜀を定めしむ還て甘茂を以て左丞相となし楞里子を右丞相とす秦の武王三  
 年甘茂も謂て曰く寡人車を容はかり三川を通し周の王室を窺ふとを得の望み足りぬ死すると  
 も骨肉朽さるへしと甘茂か曰く賢慮斯の如くあらん請ふ魏の國も注き相約して韓を伐へしさる  
 後事を謀り玉へと乃ち向壽を輔行とし魏も至る其約已も定りけれ甘茂向壽も向ひ子の歸て魏  
 の約の定りしとを王も言ひ猶又謂ふへきよの魏約を聽たりとも願くは王伐と勿れと止よかし事  
 能く成就なす上の盡く以て子の功とこりなすへけれと言ふも向壽の諾ひて歸りてかくと告げ  
 り王の甘茂の歸るを息壤の地も迎へ甘茂の至るを待て其故を問ひ甘茂宜陽の土地の大縣もて上  
 黨と南陽の糧米を積貯ゆると日も亦久之名の縣と曰あれとも其實を推時の郡と言も誰かの非  
 とせん且數ヶ處の嶮岨を倍よして千里の遠きも行くとなれり之を攻むるとい極て難し昔時曾參  
 の費の地も處し時魯人曾參と姓名を同じくする者ありて人を殺せり人其母も告げるの曾參人を  
 殺せりと其母吾子の然る者よの非すとて機を織と自若かり頃くありて一人又告げるの曾參人を

殺せりと母尙織と自若かり頃くありて一人又告げるの曾參人と殺せりと母此回の秤を投すて機  
 臺を下り牆を踰て走りけり夫曾參の賢あると其母の之を信するを以て三人之を疑かふ時其  
 母恨て逃走りぬ今臣の賢曾參も若す王の臣を信じ玉ふと曾參の母の曾參を信するよ如す臣を疑  
 ふ者特も三人のみも非す臣恐らくは大王も秤を投玉ふとあらん始め張儀西巴蜀の地を并せ北西  
 河の外を開き南上庸を取りしも天下張子を多りと爲すして先王を賢ありとせり魏の文侯樂羊を  
 將として中山を攻しむ三年もして之を拔り樂羊返て功を論する時文侯之も樂羊を謗たる上書一  
 篋を示したり樂羊再拜稽首して此臣の功も非す主君の力ありと云言ひける今臣の鬻旅もして  
 他國の者なり楞里子公孫奭二人の者韓を挾て之を議しなば王必ず聽受玉のん臣魏王を欺きて公  
 仲侈の怨を受るかり王の曰寡人決して聽さるかり請子と盟んとて卒も丞相甘茂を數万の大將と  
 して宜陽を伐しめ五月まで拔す楞里子公孫奭果して之を争ひける武王甘茂を召し兵と罷んと欲  
 す甘茂聞て息壤彼こもあり王盟を忘れ玉ひしやと云ふも王の大も慚悉く兵を起して甘茂よ之を  
 撃しめ首を斬ると六万もして遂も宜陽を拔しけり韓の襄王公仲侈も入て謝せしめ秦と和平も及  
 ひけり武王竟も周も至り周も卒しぬ其弟立て昭王と爲る王の母宣太后の楚の女なり楚懷王前も  
 秦の楚を丹陽も取りて韓の之を救さるとを怨み兵を以ひて韓の雍氏を圍みけれの韓公仲侈を以  
 て急を秦も告よける秦の昭王新も立太后の楚人あり救ふとを肯はず公仲甘茂も因みける故甘茂

王曰けるの公仲方は秦の救を得ると有とせり故に敢て楚を扞くなり今雍氏圍まれたるも秦の師殺を下らす公仲且は首を仰きて朝すると能はざらんとす公叔且は國を以て南楚國は合んとせり楚韓一と爲るの魏も敢て聽さるとい有へからず然らば秦を伐の形成かん識す坐して伐るを待と人を伐の利と孰れかよしとし玉ふやと言ふは秦王之を善とし乃ち師を殺より下して韓を救ひしかの楚の兵の去りしけり秦向壽は宜陽を平けしめて樗里子甘茂は魏の皮氏を伐しめける向壽の宣太后の外族なり昭王と少年の時より相親しみて生長しける故尤も任用せられける此時向壽楚に如たりしと楚よての秦の向壽を貴ひ重んずるとを聞きて厚く向壽を敬ひける向壽秦の爲に宜陽を守り將よ以て韓を伐んと爲しけるは韓の公仲修蘇代を命して向壽の所よ使し遣はし説せけるの禽も困む時獵者の車を覆へす公韓を破りて公仲を辱む公仲國を収めて復秦は事へん自ら以爲必ず秦の封と受へしと今公楚は解口の地を與へんとし小令尹を封するは秦の杜陽の地を以てせんとす秦楚合時の復韓を攻むると必せり秦楚相共よ攻むる時の韓は必ず亡ひん韓亡ぶる時の公仲且は自ら其私徒を引率して決死して公の兵を闕き止めんとす願くは孰と之を計かれよと言ふは向壽吾は秦楚を合するは韓は當らんとし非ず子吾は爲は公仲よ謂て曰へ秦韓の交合すへきなりと蘇代對へて吾願くは公よ謂ると有ん人の曰く其貴とふ所以の者を貴へん貴しと王の公を愛し習ふは公孫爽は如す其公を智あり能ありとするは甘茂は如す今公孫爽甘茂二人の

者は皆秦の大事を親しくするを得ずして公獨り王と決斷を國よ主とる者何りや彼二人失する所あれはなり公孫爽は韓は黨して甘茂は魏は黨せり故に王信せず今秦楚強きを争ひて公楚は黨す是公孫爽甘茂と道を同くするあり公何り此と異よせざる人皆楚の善變して信なきといへり公遂は必ず之か爲は亡しなん是自ら責を速くあり公王と其變を謀るは如す韓を善して楚の備をなすへし如此する時の患へ無らん韓氏必ず先國を以て公孫爽は從ひて而して後國を甘茂は委ねん韓の公の讐なり今公其讐を善して楚は備へんと言はは是外舉讐を辟する者と言ふへしと説は向壽は然りとし吾甚は韓と合んと欲するあり如何せば善からんやと言ふは對へて甘茂公仲は許すは武遂を以てして故攻取たる宜陽の民をも反したり今公を徒よ之を収め取んとするは甚は難き事ならずや向壽さらは如何して善へき武遂の地の遂よ得へからざる者なるか蘇代對へて公奚は秦の力を以て韓の爲は潁川の地を楚國よ求めざる此韓の寄地はこりされは公求て之を得る時の命令楚國は行はれて恩徳を韓は施すなり公若求て得ざる時は是韓楚の怨解けずして兩國交々秦國へ走きなん秦楚強を争ひて公徐ろは楚を過めて以て韓を収入するは此秦は利あらん向壽か曰く如何ある利益か有る詳は説玉へ蘇代對て此善事よあらすや甘茂は魏を以て齊を取んと欲し公孫爽は韓を以て齊を取んと欲せり今公宜陽を取て以て功と爲し楚韓を収めて以て之を安して齊魏の罪を誅は是公孫爽甘茂の事とする所かからんと甘茂竟は秦の昭王よ言し

て武遂を以て復之を韓は歸さんとしける故向壽公孫奭之を争ひしも勝事能はず向壽公孫奭此より由りて怨て甘茂を讒しければ甘茂懼れ魏の蒲阪を伐事を輟て亡去りけり樗里子魏と媾ひて兵を罷けり甘茂の秦を亡て齊よ奔る時蘇代は道よ遇り代の齊の爲よ秦よ使す甘茂か曰く吾罪を秦よ得て悞て逃逃し跡を容るよ處おし吾聞く貧人の女富人の女と會して續けるよ貧人の女の曰く我以て燭を買と無し而るよ子の燭光餘りあり子我よ餘光を分つへ玄子か明よ損おくして一の斯便宜を得んと今吾れ困みて君の方よ秦よ使して路よ當れる時即富人の女あり茂の妻子秦よ在り願くは君餘光を以て之を振へと蘇代許諾し遂よ使を秦よ致し因て秦王よ説て曰く甘茂は非常の士なり其秦よ居る時の累世重せらる殺の塞より鬼谷よ至るよ及ふまで其地形險易皆明かよ之を知れり彼齊を以て韓魏を約し反て以て秦を圖り伐んとせし秦の利とい謂ふへからずと秦王聞て誠よ然なり然らば奈何して可あらんや蘇代か曰く王其賢を重くし其祿を厚くして以て之を迎へ還すよ如いなし彼來なむ之を鬼谷よ置き終身出ず事勿れ之上策ありと秦王聞て善しと言ひ即ち之よ上卿を賜ひ相の印を齎らして之を齊より迎へけり甘茂往す蘇代齊の潛王よ言けるは夫甘茂の賢人あり今秦之よ上卿を賜ひ宰相の印を以て之を迎ふざるを甘茂王の恩賜を徳とし王の臣とならんとを好み秦の使よ辭して往さりき今王何なるを以て之を禮し玉ふや齊王の曰吾も亦秦の如くせんのみとて即ち之を上卿よ位せしめて之を齊國へ處めける秦因て甘茂の妻子を復して齊

へ送り人けり齊甘茂を楚よ使せしめけるよ此時楚の懷王新よ秦王の女を娶り相驢して有しかり秦よて甘茂の楚よ在るとを聞く人を以て楚王よ謂せけるは願くは甘茂を秦へ送り越玉のれどや託しける楚王大夫范蠡は問けるは寡人宰相を秦國よ置ましく思ふよ孰れか可なる者や范蠡對て臣等か如き者争てか之を知るよ足らん楚王の曰く寡人甘茂を秦の相よ薦めんとす可あるか奈何よと問けるよ范蠡は曰く大よ不可あり夫甘茂の師たる史舉は下蔡の監門なり大の君よ事ふる事を爲す小の家室を爲めず苟賤不廉の行ひを以て世よ聞えたり甘茂此人よ事て之よ順へり故よ惠王の明武王の察張儀の辨よして甘茂之よ事へ十官を取て罪せらるゝとなかりき茂は誠よ賢者よこりされども秦の宰相とするとい悪かるへし秦の賢相あるは楚國の利よあらず且王前よ嘗て召滑を越の國よ用ひしめえよ彼内心猜詐よして外恩義を章かよし遂よ越國よ乱を作せしかり楚此間よ乘して南は厲門よ塞して江東の地を郡よせり王の功能かくの如くある所以の者を計るよ楚の國乱て楚の國治れはなり今王諸を越よ用るとを知り玉ひて諸を秦よ用るとを忘れ玉ふは奈何なる事や臣王を以て鉅なる過なりと思ふあり王若宰相を秦よ置んとならは向壽よ如者の有へからず向壽の秦王よ於るは親あり少き時よ之と衣を同じ長して之と車を同じ以て事を聽く王必向壽を秦よ相とせし楚國の利と爲るへけれと是よ於て使を以て秦よ請ひ向壽を秦よ相とせしむ秦卒よ楚の請ひよ従ひて向壽を宰相よ升せけり是よ於て甘茂遂よ復秦國へ入るとを得ず魏國よ

卒しける甘茂孫あり甘羅と曰ふ

甘羅は甘茂の孫なり茂既死して後甘羅秦の相文信侯呂不韋事へける秦の始皇帝剛成君蔡澤を燕使せしむ因て燕王喜太子丹を人質として秦の國へ送りける秦張唐命して往て燕國の宰相とからしめ共趙を伐て以て河間の地を廣めんとしける張唐文信侯向ひ臣嘗て秦の昭王の爲趙を伐しより趙深く臣を怨み張唐を得たらん者よの百里の地を與へんと令せしと今燕よ之の必す趙を経るとかれの臣を捕るとの必定あり故又臣之を辞するなりと言けるより文信侯快からす思へとも強るよ力なく先其まよ過去りぬ甘羅之を見て文信侯向ひ君侯近日何う快からざるの甚しきやと問ふよ文信侯吾剛成君蔡澤よ燕に事へしむると三年よまて燕の太子丹已入て吾國よ人質と爲りぬ我自ら張卿よ請て燕の宰相とせしよ行とを肯のす因て快よからす思ふありと言ふよ甘羅うの張卿を燕國へ行する事の容易よこり臣請ふ一言の下よ行しむへしと言へ文信侯叱々去れ童子分よ過たり我身自ら請てすら肯ざるよ汝争てか之を行んやと叱りければ甘羅少しも怯せず夫項橐の七歳よして孔夫子の師となれりと今臣生れて茲よ十二歳なり君其臣を試み玉へ事就さるも童子の辨論決して損益有へからす然るを何故遽よ叱り玉ふやと言れて文信侯大よ感し祖父よも恥ぬ汝か器量往て事を整へよ善仕ねかしと命しける甘羅直よ張卿か家よ至り謁を乞て面前へ出ければ張卿笑て童子何事ありて來しや文信侯の用向よや早く言と問

ければ甘羅否然よてのあらすかま君よ一事を質問せんとして謁見を乞ひたるまで他よ用おし君の秦國よ功あるとの彼名將と諸侯よ知れし武安君白起との孰れと思ひ玉ふやと突然問れて張卿のこの思のぬ問をさす童子と心よ驚き武安君白起の汝も己よ知る如く秦の名將と言のみか天下の名將と言へき者よて南の方の強楚を挫き北の方の燕起を感し戦への勝ち攻むれば取り城を破り邑を墮つと其數を知す吾の功の此人よの如さると遠しと言への甘羅今一事問奉らん應侯范雎の此秦國よ用ひられたるの今文信侯の政を專よすると孰れりやと問ふよ張卿うの應侯の文信侯の專なるよの遙よ及のしと言ふよ甘羅君明かよ應侯の文信侯の專なるよ如さるとと知り玉ふかと押返されて否問と思へとも因より及のぬ事かれの我明かよ之を知れりと答へけり其時甘羅昔し應侯趙を攻んと欲し武安君よ大將を命せしよ武安君之を難し肯のさりしかの咸陽の都を去ると七里よして立地よ杜郵の地よて劍を賜りて死したるよあらすや今君武安君の功をくして應侯より權力ある文信侯の請を肯のす燕よ行せ玉のぬの臣君の孰れの地よ死を賜るや其地を末知らずと言ひければ張唐忽地色青さめ孺子の辨論尤も理あり我孺子の言よ因て燕へ行んとす答へける己よして張卿の舍人を呼ひ旅行の装を爲しめ出途の期日を定めけり甘羅の歸て文信侯よ見ければ文信侯咲て孺子叱られて歸り來りしかと問への甘羅の事云々と辨しければ張卿よの大よ恐れ已よ旅行の期日を定て領諾しぬと言ふより文信侯大よ感し恐へしととり歎しける其時



甘羅文信侯も向ひ願くは臣も車五乘を借玉へ張唐か爲先趙も報して張卿も過なからしめんと  
 文信侯朝も入て始皇も言しけるは昔の甘茂の孫甘羅年少きのみ然れども名家の子孫もして諸侯  
 習之を聞けり今者張唐病と稱し燕も行を肯せざりしを甘羅説て言下も行しむ今先つ趙も報する  
 事を願へり請ふ張卿の爲も許して之を遣ん始皇召て之を見甘羅を趙も使としけるも趙の襄王郊  
 外まで甘羅を迎へ大も之を尊敬しける甘羅趙王も説けるは大王燕の太子丹か入て秦も質たると  
 を聞玉ひしか趙王日之を聞り張唐か燕も相たるとを聞玉ひしか日之を聞けり燕の太子丹の秦も  
 入る者も燕の秦を欺むかさるなり張唐の燕も相たる者も秦の燕を欺むかさるなり燕秦相欺むか  
 さる時も趙を伐の形ち成れり危しと謂へし燕秦の相欺むかさるは他の故あるも非す趙を攻て河  
 間の地を廣めんと欲するのみ臣も五城を齎して秦も入れ趙より河間の地を廣むるも如し其時  
 の秦燕乃太子を歸して強趙と共も弱燕を攻かんと言はれ趙王立地も五城を割て以て河間を廣め  
 秦の燕の太子を歸し趙の燕を攻め上谷の三十城を得秦も十一を送りけり甘羅歸て報しければ秦  
 甘羅を封し以て上卿とあせり復始めの甘茂か田宅を以て之も賜りけり  
 太史公か曰く樛里子の骨肉の兄弟なれり重せらる、の固より其理なり秦人其智を稱せり故も頗  
 る采り甘茂下蔡の閭闔より起りて名を諸侯も顯し強き齊楚も重せらる甘羅年少し一奇計を出し  
 て聲後世も稱せらる篤行の君子も非すといへ共然れども亦戰國の策有る士あり秦の強時も方

りて天下の人尤も謀詐も趨くかな

穰侯列傳第十二

穰侯魏丹の秦の昭王の母宣太后の弟あり其先の楚人華氏秦の武王卒す子無し其弟を立て昭王と  
 爲す母故の号を華八子と爲す昭王の位ひも即も及んで華八子を号して宣太后と爲す宣太后の  
 武王の母も非す武王の母を号して惠文侯と曰ふ武王も先ちて死す宣太后の二弟其異父の長弟を  
 穰侯と曰ふ姓も魏氏名の再同父の弟を華戎と曰ふ華陽君と爲す而して昭王の同母弟を高陵君涇  
 陽君と曰ふ而して魏冉最も賢あり惠王武王の時より職も任し事を用ゆ武王卒す諸弟立とを争ひ  
 けるも魏冉力能昭王を立てるを爲せり昭王位も即も冉を以て將軍とあし咸陽の都を備しめ季君  
 と云者の叛逆の時之を誅して功尤も多し而して武王の後も其事も與りしかの之を魏國へ返し昭  
 王の諸兄弟の不善ある者も皆之を滅し威光秦國も振ひけり昭王少し宣太后自ら治め魏冉も任し  
 て政事を爲しむ昭王の七年も樛里子死す涇陽君を齊も人質も出せり趙人樓緩來て秦の宰相とな  
 りしも趙人之を利とせず乃ち大夫仇液を遣りし請ふて魏冉を以て秦の宰相たらしめんとしける  
 仇液特も發足せんせし時其食客も宋公と云ふ者仇液も曰ひけるは秦の公の言も聽す樓緩宰相を  
 免せずんは彼人公を怨て如何なる禍かあらん公如し樓緩も相を免する趙王の命も吾公の爲も秦  
 へ發すると急ますると母らんと曰んよ秦王趙の魏冉を相とするを請ふの急あらざるを見て

且く公も聽さらん公言て秦王聽さる時の公樓子も徳するなり秦王纒も聽なれ魏冉公が周旋せし  
 として故も公を徳とせん是事成るも人も徳とせられ事成らざるも人も徳とせられんと教へけれ  
 の仇液大も喜ひ之も從ひ秦も之てかくあしける秦の樓緩を免して魏冉を相とあしり昭王の  
 十四年魏冉白起を擧て向壽も代て大將たらしめ韓魏を攻めて之を伊闕も敗り首を斬ると二十四  
 万魏の大將公孫喜を虜にし明年又楚の宛葉を取る魏冉病と謝して相を免し客卿壽燭を以て宰相  
 とす其明年燭免し復魏冉を宰相とし穰の地も封し復陶の地も益封せらる号して穰侯と曰ふ穰  
 侯封せられて四歳秦の大將として魏國を攻む魏河東の地方四百里を獻す魏の河内の地を抜き城  
 を取ると大小六十余昭王十九年秦の西帝と稱し齊の東帝と稱し月餘各復帝号を歸して王号と  
 成る魏冉復秦も相たり六歳もして免し二歳復相たり四歳もして白起も命して楚國の郢と云地を  
 抜き秦南郡を置たり乃ち白起を封して武安君と爲す白起の穰侯の任し擧る所あり相迭も親善し  
 ける是時も當りて穰侯の富王室より富たりと昭王の三十二年穰侯遂も相國と爲り兵も將とし  
 て魏を攻め大將芒卯を追ひ走らせ北宅の地も伐入て遂も大梁の都を圍みける魏の大夫須賈穰侯  
 も説て曰く臣聞く魏の宰相魏王も言ける昔時梁の惠王趙を伐ち戦て三梁も勝ち邯鄲の都を抜  
 たりしも趙氏地を割すまて邯鄲の復趙へ歸りけり齊人衛を攻め故國を抜き子良を殺せしも衛人  
 地を割すして故地復反る衛趙の國全く兵勁して地を諸侯も兼并せられざる所以の者の其能國難

を堪忍て地を割とを重するを以てあり宋中山の兩國の數々伐れて地も割國隨ひて亡たり大臣皆  
 以爲く燕趙の法とすへく宋中山の戒めと爲すへしと且秦の貪り戻るの國あり親むと勿れ魏氏を  
 蠶食し又晉國を盡す曾て韓と戦ひ大將暴鳶も勝ち八縣を割取り其地未だ畢く入らざるも兵復  
 出て戦ひをなせり秦國の何り厭足との有へきや今又我國を伐て芒卯を走らせ北宅も入るの敢て  
 梁を攻んとするよ非す且も王を劫かして以て多く地を割しめんと思ふのみ王必ず地を割て和  
 することを聽と勿れ且王楚と趙との二國も背て秦と和する時の楚と趙と必ず怒て王を去て王と秦  
 も事を争ひなれ秦必ず之を受へし秦復楚趙の兵を挟みて梁を攻むの國亡ると無きとを求むる  
 とも得へからざるなり因ての王の必ず和睦を乞ひ玉ふと勿きを願ふなり王若和睦をあさんと欲  
 せの少しく地を割て秦の人質を取るころよければらすの必ず欺むかれんと此う我國の評定あれ  
 君の是を以て事を慮り玉ふへし周書も曰く惟命常も于てせずと此天幸の數すへからざるを言ひ  
 となり夫戦ひ暴鳶も勝て八縣を割く此兵力の精きも非す計の工あるよも非す天幸を多しと  
 せり今又芒卯を走せ北宅も入て以て大梁を攻む是天幸を以て自常と爲すあり智者の然らす臣聞  
 く魏氏今其國內百縣の勝甲を盡して大梁を成る臣以爲三十万人も下らざるへし三十万の大兵を  
 以て大梁七仞の高城を守る湯王武王復生るとも容易も陷しけれかたかるへし夫輕々しく楚趙の  
 強兵を背よし七仞の高城を陵き三十万の衆と戦ひ志必ず之を擧取んとす臣以爲く天地始て

分てより以て今日に至るまで未だ嘗て有さる者なりと若攻て拔取ると能はずん秦の兵士必罷れんさらん君の所領陶の邑とても伐る、とを免れず前功必ず弄ん今魏氏方疑ひを抱けり此時を以て土地を少しく割取て魏國と收れ玉ふへし願くは君楚趙の兵の大梁に至らぬ前も亟も少しく地を割を以て魏を收れ玉ひある魏國も少しく割を以て利と爲すを得ん必ず之を欲しなは君必ず欲する所を得玉ふへし楚と趙と魏の己より先立て秦と事ふると聞からの必ず争ひて秦と事るとい必定なりさらん六國の從約とても此より必ず散乱して何れも秦と附從のんかくして君の其後よ其可なる者を選び玉ひ、便ならん且君が地を得るに至ての豈必ずしも兵力を以てするよ及のんや魏國を割取る時の秦の兵攻めずして必ず絳と安邑の地を效しなん又陶の爲よの兩道を開くよ至るへし幾と故宋を尽すよ至ら衛の必ず單父の地を效さん秦の兵全くして君之を制しな何を索てか得さらん何を爲してか成さらん願くは君執と之を慮り玉へ危きとを行ひ玉ふの要なき事りと利害を辨せし高論も穰侯善しと稱しつ、忽地命を先鋒よ下し梁の圍みを罷りけり明年魏秦よ背きて齊と從親なせしかり秦穰侯をして魏を伐しめ首を斬ると四万魏の大將暴鳶を逐走らせ魏の三縣を得たり穰侯封土を益れける明年穰侯白起客卿の胡陽と趙韓魏と攻め芒卯は軍勢を華陽の下よ破り首を斬ると十萬魏の卷。蔡陽。長社。趙氏の觀津を取り且趙よ觀津を還し與へ益よ軍兵を以てして齊を伐んとしてけれの齊の襄王大よ懼れ蘇代をして陰よ穰侯よ書を遣し

めて曰く臣聞く往來する者の言よの秦將よ趙よ甲兵四万を益し齊を伐んとすと吾敝邑の君臣甚た之を懼る臣獨り之を齊王よ必しけるの秦王の聰明よして謀計よ熟達せり穰侯の智畧ありて百事よ修練かれの必ず趙よ甲兵四万を益て齊を伐さるなりは何故り夫三晉の相與するや秦の深き讐かり百たひ相背き百たひ相欺く不信と爲す無行と爲す今齊を破りて趙を肥すの何事りや趙の秦の深き讐よして秦よ利ならさる此一あり秦の謀る者必ず曰ん齊を破り晉楚を擊りて後晉楚の勝を制せんと夫齊の罷れたる國なり天下を以て齊を攻るの千鈞の弩を以て潰る癭を決するか如し安り能く晉楚を弊ん此二あり秦少しく兵を出さの晉楚信せず多く兵を出さの晉楚秦よ制せられん齊恐くの秦よ走かすして晉楚よ走かん此三あり秦齊を割きて以て晉楚よ啖しめんよ晉楚之を案するよ兵を以てせの秦反て敵を受あん此四なり是晉楚の秦を以て齊を謀り齊を以て秦を謀るあり何り晉楚の智ありて而して齊秦の愚なる此五あり故よ安邑を得て以て善く之よ事ふれよ亦必ず患かからん秦安邑を有ちかり韓の必ず上党の地かからん天下の腸胃を取ると兵を出して其反せざるを懼すと孰か利ある臣故よ曰く秦王聰明よして計よ熟達せり穰侯智畧ありて百事よ修練あり必ず趙よ甲兵四万を益て齊を伐すと是よ於て穰侯行す兵を引て歸れり昭王三十六年相國穰侯客卿竈よ言て齊を伐て剛壽を取て以て其陶邑の封地を廣めんと欲す是時よ於て魏人范雎自ら張祿先生と号して穰侯三晉を越て以て齊を攻るとを譏り此時を以て奸して秦の昭王よ説

きける故昭王范雎を用ひたるなり范雎宣太后の制を専らし穰侯を諸侯より擯し涇陽君高陵君の屬太た侈り王室より富と言げれは是に於て秦王悟り乃ち相國を免す涇陽君の屬を皆關より出えて封邑を就しめたり穰侯關を出る時輜車千乗有餘あり穰侯陶は卒す因て其地を葬る秦復陶を収めて郡とす

太史公曰穰侯は昭王の親舅なり秦東の方地を益し諸侯を弱め嘗て天下を帝と稱し天下皆西に郷て稽首する所以の者穰侯の功なり其貴きと極り富溢る、及び一夫范雎の開説に因て身折け勢ひ奪れて憂を以て死せり況て羈旅の臣に於てをや

白起王翦列傳第十三

白起の郿人なり善兵を用ゆ秦の昭王は事ふ昭王の十三年にして白起左庶長となり將として韓の新城を撃つ是歳穰侯秦に相たり任鄆を擧て以て漢中の守とあせり其明年白起左更と爲り韓魏を伊闕の地に攻む首を斬ると二十四万又其大將公孫喜を虜にして五城を拔取れり起迂て國尉の官とある河水を涉り韓の安邑以東乾河に至るまでを取れり明年大良造と爲り魏を攻て之を拔く城を取ると大小六十一明年客卿錯と垣城を攻て之を拔く後五年白起趙を攻め光狼城を拔く後七年白起楚を攻め鄆鄧の五地と拔く其明年鄆を拔き夷陵を燒き遂に竟陵に至る楚王亡て鄆を去り東に走り陳に徒る秦鄆を以て南郡と爲す白起迂りて武安君と爲る武安君因て楚を取り巫黔中郡と

定む昭王の三十五年白起魏を攻て華陽を拔き芒卯を走して三晋の大將を虜にし首を斬ると十三万趙の大將賈偃と戦ひて其卒二万人を河中に沈む昭王の四十三年白起韓の涇城を攻て五城を拔き首を斬ると五万四十四年白起南陽の太行道を攻て之を絶斷りたり四十五年韓の野王の地を伐しかり野王秦に降ぬ因て韓の上党の道絶たり上党の守馮亭民と謀て曰く韓の道已に絶たれ韓必ず民と爲へからず秦の兵日進むも韓之に應ずると能はず如じ上党の地を以て趙に歸せんよ趙若我を受収なり秦怒て必ず趙を攻ん趙兵を被れり必ず韓を親みかん韓趙一つとからん秦の兵に當るよ足なん因て人を遣して趙に降んとを言送りけり趙の孝成王平原君と之を計りけるよ平原君か曰く上党の受ると無きよ如かず之を受る時の禍ひ必ず得る所より大からん平原君の曰く故なくして一郡を得るとなれり之を受収よこり便からんと遂に平原君の言に従ひ趙に之を受け因て馮亭を封して華陽君と爲しよけり四十六年秦韓の緱氏。蘭の地を攻て之を拔く四十七年秦左庶長王齮をして韓を攻しめ上党を取る上党の民趙に走る趙長平よ軍して上党の民を按據しめける故四月王齮因て趙を攻む趙廉頗をして大將たらしむ趙軍の士卒其斥の兵を犯せしかり趙の裨將の茄と云ふ者を撃取たり六月趙の軍と陷れ二ヶ處の鄆四人の軍尉を取りたり七月よ至て趙軍秦の強に敵しかたき壘壁を築きて之を守りけるよ秦又其壘を攻め二人の軍尉を取り其陣を敗り西の壘壁を奪ひ取る廉頗壁を堅くして以て秦の攻るを待ける故秦數々戰

を挑みけれとも趙の兵出す趙王廉頗を怯夫なりとして數々使を遣て之を讓けるよ秦よての又宰相應侯間諜を以て千金を趙よ行き反間の計を放ち曰せけるの秦の惡む所の獨馬服君の子趙括か廉頗よ代て大將とならんとを畏る、のみ廉頗の與し易し且降んとするなりと流言させけれの趙王既よ廉頗か軍多く失亡し軍數々敗れしよ又反て壘壁を堅く守りて敢て戰のさるを怒て有しよ秦の反間の言を聞き因て趙括を以て廉頗よ代て大將として以て秦の軍を擊しめける秦よての馬服の子の將たりと聞くと乃ち陰よ武安君白起を上將軍とし王齧を尉裨將たらしめ命令を下しけるの軍中の兵士敢て武安君の大將たりと泄す者あらひ首を斬んと戒しめ置けり聽て趙軍よ大將趙括至り軍尉よ問けるの秦の大將の果して何んや軍尉王齧ありと對へけれの趙括笑て是一戰よて虜とすへきなり廉頗の怯夫者よとて直よ兵を出して秦の軍を擊つ秦の軍伴り敗れて走り二隊の奇兵を出して之を劫あす趙軍勝よ乘して秦の壘壁よ造れの壁中の弓弩を以て拒の尤も堅けれの趙軍中々入るとを得す秦の二隊の奇兵二万五千人趙軍の後を斷絶たり又一軍五千の騎隊趙の壘壁の間を同じく斷絶たり趙軍分て二と爲り糧道絶へて兵士の氣阻むを觀て秦の大將白起輕兵を出して之を擊つ趙軍敗れ因て壁を築て堅く守り救の至るを待よけり秦王趙の食道絶たりと聞て自ら河内の地よ出陣し民よ爵各一級を賜り年十五以上の民を發して軍よ就しめ悉く長平よ詣らしめ趙の救の兵と糧食の道路を遮斷しけれの九月よ至り趙軍食を得さると四十六日

よ及ひける皆内陰よ相殺して食ひける趙括是非なく說卒を出して自ら搏戰しけれの秦軍射手をを排列して射出す矢よ趙括敢なく射殺され士卒四十万人冑を脱て武安君よ降けり武安君計て前よ秦已に上黨を拔しよ上黨の民秦の民と爲るとを樂ますして趙よ歸したり趙の士卒反覆計りかたし尽く之を殺すよ非れの恐くの乱を爲なんど乃ち詐を挾て盡く抗よして之を殺し其小なる者二百四十人を遣りて趙よ歸せり前後首虜を斬ると四十五萬人趙國よ爲よ震動しけるり道理なれ四十八年秦復兵を出して上黨郡を定む秦軍を分て二隊となし王齧皮牢の地を攻て之を拔き司馬梗太原を定めけり韓趙共よ恐れ蘇代を以て弊を厚くして秦の宰相應侯よ説しめけるの武安君馬服の子趙括を擒よせしか同く然り又曰く即ち邯鄲を圍むか曰く然り蘇代か曰く趙亡ひの秦王王たらんさらひ武安君三公の尊きよ位せん武安君秦の爲よ戰て勝攻て取る所の者七十餘城南の方鄆對漢中を定め北の方趙括の軍を擒よせり周公召公太公望の功といへ共此より益す今趙亡て秦王たる時の武安君必ず三公と爲ん君能之か下たるか之か下たるを欲するとなしとも固より已事を得す秦嘗て韓を攻め刑丘を圍み上黨を困しむ上黨の民皆反て趙の爲よす天下秦の民たることを樂ますると久し今趙を亡して北地は燕よ入り東地の齊よ入り南地は韓魏よ入る時の君の得て有とする所の民の幾何人もあかるへし故よ因て之を割き以て武安君の功と爲すなきよ如さるなりと利害を説けれの應侯善しと稱し秦王よ言けるの秦の兵太た疲れ勞せり請らくは韓魏

の地を割きて以て和するを許し且く士卒を休息せしめんと言ければ秦王之を聽受ける是より於て韓の垣雍趙の六城を割て以て和平を結ひ正月は皆兵を罷りけり武安君此事を聞て是より應侯と隙をこり生しける其九月は秦復兵を發して五大夫王降を將として趙の邯鄲を攻しむ是時武安君病は係て行ふ任す四十九年正月王陵邯鄲の都を攻しかとも勝利少し秦益々兵を發して陵を佐く陵の兵五人の校尉を討れけり武安君病愈ける故秦王武安君を以て王陵に代て大將としけれり武安君言ひける邯鄲の地は實は未だ攻易からざるあり且諸侯の援兵日に至らんとす彼諸侯秦を怨の日久し今秦長平の軍を破れども秦の卒の死する者半は過て國內空し遠く河山を絶て人の國都を争ふ趙其内は應し諸侯其外を攻む秦の兵を破らんと必定あり出兵決して不可なりと言て行とを欲せず秦王自ら命すれども行かず應侯をして之を請ひまめし武安君終に辭して行肯せず遂は病を稱す秦王駭を王陵に代て將たらしむ八月邯鄲を圍もしも拔と能す楚の春申君魏の公子と兵數十万を將として秦の軍を撃しむ秦の軍多く失亡せり武安君言て曰秦臣の計を聽す遂は車を覆へせり今如何秦王之を聞て怒り強て武安君を起しめけれども遂は病篤しと稱しける應侯之を請とも起す是より於て武安君を免して士伍と爲し之を陰密と云地へ遷しける武安君病て未だ行と能はず居と三月諸侯秦の軍を攻むると急あり秦の軍數々却く軍使日々に至て救ひを求むると益々急なり又秦王の人の遣て白起は咸陽の都内は留るとを得さらしめける故武安君

病を忍ひて咸陽の西門を出ると十里にして杜郵と云地に至りける昭王の應侯群臣と議しける白起の遷る其意尙快々として服せず餘言ありと聞けりとて乃ち使者をして之を劔を賜ひ自裁せしめける武安君劔を引將自ら到んとする時曰ける吾何う天は罪ありて此に至るやと良久ふして曰く我固より當り死すべし長平の戦ひは趙の降卒數十萬人を我詐りて盡く之を阬せり是以て死するに足れりと遂は自殺す武安君の死するに昭王の五十年十一月を以てせり死して其罪は非ず秦人之を憐み卿邑皆祭祀しける王翦は頻陽の東卿の人なり少年にして兵術を好み秦の始皇は事ふ始皇十一年王翦大將として趙の關東を攻て之を破り九城を拔く十八年王翦大將となり趙を攻むる事一年餘遂は趙を拔き趙王降しかり盡く趙の地を定て郡とせり明年燕荊軻をして秦王を刺しめんとせしかり秦王大に怒り王翦を命して燕を攻めしむ燕王喜遼東に走りしかり遂は燕の薊を定て還りける秦又翦の子王賁を命して楚を撃しむ楚の兵敗れぬ還て魏を撃つ魏王降る遂は魏の地を定めけり秦の始皇既も三晋を滅し燕王を走しめて數々楚の軍を破る秦の將李信と云者年少くりて壯勇なり嘗て兵數千を以て燕の太子丹を遂撃てて衍水の中に至り遂は丹が兵を十分は撃夷けるより始皇以爲く賢よして勇ありとて是より於て始皇李信を問けるは吾攻て楚國を取んと思ふかり將軍は於て度るよ幾何の兵士を用ひて擊平くへきや李信曰二十萬人を用ゆるよ過すと始皇又王翦を問けれり王

翦か曰六十万人は非されい不可なりと始皇兩人の説を聞て曰く王將軍の年老たり何怯きや李將軍果して壯勇其言是なりて遂に李信及び蒙恬を以て二十万人を將として南の方楚を伐しめけり王翦か言用ひられず因て病と謝して歸て故卿の頻陽は老せり扱も季信の二十万人を率て二隊に分れ李信平與は攻掛り蒙恬の寢の地へり攻寄て大に楚の軍を破り李信の鄢郢を攻て之を破り兵を引て西して蒙恬と城父を云地は會せしと楚人後より從ひて三日三夜頓舎休息せず不意に李信の後軍より襲ひ撃て大に李信か軍を破り有壁に入て七都尉を殺しけれの秦軍争か堪ゆへき右往左往より走りけり始皇之を聞くよりも大に怒り自ら馳て頻陽は如き王翦を見て謝して曰く寡人將軍の計を用ひざるを以て李信果して大敗し秦の軍を辱しめたり今聞くと楚の兵日進て西すと將軍病るといへ共獨り寡人を棄る忍んや願く起て軍事を督せよと請ひけるは王翦謝辭してけるは老臣罷病悖乱せり唯大王更に別賢將を擇ひ玉へ始皇謝し曰く己は將軍復固辭する事勿れと頻に請て止さりしかの王翦か曰く大王必ず己むとを得ずして臣を用ひ玉いとならん楚を伐り六十萬人は非れい不可なり始皇か曰く將軍の計を聽とを爲のみ豈他意あらんやと是は於て王翦兵六十萬人は大将たり始皇自ら送て霸上に至る王翦行々美田宅園池を請ふ事甚た衆し始皇曰く將軍行ね何う貧事を憂んや王翦か曰く大王の將となりて功ありとも遂に封侯を得ず故に大王の心の臣は向ひ玉ふは及て臣も亦時及て以て園地を請ひ子孫の業を立んと欲するのみ始皇大

は咲ひける王翦既は關に至り使を以て善き田宅を請しむると五輩も及ひけれの或の曰く將軍の乞貸るも亦甚たしからずや王翦か曰く然らず秦王但て人を信せず今秦國の兵士を悉して専ら我に委ぬ吾多く田宅を乞ひ子孫の業を爲して以て自ら堅くせされい願て王をして坐して我を疑ひしむるのみ王翦李信を代て楚を擧つ楚王翦か軍を益て來ると聞國中の兵を悉して秦を拒く王翦至り壁を堅くして之を守て戦ひ肯せず楚の兵數々出て戦ひを挑むも終り出で戦はず日兵士を休息せしめ洗沐して善く飲食して之を撫循し親士卒と食を同じくす王翦人をして軍中は問しむるは兵士能く戯る、か對て曰く方石を投げ超距て戯むる、ありと告けれの王翦之を聞て今用るは堪たりと戰機を待て有けるは此時までも楚軍の數々戰を挑しも王翦の出ざるより乃ち引て東の方へ兵を退けるを見るより王翦兵と指揮して擧軍六十萬人一同之を追しめ壯士を先鋒と進て之を撃大に楚軍を取り斬の南まで追撃し其將軍項燕を斬りしかの楚の兵遂に大敗績も及ひける秦因て勝り乘して楚の地の城邑を略定し歳餘にして楚王負芻を虜にして竟に楚の地を平けて郡縣とさし因て南の方百越の君を征伐しける又王翦の子王賁は李信と與に燕齊の地を破て之を定めけり秦の始皇二十六年盡く天下を并するの王氏蒙氏功多しとす名後世に施す秦の二世の時王翦及び其子王賁皆已に死して秦又蒙氏を滅す陳勝の秦も反する時秦王剪の孫王離も命して趙を撃しむ趙王及び張耳を鉅鹿城に圍む或人れ曰く王離は秦の名將あり今強秦の

兵と將として新造の趙を攻む之を擧るに必せり客の曰く然らず夫三世將たる者の必ず敗ると必ず敗る、者の何うや其殺伐する所多きか故なり其子孫其不祥を受く今王離の王翦より三世の將なり必敗の時ありと論せしか居ると何くもなくして項羽趙を救ひ秦の軍を撃ち果して王離を虜よせり王離は屬する兵の遂に諸侯は降りり  
太史公か曰く鄢語云く尺も短き所あり寸も長き所ありと白起敵を料り變ひ合ひ奇を出して究りかし聲天下は震へり然れども患を應侯は救ふと能はず王翦秦の將となりて六國を夷け滅せり是の時當て翦の宿將たり始皇之を師とす然るは秦を輔て徳を建其根本を固くすると能す偷くも合て容らるゝとを取り以て身と切するに至る孫王離も及ひて項羽は虜よせらるゝも亦宜ならずや彼各々短所有るなり

孟子荀卿列傳第十四

太史公か曰く余孟子の書を讀て梁の惠王何を以て吾國を利せんと問に至りて未嘗書を廢て歎せずんぬらざるあり曰嗟乎利の誠は亂の始めなり孔子罕り利を言ふ者の常は其原を防ぐなり故も曰く利も放て行へり多く怨ると天子より庶人も至るまで利を好むの弊何を以て異ならんや  
孟軻字の子輿鄒人なり學業を孔子の孫子思の門人受聖人の道既に通達しければ齊の國に至り

宣王は游事せしは宣王用ゆると能す魏國は適しは魏の惠王孟子の言ふ所を果さず見て以て迂遠して事情は濶しとせり是の時當りて秦の國もての商君を用ひ國を富し兵を強くし楚魏の國もての吳起を用ひて戦ひ勝敵を弱ます齊の威王宣王の孫子田忌の徒を用ひて諸侯東面して齊は朝覲せり天下は六國を合從し秦國は連衡するの術を爲し攻伐を以て賢とをせり然るは孟子の孔子の道を守り唐堯虞舜夏殷周三代の徳を祖とし述しかり如く所の者合す退きて萬章の徒と詩書を序て疑難問答し仲尼の意を述て孟子七篇を作る其後騶子の屬あり齊國は三騶子あり其前の騶子の琴を鼓とを以て威王を干し因て國政も及ひ封せられて成侯と爲りて宰相の印を受たり孟子は先づ其次の騶衍孟子より後たり騶衍國を有者益々淫侈にして徳を尙ふと能はざるを睹て大雅之を身も整へ施て黎庶も及ふか若せんとせり乃ち深く陰陽の消息を觀て怪迂の變終始大聖の篇十餘万言を作る其語闕大不經あり必先小物を驗して推て之を大にし根なきに至る先今より以上黃帝に至るまでを序て學者共にする所の術大は世の盛衰の時並て因て其機祥度制を載す推て之を遠し天地未だ生せず窈冥にして考て原へからざるに至る先中國の名山大川通谷禽獸水土の殖する所物類の珍とする所因て之を推し海外人の睹ると能はざる所も及す天地剖判以來五徳轉移し治法各々宜しきと有て符應茲の如きとを稱引して以爲く儒者の謂所中國と云ふ者の天下は於て乃ち八十一分にして其一分は居のみ中國を名けて赤縣神州と曰ふ赤縣神州の内自九



州あり禹王の序する九州是なり州の數とすることを得ず中國の外赤縣神州の如き者九ツ所謂九州なり是は於て裨海ありて之を環り人民禽獸能く相通する者なし一區中の如き者乃ち一州と爲す斯の如き者九ツ乃ち大瀛海ありて其外を環る天地の際なり其術皆此類あり然れども其歸を要するは必ず仁義節儉君臣上下六親の施しに止まる始めや濫のみ王公大人初め其術を見て悞然として顧て之は化せり其後之を行ふと能はず是を以て騶子齊又重せらる梁は適く惠王郊迎し賓主の禮を執る趙は適く平原君側行し敢て正坐せず去て席を撤ふ燕は如く昭王慧と擁して先駟弟子の座は列して學業を受んとを請ひ碣石宮を築て身親ら往て之を師とせり主運の篇を作る其諸侯は遊ひ尊禮せらるゝと如此し豈仲尼陳蔡は饑て菜色し孟軻齊梁は困むと同しからんや故は武王仁義を以て紂を伐て王たり伯夷餓て周の粟を食す衛の靈公陳を問て孔子答へず梁の惠王謀て趙の國を攻んと欲す孟軻太王分を去るとを稱せり此豈世俗は阿り苟も合ふ意あらんや或は曰く伊尹鼎を負て湯王を勉めて以て王とし百里奚牛を車下は針て繆公用て覇たり先合とを作して然る後之を大道は引く騶衍の其言不軌ありと雖も儻の亦牛鼎の意あるか騶衍及ひ齊の稷下の先生淳干髡慎到環淵接子田駟騶奭の徒の如きより各々書を著して治乱の事を言て以て人君を干す豈道は勝へけんや

淳干髡の齊人なり博聞にして強記其學風主とする所なし其諫め説との晏嬰の人と爲りを慕へり

然る人主の意を承其顔色を觀るを務めとせり客の淳干髡を梁の惠王は見しむるあり惠王左右の侍臣を屏けて再ひ之を見しかども終一言も説出さずして退きければ惠王之を怪み客を讓て曰けるの子の淳干先生を稱すると晏嬰も及ひずと寡人を見るは及ての言を發せず寡人得ると有さるなり豈寡人を以て言ふ足すとするかの故り客此言を以て髡は告げれば髡曰く固より然り吾前主は見ゆ王乃志馬を驅逐するは在り後復王は見ゆ王之志音聲は聞は在り吾是を以て黙して説さるきと客具此言を以て之を王は報せしかり王大は駭きて曰く嗟乎淳干先生の誠は聖人なり前は先生の來る時人善馬を獻する者あり寡人未だ視るは及はす先生の至れるは會へり後先生の來る時人讒者を獻せしは未だ其讒を試るは及ひず亦先生の來るは會へり寡人左右を屏けたれども内心實は彼は在たりきとて恐れける後淳干髡見ゆ豈説して三日三夜倦事なし惠王卿相の位を以て之を待んとしけるは髡因て謝して去れり是は於て送は安車駕駟束帛加璧黃金百鎰を以てせり淳干髡終身仕へさりき

慎到は趙人田駟接子。齊人環淵は楚人なり皆黃老道德の術を學へり因て發明して其指意を序つ故は慎到は十二論を著し環淵は上下篇を著述して田駟接子皆論する所あり

騶奭は齊の諸騶子として亦頗る騶衍の説を采て以て文を紀す是は於て齊王之を嘉す淳干髡より以下皆命して列大夫と曰ふ爲は第を康莊の衢は開く高門大屋を列て之を尊ひ寵せり天下諸侯の

賓客を覽るる齊國の能天下の賢士を致すと云言けると云ん  
 荀卿名の況趙人あり年五十にして始て來りて齊に游學せり  
 術の術迂大にして闕辨爽の文具施  
 しかたし淳于髡の久しく與ふ處れの時善言を得るとあり故に齊人  
 騶衍か天事を談するを以て  
 談天術と頌し騶爽か術の文を飾て彫龍の如くするを以て彫龍  
 爽と頌し淳于髡か智盡さるを以て  
 炙輶髡と頌しけり田駢の屬皆已に齊の襄王の時死して荀卿  
 最も老師たり齊尙列太夫の缺た  
 るを脩て荀卿三たひ祭酒の職に至れり齊人或は荀卿を譏する者  
 ありしかは荀卿乃ち楚に適けり  
 楚の春申君荀卿を蘭陵の令となせしは春申君死して後荀卿廢して  
 用ひられず因て蘭陵は家す秦  
 の李斯の之か弟子なり荀卿濁世の政亡國亂君相屬て大道を遂す  
 して巫祝を營み禱祥の語を信し  
 鄧儒の小拘なる莊周等の如きは又滑稽俗を乱とを嫉み是は於て  
 儒者墨者道德の行事興壞を推し  
 序て列ねて數萬言を著して卒せり今の荀子はあり蘭陵に葬る  
 此時趙も亦公孫龍と云ふ者あり  
 て堅白異同の辨を爲せり又劇子の言あり魏は李悝か地力を盡す  
 の教あり楚は尸子長廬と云者あり  
 り阿の吁子あり孟子の如き自吁子に至るまで世も多く其書あり  
 故に其傳を論せずと云ふ蓋墨翟  
 の宋の太夫善守り禦くの術ありて用度を節すると爲せり或は曰く  
 孔子と同時なり或は曰く其  
 後是在りとは亦一家の學風なりと云

孟嘗君列傳第十五

孟嘗君名の文姓は田氏の父を靖郭君田嬰と曰ふ田嬰は齊の威王の  
 少子にして齊の宣王の庶弟  
 かり田嬰威王の時より職に任し事を用ひ成侯鄒忌及び田忌と大將  
 とありて韓の國を救て魏を伐  
 つ成侯田忌と寵を争ふ成侯田忌を賣き罪を得せしめしかは田忌  
 恨れて齊の返邑を襲ひしかども  
 勝すして逃走りけるは威王の卒し宣王の立ふ會し宣王は成侯の田  
 忌を賣りしことを知りし故乃ち  
 復田忌を召して以て將となせり宣王の二年田忌孫臏田嬰と俱に魏  
 を伐て之を馬陵の地に敗り魏  
 の太子申と虜にして魏の大將龐涓を殺せり宣王の七年田嬰韓魏  
 を使す韓魏齊は服し韓の昭侯魏  
 の惠王と齊の宣王は東阿の南に會して盟ひけり明年復梁の惠王  
 と甄ふ會す宣王の九年田嬰齊に  
 相たり齊の宣王魏の襄王と徐州に會して相王とするや楚の威王  
 を聞て田嬰を怒る明年楚伐て  
 齊の師を徐州に敗りて人をして田嬰を逐しむ田嬰張丑を遣て楚  
 の威王に説しめければ威王田嬰  
 を逐ふとを止て田嬰復齊に相たるを得たり相たると十一年にして  
 齊の宣王卒し湣王位に即く  
 位に即くと三年にして田嬰を薛の地に封しける初め田嬰子四十餘  
 人あり其賤妾の子あり文と名  
 く文五月五日を以て誕生しければ田嬰其母を取擧ると勿れと命  
 しけるは母之を棄るる忍ひず窮  
 りけるは吾若し此子を去てしめしむ敢て之を成長させしむ何事  
 うやと曰ければ文其時頓首して  
 因て父に向ひ父君の五月五日の子を長養し玉のぬの故かあると  
 問ふは田嬰五月の子は長戸

通俗史記列傳



持玉ふ所の白狐の裘を玉のるへしさらの妾周旋して君の厄を脱しなんと此時孟嘗君一の白狐の裘ありて直千金天下無雙と稱しける秦も入て之を昭王も献し更も他も裘あし孟嘗君之を忠へ徧く門下の客も問けるも能く對ふる者あし最下の坐も能く狗盜を爲す者あり曰く臣能く白狐の裘を得なんと乃ち夜も至り狗とあり秦宮の藏の中も入て曾て昭王も献せし所の白狐の裘を盗み出し來て孟嘗君も渡しけれの乃ち之を幸姫もこりの献しけり幸姫大も悦ひ爲も昭王も言ひけれの昭王孟嘗君を釋えけり孟嘗君出るを得て取物も取敢ず馳去り封傳を更め名姓を變へて關を出んとす夜半も函谷關も至りけり却て説秦の昭王の後孟嘗君を出すを悔ひ之を求るも已も去ると聞即ち人をして傳馬もて兵を引て之を逐しめけり此時孟嘗君の已も函谷關も至りしも關の法の雞の鳴を相圖も往來を許す定めあれの夜半も争も開くへき孟嘗君追兵の來るを深く恐れ進退已も谷まりける時食客の下坐も居る者雞の鳴聲も妙を得たる者ありて一聲鳴真似を爲しけるは關所民家の畜雞も皆聲を合せて鳴けれの遂も關門を開くと見て傳を發して馳去りけり關を出て食頃ありて秦の追兵果して關所も至るも已も孟嘗君の出るも後けれの他の封内へ兵を出すの憚り有とて皆引伴て歸りけり始め孟嘗君狗盜雞鳴を善する二人を賓客も列せまかバ他の賓客盡く之を羞し孟嘗君か此回の秦の厄難も此二人の者大功を爲したりき是より後賓客皆孟嘗君の人を舍さるも服しけり孟嘗君趙を過て齊國へ歸りけれの趙の平原君之を客とし厚く款待な

しけるも趙人孟嘗君の賢を聞皆出て群集して之を觀しか人々言けるの始め薛公孟嘗君は魁然たる偉丈夫なりと思ひし今之を觀るも乃て眇小ある小丈夫のみとて笑ひけるを孟嘗君聞て怒りけれの客の後車も在る者下りて人民を斫撃て數百人を殺し遂も一縣を滅し去りけると齊の湣王孟嘗君を秦も入れしを深く患ひ己か不徳を歎して有し孟嘗君歸り來るも大も悦ひ即ち宰相と爲し政を任しけり孟嘗君秦を怨むと甚たしかりしも此時齊將も韓魏の爲も楚を攻るを以て因て韓魏と秦を攻て兵食を西周も借んとなしける故蘇代西周の爲も謂て曰く君齊を以て韓魏の爲も楚を攻め九年宛葉以北を取て以て韓魏を強くす今復秦を攻て以て之を益す韓魏南も楚の憂もく西も秦の患無くん齊危からん韓魏必ず齊を輕んし秦を畏れん臣君の爲も之を危む君西周を深く秦も合せまめて君攻むるとなく又兵食を借となきも如す君函谷も臨て攻るとなく西周をして君の情を以て秦の昭王も謂て曰しめん薛公必秦を破りて以て韓魏を強くせず其秦を攻るも王の楚王も東國を割きて以て齊も與へしめて秦楚の懷王を出して和を爲んと欲するなり君西周をして此を以て秦も惠しめ破るるとなくして東國を以て自ら免る、を得るも秦必ず之を欲し願ん楚王出るを得るも必ず齊を徳とせん齊東國を得るも益も強くして薛世も患あからん秦の大も弱からずして三晋の西も處れり三晋必ず齊を重せん薛公か曰く善し因て韓魏をしして秦を賀せしめ三國も攻るとなからしめて兵食を西周も借とを止しけり此時楚の懷王秦も入る秦之を留む故も必

す之を出さんと欲す奉果して楚の懷王を出さす孟嘗君齊はれたる時其舍人魏子孟嘗君か爲よ邑  
 入を収めしよ三反よ及て一入を致さす孟嘗君之を問への射て曰く賢者ありて窃よ之よ假與へた  
 り故を以て入ると致さすと孟嘗君怒て魏子を退けけり居と數年人或の孟嘗君を齊の潛王よ毀  
 て曰く孟嘗君將よ乱を爲さんとせりと田甲か齊の潛王を劫かすよ及て潛王意よ孟嘗君を疑ひけ  
 れの孟嘗君悞て出奔しけり魏子か粟を與へし所の賢者之を聞き上書して孟嘗君乱を作さす請ふ  
 身を以て盟を爲んと遂ま宮門の前よて自ら到て孟嘗君の冤をこり明しけり潛王の驚きて蹤跡  
 を驗問するよ果して叛謀かりしかの復孟嘗君よ召返しけり因て病を謝して歸て孿よ老しけ  
 るよ潛王之を許しけり其後秦の亡將呂禮齊の宰相とあり蘇代を困しめんと欲せしかの代孟嘗君  
 よ謂て曰く周の公子周最の齊よ於ての至て厚かりしよ齊王之を逐ひ退けて親弗の言を容て呂禮  
 を宰相とせし者よ秦よ善せんと欲するかり齊秦合なる親弗と呂禮と重せられん二人齊よ重られ  
 かり秦必ず君よ輕せん君急よ兵を北よし趙を趨して以て秦魏を和し周最を収めて以て自ら其行  
 を厚くし且齊王之信を反し又天下の變を禁するよ如のかり齊よ於て秦なくんの天下齊よ集らん  
 親弗必ず走らん則齊王孰と與よ其國を爲めんと是よ於て孟嘗君其計よ從ぬける故呂禮の孟嘗君  
 を嫉み害しけれの孟嘗君悞れ乃ち秦の宰相穰侯魏丹よ書を遺て曰く吾聞く秦呂禮を以て齊國を  
 収んと欲せよ齊の天下の強國かり子必ず輕られん齊秦相取和して三晋よ臨みなの呂禮必ず并

て相よならん是子齊を通じて呂禮を重せよむるなり若齊天下の兵を免れの子を警とすると必ず  
 深らん子秦王を勸て齊國を伐こりよけれ齊國破れなれ吾請ふらくの吾子の戰て得る所の地を以  
 て子を封しちん齊破れかり秦晋の強きを畏て秦必ず子を重して晋を取ん晋の國齊よ弊て秦を  
 畏れよ秦必ず子を重して晋を取らん是子齊を破て功と爲し晋を挾て重とを爲さん是子齊を破り  
 封を定め秦晋交々子を重せん若齊國破れされの呂禮復用ひられ子大よ困究の地位よ至るへしと  
 の書詞よ穰侯悦ひて秦の昭王を勸て齊を伐しかの呂禮の恐れて亡去けり後齊の潛王宋國を滅し  
 取て益々驕り孟嘗君を去らんと思ひしかの孟嘗君恐て魏の國へ如きけれの魏の昭王大よ悦ひ宰  
 相とこり爲よけり孟嘗君依て西の方秦趙と心を合せ北の方燕と親み共よ伐て齊を破りしかの潛  
 王敗走し都を亡出て莒の地よ在て死しよけり齊の襄王位を嗣て孟嘗君中立して諸侯となり何れ  
 の國へも屬せずしてありぬ齊の襄王新よ王位よ昇り孟嘗君の勢力よ恐怖し與よ連り和睦して復  
 薛公を親みけり文卒す孟嘗君と論せり諸子跡目を争ひて國內騷乱よ及ひしかの齊魏共々薛の  
 國を滅しぬ孟嘗の嗣絶て後ちし初め馮驩孟嘗君か客賓を好めりと聞及ひ驩を履て見えけれの  
 孟嘗君か曰く先生遠く來訪とを辱なくす何と以て吾よ教へ玉ふりや馮驩か曰く君か士を好む  
 と聞き貧窮の身を以て君よ歸したれの何り君よ教るとの有へきやとる答けり孟嘗君之を下等の  
 客舍傳舎と云ふよ置よけり或日孟嘗君傳舎を支配する長よ問けるの新來の客の何をか爲すや答

て曰く馮先生甚た貧し猶一把の劔を所持せりされども劔の候よていと見苦し其劔を弾きて日  
 又歌を調ひて曰く長鉄歸來せんか食ふ魚なしと大聲よて歌へりと告げれり孟嘗君よの衆人との  
 異ある者と思ひ中等の幸舎と云客館へ移しける此館の食客の食ふ常々魚有る例なり五日の後又  
 傳舎の長は問けれり答て馮先生復劔を彈て長鉄歸來せんか出るや興なしと歌を調へりと告げ  
 れり孟嘗君益々怪み之を上等の客館代舎と云ふよ迂しけり此客館の食客の出入は輿車よ乘を例  
 とせり五日の後復傳舎の長は問けれり答へて馮先生又劔を彈きて長鉄歸來せんか以て家を爲る  
 と無しと歌へりと告げれり孟嘗君悦ひす居と期年馮驩言ふ所か孟嘗君時よ齊又宰相たり薛の  
 万戸よ封せらる食客三千人邑入食客を奉し養ふよ足らす人を遣して錢を薛よ出さしむ一年餘よ  
 して一錢も収るとかし錢を貸たる者多し其利息を出すと能す客の奉養已よ絶なんどす孟嘗君  
 之を愛て左右の者よ問けるり何人か債を薛よ往て収來る者か有ると傳舎の長か曰く代舎の食  
 客馮公形容狀貌甚た美しく且辨舌よく長者よして他の伎能かし宜く債を收入しむるよ適任な  
 るへし孟嘗君然かりとて乃ち馮驩を進て之よ請ひて曰く賓客文の不肖を知らす幸ひ又文よ臨み  
 來れる人々三千餘名よ及ひたり故よ邑入賓客よ奉するよ足す利息錢を封内よ出さしむるよ民頗  
 る其利息を與へす今客の食料給せざるを恐ふたり願くは先生之を責て收入られよ馮驩咲てこ  
 の容易の事なりと諾ひ辭して薛へ至り孟嘗君の錢を取る者と召集めけれり皆々會合したりけり

乃ち息錢十方を収入て聽て多く酒を醸し肥たる牛を買ひ諸々の錢を出すへき者と召し能利息を  
 與ふる者も來れ利息を與ふと能はざる者も亦來れ皆錢を取るの券書を持來て此方の券書と合せ  
 よと齊しく會日を定め牛を殺し酒を置き酒酣ある時券書を持出して前の如く之を合せ能く利  
 息を出す者も與よ其日を期め貧くして利息を出すと能はざる者も其券書を取て燒捨て曰ける  
 り孟嘗君錢を貸玉ふ所以の民の無き者の爲よ本業を遂させんか爲あり利息を求る所以の賓客よ  
 奉養すると無きか爲あり今富給する者已よ期約を定めたり貧究ある者も券書を燬て皆之を捐る  
 かり諸君強て飲食せよ君有ると此の如し豈か、る仁惠の君よ負くへけんやと論しけれり一坐の  
 人々皆起て再拜して喜ひ勇みけり孟嘗君馮驩か券書を燒たりと聞くや否や怒て使を以て驢を寄  
 寄せせける故驢の歸來るより孟嘗君か曰く文の食客三千人故よ錢を薛よ貸せり文の奉邑少し而  
 して民尙多く時を以て其利息を與へす客の食料足ざるを恐れ先生よ請ひ之を責収いれしめた  
 りざるを先生錢を得て即ち多く牛酒を具て券書を燒たりとは何事や馮驩か曰く然り多く牛酒  
 を具へされり畢く人民を會すると能す且其有餘と不足を知るとなし餘ある者も期日を約して之  
 を収入足ざる者も守て之を責と十年よ及ふとも利息愈々多くして愈々収入かたからん急よ之を  
 責なり逃亡して自ら之を捐よ至るへし若急よして終よ償ふとなくの上り君利を好て士民を愛  
 せずと爲し下り則上よ離れ負を抵すの名あらしめん士民を勵し進て君の名聲を彰す所以の非

るへし無用虚債の券書を燒き得へからざるの虚き會計を捐て薛の人民よ君を親みて君の善聲を影さ令んと思ふよこり君何の疑ひ玉ふ事やある孟嘗君之を聞て手を拊て之を謝しける齊王秦楚の毀り又惑ひ以爲く孟嘗君名の其君より高して齊國の權を擅しせり恐くの亂を爲んと遂に孟嘗君を廢しける諸客孟嘗君の廢せらるを見て皆退散なしければ馮驩か曰く臣よ車一乘を借せ秦よ入て必ず名を齊國よ重せしめ奉邑を益々廣大ならしめなん孟嘗君乃ち車并幣物を約へて之を遣ける馮驩乃ち西秦王よ説て曰く天下の游士軾又颺り鞞を結ひて西の方秦よ入る者の秦を弱くして東の方齊を弱めんと欲せざる者なし軾又颺り鞞を結ひて東齊よ入る者の齊を強くして秦を弱んと欲せざる者なし此雄雌の國なり勢ひ兩立して雄たると能はじ雄たると能はじ天下を得ん秦王 颺きて問て曰く何を以て秦よ雌たると無らしめて可ならん馮驩よ曰く王も亦齊の孟嘗君を廢するをを知りや秦王か曰く之を聞り馮驩か曰く齊を天下よ重らしむる者の孟嘗君なり今齊王毀を以て之を廢斥せり其心怨て必ず齊よ背かん齊よ背て秦よ入る時の齊國の情人事の誠盡く之を秦國へ明しなん齊の地得へきなり豈唯雄たるのみからんや君急よ使を以幣物を齎し陰よ孟嘗君を迎へ時を失ひ王ふへからす如孟齊よて之を覺り復孟嘗君よ用るとあらん雌雄の在る所未た知るへからざるなりと言ふよ秦王大よ悦ひ乃ち車十乘黄金百鎰を遣りて以て孟嘗君を迎んとす馮驩辭して先よ行り齊よ至り齊王よ説て曰く天下の游士軾又颺り鞞を結ひて東の方齊よ

入る者の齊を強くして秦を弱んと欲せざる者なし軾又颺り鞞を結ひ西の方秦よ入る者の秦を強くして齊を弱んと欲せざる者なし夫齊と秦との雌雄の國よして秦強き時の齊弱からん此勢ひ兩なから雄たりかたし今臣竊よ通路の言を聞くよ秦よての車十乘を遣り黄金百鎰を載て孟嘗君を迎て相の印を授けんとす孟嘗君西秦よ入らされの已まてあり若西よ入つて秦國よ宰相となる時の天下之よ歸せん然る時の秦雄と爲りて齊の雌とあらん雌となる時の臨淄即墨の地の危からん王何り秦の使の未た到らざるよ先て孟嘗君を位よ復し之よ奉邑を益與て以て之を謝し玉いさる孟嘗君必ず喜ひて之を受かん秦強國ありといへとも争か人の宰相を請て之を迎ふると有らんや秦の 謀と折て其霸強の 略を絶ちなん齊王の曰く此計善しとて人よ命して國境よ至り秦の使を候せけるよ秦の使の車適よ齊の境よ入りければ使馳還りて其事を王よ告けるより王直よ孟嘗君を召て宰相の位よ復して其故邑の封地を與へ又益よ千戸の地を以てせり秦の使者孟嘗君復相たりと聞て車を還して去よけり齊王孟嘗君を毀敗し後の諸客皆去りける故復召して之を復し馮驩之を逆へ未た到らざる時孟嘗君太息して歎して曰けるの文常よ客を好り客を遇ふと敢て失なしと思へり食客三千有余人あるの先生の知る所あり客一日文か廢せらる、を見て皆文を背きて去て 願る者あかりき今先生の力よ頼て其位よ復るとを得たりしよ客亦何の面目ありて來て復文を見んや如復文を見る者あらん必ず其面よ唾して大よ之を辱めん馮驩鞞を結ひて下

て拜しけれぬ孟嘗君も車を下り接し曰く先生客の爲に謝するか馮驩か曰く客の爲に謝するもの  
 非ず君か言の失するか爲のみ夫物必ず至るとあり事固より然るとあり君之を知れりや孟嘗君か  
 曰く愚所謂を知らず先生幸ひも教へよ馮驩か曰く生る者の必ず死あるもの物の至る者なり富貴も  
 して士多く貧賤にして友寡き事固より然る者あり君獨夫の朝も市も趨く者を見玉のすや明  
 且も肩を側て門を争ひて入る日暮の後市を過る者臂を掉ひて顧す人の朝を好て暮を惡むも  
 の非ず期して利する所の物其中に亡くなり今君位を失へば賓客皆去るも以て士を怨るも足らず  
 して徒に賓客の路を絶へ大に不可なり願くは君客を遇ふと故の如くし玉へ孟嘗君再拜して曰く  
 敬んで命を從へん先生の言を聞て敢て教を奉ららんや  
 大史公か曰く吾嘗て薛の地を過し其風俗閭里より率ね暴桀ある子弟多し鄒國魯國と殊あり其  
 故を問へり曰く孟嘗君天下の任俠姦人を招き致め薛に入れたると蓋し六万餘家なりと世の孟嘗  
 君客を好み自喜と傳ふるも其名虚からずと謂へし

平原君虞卿列傳第十六

平原君趙勝の諸公子あり諸子の中は於て趙勝最も賢にして賓客を喜めり賓客蓋し至る者數  
 千人なり平原君趙の惠文王及び孝成王は相となり三たひ宰相の位を去三たひ其位も復したり東  
 武城は封せらる平原君の樓は民家も臨て有けるも民家も賢ありて樂散として行て水汲みけ

これ平原君の美人樓上より居り臨み見て大に之を笑ひけり明日覺者平原君の門に至り請ひけるも  
 臣君の士を喜むと聞く士の千里を遠しとせずして至る者の能く士を貴ひて妾を賤しむを以  
 てあり臣不幸にして罷瘞の病あり而るを君の後宮の美人臣を笑へり臣願ひ臣を笑ふ者の頭を  
 賜りたしと言けれぬ平原君咲て應て曰く諸賢者平原君の諾するを聞て去りまけり後また平原  
 君咲て此豎子を觀よ一笑の故を以て吾か寵愛の美人を殺さんと欲す亦甚しからずやとて終に殺  
 して有けるも一歳餘を経て賓客門下舍人稍々も引去る者半も過けり平原君怪み訝りて勝か諸君  
 を待ふ所以の者未だ嘗て敢て禮を失ひず而も去る者日々も多きも如何ある事りと憂へけれぬ門  
 下の一人前て對て曰く是他も故あるも非ず君の賢者を笑へる美人を殺し玉のぬも以の故も君の  
 女色を愛して志士を賤むとして士皆去しのみ平原君之を聞て大に愕き即時も賢者を笑し美人の  
 頭を斬て自ら門を造りて賢者も進め因て謝をなしけれぬ其後門下の者復稍々と復り來りける是  
 時齊國より孟嘗君あり魏より信陵君あり楚より春申君ありて故も相傾て争て士を待何れも食  
 客數千人に至りける趙の惠文王の九年秦國兵を舉て趙の都の邯鄲を圍みけれぬ趙王平原君も救  
 を求め楚も合從せしむ食後門下の士の勇力ありて文武の才を供具たる者二十人と借り往んと約  
 し平原君言けるも文能く勝を取しめり善し文も勝を取ると能はずん血を華屋の下に軟り必  
 ず從約を定て還るとを得ん士の外より索めず食客門下も取りて足ぬへしと選定て十九人を得た





り其餘の取るべき者ありし以て二十人満るとかし門下も毛遂と云者前みて平原君より自ら賛て曰く遂君か將も楚も合從せんとするを聞き食客門下の士二十人と借よせんと約し外より索むるとなく今十九人を得て一人を少と願く君即ち遂を以て員も供て行き玉へ平原君か曰く先生勝の門も居ると此も幾年もなるや毛遂か曰く己も三年も及びぬ平原君か曰く夫賢士の世も處や譬の錐の囊中も處るが如し其末立も見る、者あり今先生勝の門下も處と此も三年もして左右の者先生の才を稱誦する者なし勝未だ聞く所有らず是先生有る所なきなり先生能はず先生留まれ毛遂か曰く臣乃ち今日囊中も處るを請のみ遂も蚤く囊中も處るとを得せしめ乃ち顛脱て出せん特も末の見る々のみよ非すかしと頻も請て止されぬ平原君も竟も毛遂も借よするを命しけり十九人の者共の相與も目を以て知せ合心も之を笑ひしも己も平原君の命せし事故毛遂を廢とるも爲さりき毛遂楚も至る比ひ十九人と論議するも十九人皆毛遂の智略も服しぬ借も平原君楚の朝廷へ出て共も合從せんものと其利害を論するも日の出より事を議し日中も及へども決せず十九人毛遂も向ひ先生堂も上れと促しけれぬ毛遂劍を按て階階して上り平原君も謂て曰く合從の利害も兩言して決せんのみ今日の出よりして從を論ま日中まで決せざる何事や楚王之を見て平原君も向ひ客の何爲者なるや平原君か曰く是勝の舍人あり其時楚王叱て曰く胡り堂を下さる吾而の君と言も汝何爲者無禮ありと怒りけれぬ毛遂劍を按て前て曰く大王の遂を

叱玉ふ者の楚國の衆兵を頼とするあり今王と遂との十歩の間のみ一躍り躍りあり吾か劍も王の身も至りなん楚國の大兵を恃みとし玉ふとを得ずさらぬ王の命も此遂も掌も在り吾君平原君前も在りざるを妄も叱り玉ふの何事ぞや且遂之を聞き湯の七十里の地を以て天下も王たり文王の百里の壤を以て諸侯を臣とせり豈其士卒の衆多ならんや誠も能く其勢ひも據て其威も奮へんあり今楚の地の方五千里戟も持者百万あり此霸王の資なり楚の強きと天下當ると能はず然るも秦の白起の小豎あるも數萬の衆を率て師を興し以て楚と戦ひ一戦して鄢郢の地を擧再戦して夷陵の窟を燒き大王の先王を辱めたり此楚の百世の怨もして吾趙國も於ても貴國の爲も深く差る所あり大王秦を惡むとを知り玉のす合從する者の楚の爲もす趙の爲も非すかし吾君平原君前も在り叱し玉ふとかいと壯語大聲威風凜々として論しけれぬ楚王の此時唯々と諾し誠も先生の言の如し謹て社稷を奉して以て從ぬん毛遂か曰く從約定るか楚王の曰く定れり毛遂楚王の左右も謂て曰く雞狗馬の血を取來れ毛遂銅の盤を奉て跪て之を楚王も進て曰く王當も血を飲て從を定むへし次の吾君次の遂も從を殿上も定む毛遂左の手も盤の血も持ちて右の手も十九人を招て曰く公等相與も此血を堂下も飲れ公等の碌々たり所謂人も因て事を成す者ありと平原君已も從を定て歸り歸りて趙も至りて曰く勝敢て復士を相せず勝か士を相する事多き者の千人寡き者の百數自ら以て天下の士を失はずと今乃て毛先生も於て之を失へり毛先生一たひ楚も至

りて趙國を九鼎大呂より重からしむ毛先生三寸の舌を以て百万の師よりも強し勝取て復士を相せずと遂に以て上客となせり平原君既して趙に返る楚從約の定まるを以て春申君を大將として赴きて趙を救ひし魏の信陵君も亦矯て晋鄙の軍を奪ひ來て趙を救ひんとす皆未だ至さざるは秦急は邯鄲を圍む邯鄲急にして且降んとす平原君甚た之を患ふ邯鄲の傳舎の吏の子李同と云ふ者平原君に説て曰く君趙國の亡るを憂へ玉にさるか平原君の曰く趙亡ふる時の勝虜とならん何爲り憂へざらんや李同曰く邯鄲の民骨を炊き子を易て食ふ急なりと云へし而るは君の後宮の美人百を以て數ふ婢妾綺縠を被り梁肉を餘して民の褐衣も完からず糟糠もすら厭す民困み兵盡たり或は木を割て矛となし矢と爲の時在りて君か器物鐘磬自若かり秦は趙を破らしめり君安ら此を有つとを得ん趙は全きとを得せまめり君何り有る無とを患へん今君誠能く夫人以下を士卒の間編入れ功を分て作し家の有る所の悉く散して士を饗しかり士其危苦の時當て恩徳を爲し易きのみ平原君之を聞て大に服し之に従ひければ敢死の士三千人を得たり李同遂は此三千人と秦の軍に赴けるは秦の軍此必死の勇ひは辟易して兵を卻ると三十里及ふ處へ楚魏の援兵の至るは會し秦兵は遂に罷て邯鄲の都に復も存しけり此時李同の惜むへし秦軍へ撃入て國の爲に戰死を遂ければ乃ち其父を封して李侯と爲しよけり虞卿魏の信陵君の邯鄲を存するを以て平原君の爲に封邑を請んと欲せしかは公孫龍之を聞夜駕して平原君を見て曰く龍之を聞く虞卿

信陵君の邯鄲と存するを以て君か功とあして君か爲に封邑を請んと欲すと之有るか平原君の曰然と公孫龍曰く此甚た不可あり且王君を擧て趙に相とする者の君か智を以て趙國は有と無しとするは非す東武城を割て君と封する者の君を功ありとして國人を以て勳あしとするは非す君か親戚たるを以ての故なり君宰相の印を受て無能を辭せず地を割て無功を言さる者の亦自ら親戚たるを以ての故なり今信陵君邯鄲の都を存して封邑を請ふは是親戚城を受て國人功を計るあり此甚た不可あり且虞卿其兩權を操り益封の事成れば右券を操て以て其報を君に責め事成らざる時の虚き名を以て君に恩徳ありたりとせん君必ず彼か説を聽容玉ふと勿れ平原君遂に虞卿の言を聽さるべき平原君趙の孝成王の十五年を以て卒せり子孫代り續て竟に趙と俱に亡ひける平原君厚く公孫龍を待ふ公孫龍善壁白の辨を爲す鄒衍か趙を過りて至道を言ふは及び痛く公孫龍を細けゝるとかや虞卿の游説の士あり躡を躡み笠を擔て趙に至り孝成王に説く一たび見へて黄金百鎰白璧一双を賜ひ再たひ見へて趙の上卿となる故に號して虞卿となす秦趙長平は戰ふ趙勝す一都尉を亡ふ趙王樓昌と虞卿とを召して曰く軍戰ひ利あらず都尉復死す寡人國乃甲兵を束ね悉して之に趨かしめんと思ふは如何と樓昌曰く益なきなり重使を發して和媾を爲すは如す虞卿曰く昌か和媾を言ふ者の和媾せざれば軍必破れんと以爲はなり而して和媾を制する者秦は在り且王の秦を論

するの趙の軍を破らんと欲するか不さるか王の曰此回の戦ひ秦人餘力を遣さす必ず且我軍を破らんと欲するからん虞卿か曰く王臣よ聽なり使者を發し重寶を出して楚魏の二國よ附こよからん楚魏王の重寶を得んと欲して必ず吾か使を内へし趙の使楚魏よ入れの秦必ず天下の合從するかと疑ひて且必ず恐あん此の如くなれば乃ち和媾の事爲るへきあり趙王其言を聽ひす平陽君と相議して和媾を爲し鄭朱と云ふ者を發して秦よ入らしむ秦鄭朱を内けれの趙王大よ心を安し虞卿を召て曰く寡人平陽君よ和睦の事を計いせ鄭朱と秦へ遣しよ秦已よ鄭朱を内たりき卿以て奚若と思ふや虞卿對へて其事就し軍必ず破れかん天下の戰勝を賀する者皆秦よこころあるへけれ鄭朱の貴人なり秦よ入れの秦王と應侯と必ず與よ鄭朱を顯重の位よ置て以て天下の人よ示へしさる時の楚魏の二國の王の秦と和媾する者として必ず趙を救いし秦天下の王を救はざる事を知る時の和媾破るゝと掌を指か如しと論えけるか應侯果して鄭朱を顯重の位よ置きて以て天下の戰勝を賀する者よ示して終よ和媾を肯せさりき趙軍長平の戦ひよ大よ敗れて遂よ邯鄲の都城を圍まれ天下の笑とありよけり秦既よ邯鄲の圍を解て趙王遂よ秦よ入朝よ趙郝よ和媾を秦よ約し六縣を割て成事を計りけるよ虞卿趙王よ謂て曰く秦の王を攻るや倦て歸るか將其兵力尙能進も王を愛して攻さるか王の曰く秦の我を攻るの餘力を遣さす必ず倦を以て歸しからん虞卿か曰く秦其力を以て其取ると能はざる所を攻め倦て歸る王又其力の取ると能はざる所の土地を送

る是秦を助て自ら攻るなり來年秦復王を攻あひ王救ひかたけん王虞卿の言を以て趙郝よ告けれの趙郝か曰く虞卿誠よ能く秦の力の至る所よ盡し知るか誠よ秦の力の進と能はざる所を知るととせの此六縣の彈丸の如きの小なる土地を予へすして秦をして來年復王を攻しめり王其内を割て媾すると無きを得んや熟と高察有へしと虞卿か論を駁せしかり王の聽て請ふ子の議よ從て之を割んされと子能必ず來年秦の我を攻さるとを保するか趙郝の敢て任する所よ非す他日三晋の秦國よ交はるの相善かりしも今秦韓魏を善して王を攻るの王の秦よ事する所乃韓魏よ及はざるならん今臣王の爲よ負擔を解き親ら其身を攻め關を開き幣を通し交を韓魏よ齊くせしとても來年よ至て王獨り攻を秦よ取るとあらん此の王の秦よ事する所の必ず韓魏の後よ在る故なり此臣の敢て任する所よ非すと答へける王復以て虞卿よ告けれの虞卿か曰く郝の向よ和媾せざる時の來年秦復王を攻ん王其内地を割て和媾すると無きを得んやと言ひしからすや今又郝の言よ和媾せざると秦の復攻さるとを保せずとされの今六縣を割ても何の益かあらん來年復攻の又其力の取ると能はざる所を割て和媾せの此自ら盡るの術のみ故よ臣の媾すると無きよ如すと思ふなり秦善く攻むるとも六縣を取ると能はず趙守ると能はずとも終よ六縣を失す秦倦て歸れり兵必ず罷れなん我六縣を以て天下の諸侯を収て罷たる秦よ攻めり是我六縣を天下よ失ひて償を秦よ取るなり吾國尙利あり坐して地を割自ら弱して秦を強くすると孰れりや今郝か言ふよ